

科目名	教育実習事前・事後指導（理数情）（FC06Z310）
英文科目名	Guidance for Teaching Practice
担当教員名	塗木利明（ぬるきとしあき）、安藤豊*（あんどうゆたか*）、草野泰秀*（くさのやすひで*）、岡本弥彦（おかもとやすひこ）、石井一郎*（いしいいちろう*）、荒尾真一*（あらおしんいち*）、津田秀哲*（つだひでのり*）、福田博人（ふくだひろと）、藤本義博（ふじもとよしひろ）
対象学年	3年
開講学期	秋学期
曜日時限	集中講義 その他
対象クラス	社会情報学科（～16）
単位数	2.0
授業形態	講義

回数	授業内容
1回	講義の概要を説明する。 （塗木 利明、岡本 弥彦、藤本 義博、福田 博人、津田 秀哲*）
2回	教育実習にあたって生徒指導に触れながら全体の概要を説明する。 （塗木 利明）
3回	教育実習にあたって教科指導法を中心に説明する。 （塗木 利明）
4回	特別活動について人権・同和教育を中心に説明する。 （安藤 豊*）
5回	学習指導案の作成法を説明する。Chr10Chr10 （岡本 弥彦、藤本 義博、荒尾 真一*、福田 博人、石井 一郎*、津田 秀哲*、草野 泰秀*）
6回	学習指導案の事例を解説し検討する。 （岡本 弥彦、藤本 義博、荒尾 真一*、福田 博人、石井 一郎*、津田 秀哲*、草野 泰秀*）
7回	学習指導案を作成する。 （岡本 弥彦、藤本 義博、荒尾 真一*、福田 博人、石井 一郎*、津田 秀哲*、草野 泰秀*）
8回	学習指導案の板書計画を作成する。 （岡本 弥彦、藤本 義博、荒尾 真一*、福田 博人、石井 一郎*、津田 秀哲*、草野 泰秀*）
9回	学習指導の実践と研究協議を実施する。（1回目） （岡本 弥彦、藤本 義博、荒尾 真一*、福田 博人、石井 一郎*、津田 秀哲*、草野 泰秀*）
10回	学習指導の実践と研究協議を実施する。（2回目） （岡本 弥彦、藤本 義博、荒尾 真一*、福田 博人、石井 一郎*、津田 秀哲*、草野 泰秀*）
11回	学習指導の実践と研究協議を実施する。（3回目） （岡本 弥彦、藤本 義博、荒尾 真一*、福田 博人、石井 一郎*、津田 秀哲*、草野 泰秀*）
12回	学習指導の実践と研究協議を実施する。（4回目） （岡本 弥彦、藤本 義博、荒尾 真一*、福田 博人、石井 一郎*、津田 秀哲*、草野 泰秀*）
13回	学習指導の実践と研究協議を実施する。（5回目） （岡本 弥彦、藤本 義博、荒尾 真一*、福田 博人、石井 一郎*、津田 秀哲*、草野 泰秀*）

	秀＊)
1 4 回	教員採用試験合格体験を聴講し、成果と課題をまとめる。Chr10Chr10 (塗木 利明,岡本 弥彦,藤本 義博,福田 博人,津田 秀哲＊)
1 5 回	教育実習後に体験発表会に参加し、報告書を作成する。Chr10Chr10 (塗木 利明,岡本 弥彦,藤本 義博,福田 博人,津田 秀哲＊)

回数	準備学習
1 回	本講義の授業内容、目的、達成目標等をシラバスで確認しておくこと。併せて「教職・博物館学芸員課程履修の手引き」を読み、本講義の位置づけを確認しておくこと(標準学習時間180分)。
2 回	前回の講義を振り返り内容を整理しておくこと(標準学習時間60分)。「生徒・進路指導論」を復習し課題を持って授業に臨むこと(標準学習時間120分)。
3 回	前回の講義を振り返り内容を整理しておくこと(標準学習時間60分)。自分の教科の「教科教育法」を復習し課題を持って授業に臨むこと(標準学習時間120分)。
4 回	前回の講義を振り返り内容を整理しておくこと(標準学習時間60分)。「特別活動の理論と方法」を復習し課題を持って授業に臨むこと(標準学習時間120分)。
5 回	各教科担当者の指示に従うこと(標準学習時間180分)。
6 回	各教科担当者の指示に従うこと(標準学習時間180分)。
7 回	各教科担当者の指示に従うこと(標準学習時間180分)。
8 回	各教科担当者の指示に従うこと(標準学習時間180分)。
9 回	各教科担当者の指示に従うこと(標準学習時間180分)。
1 0 回	各教科担当者の指示に従うこと(標準学習時間180分)。
1 1 回	各教科担当者の指示に従うこと(標準学習時間180分)。
1 2 回	各教科担当者の指示に従うこと(標準学習時間180分)。
1 3 回	各教科担当者の指示に従うこと(標準学習時間180分)。
1 4 回	前回までの内容から得られた結果と課題を整理すること(標準学習時間180分)。Chr10
1 5 回	教育実習終了後すぐに気づいた点を書き出して発表会に備えること(標準学習時間180分)。Chr10

講義目的	この講義は「教育実習」の事前・事後の指導に関するものである。事前指導は「教育実習の現場実習」に向けた心のリハーサル(あるいはプレ現場実習)の意味を込めて行い、事後指導は現場実習を終えた後に教育実習の総まとめを行うものであり、有意義な教育実習を目指し教職への意欲を高めることを目的とする。Chr10(教職・学芸員センター教育課程編成・実施の方針E-1, 2にもっとも強く関与している)
達成目標	(1)事前指導では学習指導案や板書計画が作成でき、学校現場を想定した模擬授業ができること。Chr10(2)事後指導では現場実習の反省が活かせること。
キーワード	プレ現場実習、教育実習
成績評価(合格基準60)	事前指導では課題のレポートや学習指導案(80%)、事後指導では授業観察等のレポート(20%)により成績を評価し、事前指導と事後指導を併せて総計で60%以上を合格とする。
関連科目	教育実習、教育実習
教科書	使用しない。(各教科担当者の指示に従うこと)
参考書	必要に応じて講義中に提示する。
連絡先	各教科担当者の研究室または非常勤講師室
注意・備考	・事前指導の終了時に、R(保留)かE(不認定)のいずれかの評価が付き、E判定は教育実習が認められない。 ・提出課題・レポートについては各担当者により次時の授業で発表や討論して深化させたり、添削した後に返却したりするなどの方法でフィードバックする。
試験実施	実施しない

科目名	経営戦略(再)【月1水1】(FIV1A210)
英文科目名	Management Strategy
担当教員名	山口隆久(やまぐちたかひさ)
対象学年	2年
開講学期	春1
曜日時限	月曜日 1時限 / 水曜日 1時限
対象クラス	社会情報学科(～16)
単位数	2.0
授業形態	講義

回数	授業内容
1回	オリエンテーション。講義の進めを説明する。経営戦略の概論について説明する。
2回	企業戦略(経営戦略、マーケティング戦略)策定の要件について説明する。
3回	全社戦略(経営理念、ビジョン、ミッション)について説明する。
4回	事業ポートフォリオ、多角化戦略、情報戦略について説明する。
5回	事業戦略(戦略分析)について説明する。
6回	競争優位理論について説明する。
7回	外部環境分析、内部環境分析について説明する。
8回	基本戦略と戦略パターンについて説明する。
9回	グローバル戦略(M&A)について説明する。
10回	製品開発に消費者が積極的に参加する事例を挙げ、消費者との価値創造について説明する。
11回	戦略と組織の変革について説明する。
12回	戦略と財務(1)(経営成果、コーポレート・ガバナンス、企業価値)について説明する。
13回	戦略と財務(2)(ケーススタディ)について説明する。
14回	企業戦略のまとめと展望(可能性)について説明する。
15回	企業戦略のまとめと展望(限界点)について説明する。
16回	1回～15回までの総括を行い、最終評価試験を実施する。

回数	準備学習
1回	授業内容の確認と復習 経営戦略の役割について予習しておくこと(標準学習時間90分)
2回	企業における戦略の機能について復習すること(標準学習時間90分)
3回	企業戦略の役割や形態について復習すること 経営戦略、マーケティングという用語について予習しておくこと(標準学習時間90分)
4回	企業における経営理念の役割や形態について復習すること(標準学習時間90分)
5回	多角化戦略の特徴について復習すること ヤマハのケーススタディを再度確認すること (標準学習時間90分)
6回	戦略分析の役割や形態について復習すること 教科書などにより戦略分析の種類や方法を調べておくこと(標準学習時間90分)
7回	競争優位戦略について復習すること 教科書などによりマイケルポーターの競争論を確認しておくこと(標準学習時間90分)
8回	外部環境、内部環境分析について復習すること なぜ企業は環境分析を行うのか、その理由を考えておくこと(標準学習時間90分)
9回	戦略パターンについて復習すること、トヨタの事例を再度復習しておくこと(標準学習時間90分)
10回	M&Aの特徴について復習すること 大規模M&Aと中小規模M&Aの違いについて予習すること(標準学習時間90分)
11回	価値創造とは何か、について復習すること(標準学習時間90分)
12回	組織論の理論について復習すること 大企業の組織論の変遷について再度、確認しておくこと(標準学習時間90分)
13回	コーポレート・ガバナンスについて復習すること (標準学習時間90分)
14回	事例研究の財務状況について復習すること これまでの章を再度、読み返しておくこと(標準学習時間90分)
15回	事例研究の財務状況について復習すること これまでの章を再度、読み返しておくこと(標準学習時間90分)
16回	1回～15回までの内容をよく理解し整理しておくこと(標準学習時間90分)

講義目的	本講義では、理論を説明した後、残り6回の講義では、7～8名程度のグループに分かれてビジネスプラン策定のワークショップを開催する(産学連携による問題発見 解決型学習(PBL; Pr
------	---

	problem-Based Learning)を行う場合もある)。 企業経営の重要な柱である企業戦略(経営戦略、マーケティング戦略)の基礎理論を中心に学習し、ビジネス戦略の構築にあたって重視すべき実務内容の考察に反映させる。具体的には、販売の企業活動の総括としての位置づけを概説し、マーケティング戦略の近代化・科学化が経営戦略の柱となっている実態を論じる。企業戦略(経営戦略、マーケティング戦略)の基礎理論と現代的な課題を理解し、ビジネス実務において考慮すべき企業活動の変容について学ぶ。(社会情報学科の学位授与方針項目C,Fにもっとも強く関与、項目Bに強く関与)
達成目標	企業戦略(経営戦略、マーケティング戦略)の基本的な考え方を理解し、企業の構造と関連付けて把握して欲しい。また、グループでのワークショップによって、組織対応力、コミュニケーション能力、プレゼンテーション力を身につけてほしい。
キーワード	経営戦略、マーケティング、市場調査、消費者行動、広告戦略
成績評価(合格基準60)	グループワーク作業による成果物(50%)、最終評価試験(50%)
関連科目	1年次「経営学基礎」、「商学基礎」を受講していることが望ましい。
教科書	1からの戦略論(第2版)/嶋口・内田・黒岩/碩学舎/978-4-502-16741-6
参考書	適宜、指示する。
連絡先	A1号館7F 山口研究室
注意・備考	備考 (1)試験は最終評価試験期間に行い、試験形態は筆記試験とする。(2)課題(レポートや小テスト)に対するフィードバックは、講義中に行うこととする。(3)講義中の録音/録画/撮影は他の受講者の妨げにならない限り自由とするが、他者への再配布(ネットへのアップロードを含む)は禁止する。
試験実施	実施する

科目名	ネットワーク入門【月1水1】(FIV1A310)
英文科目名	Introduction to Computer Network
担当教員名	大田靖(おおたやすし)
対象学年	3年
開講学期	春1
曜日時限	月曜日 1時限 / 水曜日 1時限
対象クラス	社会情報学科
単位数	2.0
授業形態	講義

回数	授業内容
1回	オリエンテーション及び、TCP/IPによるコンピュータネットワークの仕組みを学ぶ。
2回	コンピュータネットワークで使用されるIPアドレスを知ること、数字の意味を理解する。
3回	IPアドレスの構造やネットマスク、アドレスの種類といったIPアドレスの仕組みを理解する。
4回	TCP/IPネットワークによる通信を支えるルーティング技術及び、通信で使用する機器について説明する。さらに、ルーティングに関するコンピュータ設定を確認する。
5回	経路選択で用いられるルーティングテーブルの設定方法および管理方法を学習する。
6回	小テストを行うので、第1回から第5回までの内容をよく理解し整理しておくこと。試験終了後に 出題内容について理解する。
7回	TCP/IPネットワークにおけるパケットによるデータのやり取りについて学習する。
8回	TCP/IPネットワークにおいて大切なTCPとUDPというの技術について学習する。
9回	TCPとUDPの使い分けについて説明と、ネットワークにおいて様々な種類のデータのやり取り をするための仕組みであるポート、ポート番号について学習する。
10回	小テストを行うので、第7回から第9回までの内容をよく理解し整理しておくこと。試験終了後に 出題内容について理解する。
11回	ICPM(インターネット制御通知プロトコル)を利用したコンピュータネットワークの状態を調 査する方法について理解する。
12回	ネットワーク上のデータのやり取りで重要な役割を果たしているDNSやHTTPといった代表的 なプロトコルについて理解する。
13回	TCP/IPネットワークにおけるレイヤー構造について解説し、各レイヤーの役割をTCP/I PモデルとOSI基本参照モデルについて理解する。
14回	ネットワークインターフェイス層の役割について理解する。
15回	最終評価試験を行う。
16回	フィードバックを行う。

回数	準備学習
1回	LANとWANの違いと調べておくこと。(標準学習時間60分)
2回	PCのネットワーク設定に必要な情報を調べておくこと。(標準学習時間90分)
3回	第2回の授業で学習したIPアドレスの構造をしっかりと理解しておくこと。(標準学習時間90分)
4回	ルーティング技術のイメージをしっかりとつかんでおくこと。(標準学習時間90分)
5回	第4回授業で学習したルーティングについて理解をしておくこと。(標準学習時間60分)
6回	これまでの講義内容をしっかりと復習すること。(標準予習時間90分)
7回	パケットの意味を理解しておくこと。(標準学習時間60分)
8回	TCPとUDPの違いを理解しておくこと。(標準学習時間90分)
9回	TCPとUDPについて復習しておくこと。さらに、ポート、ポート番号について調べておくこと 。(標準学習時間90分)
10回	第7回から第9回までの講義内容をしっかりと復習すること。(標準予習時間120分)
11回	コンピュータネットワークにおけるサーバとクライアントの役割を予習しておくこと。(標準学習 時間60分)
12回	自分の使っているコンピュータの接続先がどこであることを教科書にあるコマンドを使って調べてお くこと。(標準学習時間90分)
13回	コンピュータネットワークにおいて何故レイヤー構造が必要であることを予習しておくこと。(標準 学習時間90分)
14回	MACアドレスとは、どのようなアドレスであるかを予習しておくこと。(標準学習時間90分)
15回	1回～14回までの内容をよく理解し整理しておくこと。(標準学習時間180分)

講義目的	コンピュータネットワークについて、その原理や機構を学ぶ。具体的には、ネットワークの基本で あるプロトコルの階層構造と各レイヤーの役割、インターネット通信プロトコルであるTCP/I Pなどパソコンで実装されているハードウェアとソフトウェア技術について理解した後、代表的な インターネットサービスについて学習する。さらに、情報セキュリティ技術やネットワークで実
------	---

	装されているルーティング技術の基礎的な事項について学習する。本講義では随時実習を行い、より実践的な知識と技術の習得を目指す。（社会情報学科の学位授与方針項目 C、F にもっとも強く関与、学位授与方針項目 B に強く関与する）
達成目標	コンピュータネットワークの基本用語と基本プロトコルの理解すること コンピュータ上のアドレスを理解すること Webやメールの仕組みを理解すること
キーワード	IPアドレス、TCP/IP、ルーティング
成績評価（合格基準60	課題提出 20%、小テスト20%、最終評価試験 60% によって成績を評価し、総計で60%以上を合格とする。
関連科目	システム管理
教科書	特に使用しない。講義中に資料等を配布する。
参考書	講義中に適宜紹介する。
連絡先	A1号館8階 大田研究室（yota@mgt.ous.ac.jp）
注意・備考	
試験実施	実施する

科目名	情報科学(再)【月3水3】(FIV1C110)
英文科目名	Information Science
担当教員名	水谷直樹(みずたになおき)
対象学年	1年
開講学期	春1
曜日時限	月曜日 3時限 / 水曜日 3時限
対象クラス	社会情報学科(～16)
単位数	2.0
授業形態	講義

回数	授業内容
1回	オリエンテーションとして、講義の概要を説明する。
2回	データサイエンス分野を学ぶ上で必要となる数学を学ぶ。(1)
3回	データサイエンス分野を学ぶ上で必要となる数学を学ぶ。(2)
4回	データサイエンス分野を学ぶ上で必要となる数学を学ぶ。(3)
5回	コンピュータの進化の歴史について説明する。
6回	コンピュータ関連分野における各種の規格とデファクト・スタンダードについて説明する。
7回	コンピュータにおける情報の表現方法について説明する。
8回	インターネットのしくみを説明する。
9回	WWWおよび検索エンジンについて説明する。
10回	電子メールについて説明する。
11回	クラウドコンピューティングについて説明する。
12回	モノのインターネット化と人工知能の活用について解説する。
13回	電子商取引と電子決済・電子マネーの動向について解説する。
14回	情報関連法規とセキュリティについて解説する。
15回	全体のまとめを行う。
16回	最終評価試験を実施する。

回数	準備学習
1回	日常生活において、コンピュータあるいはスマートフォンをどのようなことに使っているか、またその際に使うプログラム名またはアプリ名をリストアップしておくこと。(標準学習時間1時間)
2回	連立方程式(線形、3変数まで)の解き方を復習しておくこと。連立不等式(線形、2変数)の解き方を復習しておくこと。(標準学習時間1.5時間)
3回	1次関数 $y = ax + b$ で、 a および b の値が与えられた場合に、グラフが書けるように復習しておくこと。ルート(平方根)、シグマ記号(総和)の意味を確認しておくこと。(標準学習時間1時間)
4回	順列、組み合わせ、確率について復習しておくこと。(標準学習時間1.5時間)
5回	コンピュータおよびインターネットが誕生した社会背景およびコンピュータの進化のスピードを説明できるようにしておくこと。 コンピュータおよびスマートフォンのOSとしてどのようなものがあるか調べておくこと。(標準学習時間1時間)
6回	ネットワーク外部性について復習を行うこと。 デジタルとアナログの違いについて予習を行うこと。(標準学習時間1.5時間)
7回	コンピュータ内部における各種情報がどのように表現されているか復習すること。 コンピュータをインターネットにつなぐ際の設定項目について調べておくこと。(標準学習時間1.5時間)
8回	IPアドレスの意味、ルーター、DNSの役割について復習すること。 ブラウザでサイトを閲覧する際に、ブラウザのアドレスバーに表示されるアドレスの特徴をつかんでおくこと。(標準予習時間1時間)
9回	プロトコルおよびHTTPについて復習を行うこと。 代表的検索エンジンであるGoogleとYahoo!を使って同一用語を検索して、広告表示など両検索エンジンが表示する結果の違いを確認しておくこと。(標準学習時間1.5時間)
10回	電子メールに関する問題点を復習すること。 データベースを活用することによって実現されているサービスを列挙しておくこと。(標準学習時間1.5時間)
11回	アプリケーションソフトの中のブラウザの位置づけについて復習を行うこと。 人工知能の応用例を調べておくこと。(標準学習時間1.5時間)
12回	コンピュータ以外のものがインターネットにつながるものの利便性について復習しておくこと。 電子マネーとしての学生証または交通系カードにおける金銭授受の手続きを説明できるようにして

	おくこと。(標準学習時間1時間)
1 3 回	電子商取引の利便性について復習しておくこと。 インターネットを利用する際に必要となるセキュリティに関する知識を整理しておくこと。(標準学習時間1.5時間)
1 4 回	コンピュータ利用におけるセキュリティ水準向上のための方策について復習を行うこと。 情報リテラシーのうち、コンピュータ・リテラシーとメディア・リテラシーのそれぞれを説明できるようにしておくこと。(標準学習時間1.5時間)
1 5 回	これまで学んできた内容の中で、理解できていないところを明確にしておくこと。(標準学習時間1時間)
1 6 回	1 回～15回までの内容をよく理解し整理しておくこと。(標準学習時間2時間)

講義目的	情報科学は、現代の情報通信技術の中核をなす学問分野で、現代社会で生活するすべての人にとって必要不可欠なものである。本講義では、情報科学分野を初めて学ぶ学生を対象として、コンピュータを効率的に扱うための知識蓄積を念頭に、コンピュータおよびインターネットの基本的なしくみを修得することを目指し、情報科学の基礎的用語や概念を修得する。そして、それら技術のビジネスへの応用や社会の変化について理解が深まるよう講義を行う。(社会情報学科の学位授与方針項目 A および F にもっとも強く関与する。)
達成目標	コンピュータおよびインターネットについての基礎知識を身につける。 ICTによる社会の変化を理解し説明できる 現在進行しているICT分野の動向を理解し説明できる
キーワード	コンピュータ、インターネット、ICT
成績評価(合格基準60)	小テスト 30%、最終評価試験 70% によって評価する。
関連科目	プログラミング基礎、応用プログラミング、経営情報、経営システム
教科書	配布する資料により講義を行う。
参考書	授業の中で紹介する。
連絡先	A1号館8階 水谷研究室 (mizutani@mgt.ous.ac.jp) オフィスアワーは mylog 掲載のオフィスアワー欄を参照のこと。
注意・備考	経営学科、基礎 類の選択必修科目である。授業では、学習管理システムを使ったアクティブラーニングを適宜取り入れる予定で、学習管理システムを用いた小テストの実施においては、翌週までに解答例を示してフィードバックを行う。
試験実施	実施する

科目名	現代の経営(再)【月4水4】(FIV1D110)
英文科目名	Modern Management
担当教員名	山口隆久(やまぐちたかひさ)
対象学年	1年
開講学期	春1
曜日時限	月曜日 4時限 / 水曜日 4時限
対象クラス	社会情報学科(～16)
単位数	2.0
授業形態	講義

回数	授業内容
1回	オリエンテーション。講義の進め方を説明する。企業経営の全体像について説明する。
2回	経営学の全体像について説明する。
3回	企業と社会について説明する。
4回	企業とインプット(金融資本・労働)市場との関わりについて説明する。
5回	企業とアウトプット(製品・サービス)市場との関わりについて説明する。
6回	競争戦略のマネジメント(Part.1): 基本的な考え方について説明する。
7回	競争戦略のマネジメント(Part.2): 違いを作る3つの基本戦略と仕組みの競争について説明する。
8回	多角化戦略のマネジメントについて説明する。
9回	国際化のマネジメントについて説明する。
10回	マクロ組織のマネジメントについて説明する。
11回	ミクロ組織のマネジメントについて説明する。
12回	キャリアデザインについて説明する。
13回	経営学の広がり(Part.1): ファミリービジネスのマネジメントについて説明する。
14回	経営学の広がり(Part.2): 病院組織のマネジメントについて説明する。
15回	経営学のまとめと今後の展望について説明する。
16回	1回～15回までの総括を行い、最終評価試験を実施する。

回数	準備学習
1回	特になし
2回	新聞・ニュースなどを見て、企業内部の仕事としてどのような仕事があるか考えておくこと(標準学習時間90分)
3回	新聞・ニュースなどを見て、企業内部の仕事としてどのような仕事があるか考えておくこと(標準学習時間90分)
4回	新聞・ニュースなどを見て、企業内部の仕事としてどのような仕事があるか考えておくこと(標準学習時間90分)
5回	よく売れている商品の例を思い浮かべておくこと(標準学習時間90分)
6回	企業間競争の実例を知っておくこと(標準学習時間90分)
7回	企業の経営状態の良し悪しをどう測ればよいか考えておくこと(標準学習時間90分)
8回	企業で使われている役職の名前を知っておくこと(標準学習時間90分)
9回	企業活動の評価方法を復習しておくこと(標準学習時間90分)
10回	国際化の特徴について復習すること 大規模M&Aと中小規模M&Aの違いについて予習すること(標準学習時間90分)
11回	企業で働く人々の間に上下関係が存在する意義について考えておくこと(標準学習時間90分)
12回	就職の際に自分に必要とされる一般的能力について考えておくこと(標準学習時間90分)
13回	これまで配布の資料をチェックして、個人マネジメントについて考えておくこと(標準学習時間90分)
14回	これまで配布の資料をチェックして、法人マネジメントについて考えておくこと(標準学習時間90分)
15回	事例研究について復習すること、またこれまでに配布した資料に目を通しておくこと(標準学習時間90分)
16回	1回～15回までの内容をよく理解し整理しておくこと(標準学習時間90分)

講義目的	本講義は、はじめて経営学を学ぶ人を対象に、経営学の基礎的概念を学ぶ。本講義の目的は、第一に社会で活動する企業について興味・関心を持つこと、第二に経営学に関する基礎的な知識や基本的な考え方を身につけることとする。特に本講義では、企業の誕生、戦略、管理、ガバナンスを中心に理解を深め、様々な分野におよぶ経営学理論について、企業事例を用いながら丁寧に解説する。また、これに関連する企業を中心とした社会的事例について適宜取り扱う。最後に経営学という手法を用いて勉強を行うにあたって何が必要であるかについて逐次紹介する。(社会情報学科の学位授与方針項目B,Fにもっとも強く関与、項目C,Eに強く関与)
------	---

達成目標	競争的システムとしてのビジネスの世界で求められる実務内容と能力の内容を概説し、実社会で必要な能力・ビジネススキルを学習する。
キーワード	経営学、経営戦略、マーケティング、会計、経営組織
成績評価（合格基準60	定期試験(60%)と、授業の中で実施する課題または中間テスト(40%)によって評価する。
関連科目	特になし
教科書	1からの経営学（第2版） 加護野忠男・吉村典久編著 碩学者 ISBN 978-4-502-69610-7
参考書	適宜，指示する。
連絡先	A1号館7F 山口研究室
注意・備考	備考 (1)試験は最終評価試験期間に行い、試験形態は筆記試験とする。(2)課題（レポートや小テスト）に対するフィードバックは，講義中に行うこととする。(3)講義中の録音／録画／撮影は他の受講者の妨げにならない限り自由とするが、他者への再配布（ネットへのアップロードを含む）は禁止する。
試験実施	実施する

科目名	社会学(再)【火1金1】(FIV1F110)
英文科目名	Sociology
担当教員名	八木一郎(やぎいちろう)
対象学年	1年
開講学期	春1
曜日時限	火曜日 1時限 / 金曜日 1時限
対象クラス	社会情報学科(～16)
単位数	2.0
授業形態	講義

回数	授業内容
1回	イントロダクション。講義の進め方を説明し、社会学とはどういう学問か、研究の歴史を学習する。
2回	社会的事実を社会学の対象としてとらえ、制度や秩序のあり方を考察したデュルケームの理論を学習する。
3回	社会学の重要な概念である規範と価値、ウェバーの社会的行為について学習する。
4回	社会的行為の4類型とアーヴィング・ゴフマンの相互行為について学習する。
5回	パーソンズが唱えた地位と役割について学習する。
6回	集団、集まり、集合行動について学習する。
7回	少子高齢社会や結婚、介護、子育てなど家族をめぐる現代社会の課題について学習する。
8回	社会的、文化的性差であるジェンダーについて学習する。
9回	働くことと組織のあり方、日本的な職業観などについて学習する。
10回	貧困や格差はなぜ生まれるのか。その歴史的背景や日本社会の現状を学習する。
11回	厳しい競争と排除が進む現代社会の中で、人としての生きづらさと居場所について学習する。
12回	人は後天的に習得するという「社会化」の概念を政治的な課題を通じて学習する。
13回	民主主義と世論や民意の関係について学習する。
14回	現代社会と社会運動について学習する。
15回	より望ましい社会に向けての個人や集団のかかわりについて学習し、総括とする。
16回	1回から15回までを総括し、最終評価試験を実施する。

回数	準備学習
1回	授業内容を確認し、社会学の基礎を築いたエミール・デュルケームについて調べておくこと。(標準学習時間120分)
2回	授業内容を確認し、社会学の基礎を築いたもう一人の巨人マックス・ウェバーについて調べておくこと。(標準学習時間120分)
3回	授業内容を確認し、社会的行為と相互行為について調べておくこと。(標準学習時間120分)
4回	ここまでの規範、価値、行為についての授業内容を確認し、タルコット・パーソンズについて調べておくこと。(標準学習時間120分)
5回	役割と規範、地位と相互行為の関係について復習すること。(標準学習時間120分)
6回	集団行動と規範の関係について復習し、戦後の日本社会の変遷の中で、家族のあり方がどう変わってきたかを調べておくこと。(標準学習時間120分)
7回	集団の分類による家族のあり方について復習し、ジェンダーとは何かを調べておくこと。(標準学習時間120分)
8回	ジェンダーと社会的規範、偏見と差別の問題について復習する。日本的雇用システムについて調べておくこと。(標準学習時間120分)
9回	長時間労働やブラック企業など労働・雇用をめぐる問題について復習する。日本の貧困について現状を調べておくこと。(標準学習時間120分)
10回	マルクスやウェバーらに由来する階級・階層の考え方を復習する。(標準学習時間120分)
11回	社会の問題として居場所が重要視されるようになった時代状況を復習する。(標準学習時間120分)
12回	生活者と政治の関係について復習し、日本の選挙制度について調べておくこと。(標準学習時間120分)
13回	多数決や代表制の課題について復習し、18歳選挙権の導入などを契機に、これから若者が社会にどう向き合うかについて調べておくこと。(標準学習時間120分)
14回	若者の社会運動への取り組みについて復習する。現代社会のさまざまな課題について日々の新聞やテレビで接しておくこと。(標準学習時間120分)
15回	ここまでの学習を振り返り、社会学の特性を復習すること。(標準学習時間120分)
16回	1回～15回までの内容をよく理解し整理しておくこと(標準学習時間90分)

講義目的	社会学は何気ない日常に目を留め、日常に埋め込まれた様々な事実を再発見する思考技法のひとつである。この技法を習得することは、変動著しい社会の潮流を冷静に見極め、対処するうえで有用
------	--

	である。本講義では、日常的に経験する事象について、その成立や構造を理解する手立てを身に付ける。(社会情報学科の学位授与方針項目BとFに最も強く関与、項目Cに強く関与する)(経営学科の学位授与方針項目Aに最も強く関与、項目Bに強く関与、項目Dにある程度関与する)
達成目標	今、私たちが生きている「社会」とは何か、について理解を深める。高度情報化、グローバル化、少子高齢化など、複雑な現代社会の特徴を多様な角度から分析し、その背景や構造を学習する。格差や貧困といった課題、個人や組織、コミュニケーションといった社会を構成する概念について学びながら、若者たちをとりまく「今」に対する理解を深め、問題意識の醸成や一人ひとりが判断していく力を養う。
キーワード	秩序、規範、行為、役割、集団、性差、労働、格差、社会化、世論、関係性
成績評価（合格基準60	最終評価試験（100％）により成績を評価し、60％以上を合格とする。
関連科目	マスメディア論、情報メディア
教科書	使用しない
参考書	社会学講義/橋爪大三郎他/筑摩書房：現代社会論/本田由紀編/有斐閣：基礎ゼミ社会学/工藤保則ら編/世界思想社
連絡先	A1号館6F 八木研究室
注意・備考	講義資料は講義開始時に配布する。なお、特別な事情がない限り後日の配布には応じない。講義中の録音/録画/撮影は原則認めない。特別の理由がある場合には事前に相談すること。最終評価試験についてのフィードバックは、Momo-campusのフィードバック機能を用いて行う。
試験実施	実施する

科目名	地域経済分析【火1金1】(FIV1F310)
英文科目名	Regional Economics
担当教員名	松村博行(まつむらひろゆき)
対象学年	3年
開講学期	春1
曜日時限	火曜日 1時限 / 金曜日 1時限
対象クラス	社会情報学科
単位数	2.0
授業形態	講義

回数	授業内容
1回	経済政策とはなにか? - アベノミクスを事例に経済政策の範囲や役割について概説する。
2回	経済政策を見る目をやしなう - 経済統計の基本的な見方
3回	戦後の経済政策の歴史 - インフレとデフレ
4回	科学技術政策 - 政府によるイノベーションへのアプローチ
5回	経済政策と安全保障の交点 - 軍事的ケインズ主義とは何か?
6回	通商政策 - 経済摩擦はなぜ生じるのか?
7回	国際経済と外交 - メガFTAはなぜ形成されるのか?
8回	労働政策 - 「分厚い中間層の復活」は可能か?
9回	金融政策 - 長期のデフレと非伝統的金融政策
10回	財政政策 - 累積債務問題をどう解決するのか
11回	開発援助政策 - ODAはなぜ必要か?
12回	各国の経済政策(1): 米国
13回	各国の経済政策(2): 中国
14回	各国の経済政策(3): EU諸国
15回	講義のまとめ
16回	最終評価試験: 第1回から第15回までを総括し、最終評価試験を実施する。

回数	準備学習
1回	予習: アベノミクスとは何か、調べておくこと(標準学習時間60分) 復習: 経済政策の範囲と役割を説明できるよう復習を行うこと(標準学習時間60分)
2回	予習: 前週に配布された新聞記事を読んで、知らない用語を事前に調べておくこと(標準学習時間60分) 復習: 雇用統計、四半期別GDP速報等の読み方を復習しておくこと(標準学習時間60分)
3回	予習: 前週に配布された新聞記事を読んで、知らない用語を事前に調べておくこと(標準学習時間60分) 復習: 1990年代以降にデフレが進んだ理由を整理しておくこと(標準学習時間60分)
4回	予習: 前週に配布された新聞記事を読んで、知らない用語を事前に調べておくこと(標準学習時間60分) 復習: 科学技術と政府との関係について学んだことを整理しておくこと(標準学習時間60分)
5回	予習: 前週に配布された新聞記事を読んで、知らない用語を事前に調べておくこと(標準学習時間60分) 復習: 武器の生産や輸出における政府の役割について学んだことを整理しておくこと(標準学習時間60分)
6回	予習: 前週に配布された新聞記事を読んで、知らない用語を事前に調べておくこと(標準学習時間60分) 復習: 経済摩擦の政治経済学的視点について、学んだことを整理しておくこと(標準学習時間60分)
7回	予習: 前週に配布された新聞記事を読んで、知らない用語を事前に調べておくこと(標準学習時間60分) 復習: 国境措置と国内措置の相違について学んだことを整理しておくこと(標準学習時間60分)
8回	予習: 前週に配布された新聞記事を読んで、知らない用語を事前に調べておくこと(標準学習時間60分) 復習: 中間層とは何かを説明できるよう、学んだことを整理しておくこと(標準学習時間60分)
9回	予習: 前週に配布された新聞記事を読んで、知らない用語を事前に調べておくこと(標準学習時間60分) 復習: 非伝統的金融政策の特徴について学んだことを整理しておくこと(標準学習時間60分)
10回	予習: 前週に配布された新聞記事を読んで、知らない用語を事前に調べておくこと(標準学習時間60分) 復習: 累積債務、プライマリーバランス、地方財政といったキーワードについて、学んだことを整理しておくこと(標準学習時間60分)

1 1 回	予習：前週に配布された新聞記事を読んで、知らない用語を事前に調べておくこと（標準学習時間60分） 復習：開発援助の系譜について学んだことを整理しておくこと（標準学習時間60分）
1 2 回	予習：前週に配布された新聞記事を読んで、知らない用語を事前に調べておくこと（標準学習時間60分） 復習：1990年代以降、4つの政権における経済政策の特徴について、学んだことを整理しておくこと（標準学習時間60分）
1 3 回	予習：前週に配布された新聞記事を読んで、知らない用語を事前に調べておくこと（標準学習時間60分） 復習：中国の対外経済政策の特徴と米中経済関係について、学んだことを整理しておくこと（標準学習時間60分）
1 4 回	予習：前週に配布された新聞記事を読んで、知らない用語を事前に調べておくこと（標準学習時間60分） 復習：EUが抱える構造的な経済問題について学んだことを整理しておくこと（標準学習時間60分）
1 5 回	予習：全14回の復習を十分行い、新たに生じた疑問点を整理し、最終講義に臨むこと（標準学習時間90分） 復習：講義のまとめで指摘したキーワードを軸に15回の講義全体を改めて整理し、最終評価試験に備えること（標準学習時間120分）
1 6 回	予習：第1回から第15回までの内容をよく理解し、整理しておくこと（標準学習時間120分）

講義目的	この講義は皆さんが教養として知っておくべき経済政策の基礎を、主に日本を事例としてその歴史的展開と現状とを概説することを目的としています。また、最後の3回を使って、主要国・地域の経済政策の概要についても説明します。（社会情報学科の学位授与方針の項目Bにもっとも強く関連し、項目Cに強く関連する）
達成目標	(1)経済政策の枠組みやそれぞれの目的について説明することができる (2)日本政府によって実施されている経済政策の現状について説明することができる。 (3)米中欧における経済政策の目的を説明することができる。
キーワード	グローバル化 バブル崩壊後 少子高齢化 聖域なき構造改革 トランポノミクス TP PとRCEP 一帯一路
成績評価（合格基準60点）	40点：毎回の講義で実施するミニテスト 60点：最終評価試験 合計100点
関連科目	経済原論 国際経済論 国際政治学
教科書	
参考書	『入門 現代日本の経済政策』／岡田知弘・岩佐和幸編／法律文化社／978-4-589-03753-4
連絡先	松村研究室 A1号館702号室
注意・備考	・配布資料は、毎回授業の最初に配布する。 ・毎回、授業の初めに5分程度のミニテストをオンラインで実施する。スマホ所有者は毎回持参するよう求める。未所有者はペーパーにて実施する。 ・ミニテストの模範解答は、授業内にて解説し、フィードバックを行う。 ・最終評価試験のフィードバックはMomo-Campusのフィードバック機能を用いて行う。 ・他の受講生の妨害になる振る舞い（雑談等）については厳しく対処する。 ・講義の録音、録画、撮影は原則認めない。ただし、特別な理由がある場合には事前に相談すること。 ・飲食のうち、「食」についてはガムやアメも含めて認めない。
試験実施	実施する

科目名	東アジアの歴史(再)【火2金2】(FIV1G110)
英文科目名	History of East Asia
担当教員名	志野敏夫(しのとしお)
対象学年	1年
開講学期	春1
曜日時限	火曜日 2時限 / 金曜日 2時限
対象クラス	社会情報学科(～16)
単位数	2.0
授業形態	講義

回数	授業内容
1回	オリエンテーション、および、「中国」とは何かについて考える。
2回	東アジアという地域とはどのようなものかについて、主に地理上の区分から講義する。
3回	東アジアにある様々な文化圏について講義する。
4回	復習テストを実施し、その後解説する。4大文明の一つである黄河文明と、近年発見されつつある長江文明を紹介する。
5回	古代中国の都市国家の特性について講義する。
6回	中国史上最初の帝国である、秦と漢王朝について講義する。
7回	皇帝というものの概念と天の思想、中華思想について講義する。
8回	中国三国時代から南北朝時代について解説し、東アジア世界を形成することになる冊封体制について講義する。
9回	復習テストを実施し、その後解説する。南北朝から隋唐時代に周辺民族との交流により新しい世界帝国が作られ、東アジア世界が形成されていくことを講義する。
10回	新しい文明の移入により、いわゆる中華文明が形成されたことを講義する。
11回	いわゆる異民族が中華帝国の主人公となる様子について講義する。
12回	今までにはないタイプの文明との接触と、中華世界の反応について解説し、東アジアにとって「近代」化とはどのようなことかを講義する。
13回	東アジア世界の諸国が、ヨーロッパ列強の侵略にどのように対応していったかを概観し、東アジアがどのように変容したかについて講義する。
14回	近代ヨーロッパ文明と、伝統的東アジア文明とを比較し、現代の私たちの中にある「東アジア」について考察する。
15回	復習テストを実施し、解説を行い、本講義の学習内容を確認する。

回数	準備学習
1回	高校の「世界史」のうち、中国史に関するところを復習しておくこと。(標準学習時間180分)
2回	世界地図で「アジア」地域を確認しておくこと。(標準学習時間60分)
3回	前回の講義について復習しておくこと。(標準学習時間120分)
4回	これまで3回の講義の復習をしておくこと。また、高校「世界史」の中国史のうち、古代文明について復習しておくこと。(標準学習時間180分)
5回	前回の講義について復習するとともに、「邑」とは何かについて調べておくこと。(標準学習時間120分)
6回	高校「世界史」の中国史のうち、秦漢帝国について復習しておくこと。(標準学習時間120分)
7回	前回の講義について復習するとともに、古代ローマと中国の「皇帝」という言葉の意味を調べておくこと。(標準学習時間120分)
8回	前回の復習をしておくとともに、日本史の卑弥呼の時代から倭の五王について調べておくこと。(標準学習時間120分)
9回	第4回から前回までの復習をしておくとともに、高校「世界史」の中国史のうち、隋・唐王朝について復習しておくこと。(標準学習時間180分)
10回	高校「世界史」の中国史のうち、宋・元および遼・金王朝について復習しておくこと。(標準学習時間120分)
11回	高校「世界史」の中国史のうち、明・清王朝について復習しておくこと。(標準学習時間120分)
12回	高校「世界史」で、「近代社会」とはどのような要件をもった社会であるかについて復習、レポートを作成しておくこと。(標準学習時間180分)
13回	前回の講義について復習しておくこと。できれば、日本史の近代史の部分を復習しておくこと。(標準学習時間150分)
14回	ここまでの講義を復習し、各人の中にある「東アジア的」なものについて整理しておくこと。(標準学習時間120分)
15回	ここまで学習した事について復習しておくこと。(標準学習時間180分)

講義目的	1、「東アジア」とはどのような概念であるかを理解させる。
------	------------------------------

	2、「中国」の多様性を理解させる。 3、現代世界における東アジアの位置づけについて考察する材料を提供する。 (社会情報学科のディプロマポリシーのBとFに最も強く関与し、Cに強く関与する)
達成目標	1、「東アジア」とはどのような概念であるかを理解している。 2、「中国」が多様な「国」であることを理解している。 3、歴史の多面性を理解し、自らの世界観を構築しようとする態度をもつ。
キーワード	「東アジア」、「中国」、多様性、近代化
成績評価(合格基準60)	復習テスト(70%)、レポート(30%)により評価し、これらを総合して全体で60%以上の得点率で合格とする。
関連科目	外国史
教科書	特に無い。講義で資料を配布する。
参考書	高校「世界史」「日本史」、およびその他講義中に適宜紹介する。
連絡先	研究室：A1号館6階
注意・備考	・復習テストの際は、毎回テスト実施の後でフィードバック(解説)を行う。 ・提出されたレポートは、採点后、授業中に返却し、フィードバック(解説)を行う。あるいはアクティブラーニングを促すため、出されたレポートをもとにグループによるディスカッションを行うことがある。
試験実施	実施しない

科目名	歴史学(再)【火3金3】(FIV1H210)
英文科目名	History
担当教員名	志野敏夫(しのとしお)
対象学年	2年
開講学期	春1
曜日時限	火曜日 3時限 / 金曜日 3時限
対象クラス	社会情報学科(～16)
単位数	2.0
授業形態	講義

回数	授業内容
1回	オリエンテーションおよび、導入を行う。
2回	「歴史」とは何か、グループ討論を行い、考察する。
3回	中国語および日本語における「歴史」という言葉について講義する。
4回	復習テストを行い、解説する。西洋における「歴史」という言葉について講義する。
5回	古代中国における歴史学の概念と学問研究における位置づけについて、主に『春秋』と『史記』によって講義する。
6回	中国における歴史学の概念と社会的位置づけについて、主に『資治通鑑』によって講義する。
7回	ヨーロッパ中世における歴史学の位置づけについて講義する。
8回	第4回から第7回までの復習テストを行い、解説をする。西洋ルネサンス期における科学革命の概要について講義する。
9回	西洋ルネサンス期における歴史学の始まりについて講義する。
10回	ヨーロッパ近世社会の変化と歴史学の関係について講義する。
11回	ヨーロッパ近代社会の展開と、歴史学の変化について講義する。
12回	マルクスの唯物史観と、それが歴史学および社会に与えた影響について講義する。
13回	歴史学と近代自然科学が定義する「科学」の概念との相違とその問題点について講義する。
14回	歴史学研究におけるテキストクリティークの重要性について講義する。
15回	前回までの復習テストを行い、その解説をして本講義の学習内容を復習しつつ、歴史が持つ「力」について考える

回数	準備学習
1回	各人どの地域、どの時代の歴史に興味があるか確認しておくこと。(標準学習時間90分)
2回	辞書で「歴史」という言葉を調べておくとともに、各人で「歴史」とは何か、考えておくこと。(標準学習時間120分)
3回	前回講義の復習をしておくこと。(標準学習時間120分)
4回	前回までの講義の復習をしておくこと。(標準学習時間180分)
5回	前回講義の復習をしておくこと。(標準学習時間120分)
6回	前回講義の復習をしておくこと。(標準学習時間120分)
7回	前回講義の復習をしておくこと。(標準学習時間120分)
8回	第4回から第7回までの講義の復習をしておくとともに、高校「世界史」のルネサンス期について復習しておくこと。(標準学習時間210分)
9回	前回講義の復習をしておくこと。(標準学習時間120分)
10回	前回講義の復習をしておくとともに、高校「世界史」の宗教革命について復習しておくこと。(標準学習時間120分)
11回	前回講義の復習をしておくとともに、高校「世界史」の近代市民革命について復習しておくこと。(標準学習時間120分)
12回	前回講義の復習をしておくこと。(標準学習時間120分)
13回	前回講義の復習をしておくとともに、第8回の講義についても復習しておくこと。(標準学習時間120分)
14回	前回講義の復習をしておくこと。(標準学習時間120分)
15回	前回までのすべての講義の復習をしておくこと。(標準学習時間180分)

講義目的	1、「歴史」とは何かを理解させる。 2、歴史学研究と自然科学研究との関係や相違について理解させる。 3、研究対象である歴史資料の特性を理解させる 4、歴史研究の意義について理解させる。 (社会情報学科の学位授与方針項目Cにもっとも強く関与し、Bに強く関与する。)
達成目標	1、「歴史」とは何かを理解できる。(A、B) 2、歴史学研究と自然科学研究との関係や相違について理解できる。(A、B) 3、歴史資料の特性とテキストクリティークの重要性を理解できる。(B) 4、歴史がもつ意義について考え、自らの歴史観を養成しようとする態度をもつ。(C)

キーワード	歴史、歴史学、自然科学の概念、テキストクリティーク、歴史観
成績評価（合格基準60）	復習テスト（80％）、レポート（20％）で評価し、そうれらを総合して全体の60％以上で合格とする。
関連科目	外国史
教科書	特に無い
参考書	『歴史学概論』（講談社学術文庫）増田四郎著、『歴史とは何か』（岩波新書）E.H. カー著、清水 幾太郎訳、その他講義中に適宜紹介する
連絡先	志野研究室：A1号館6階
注意・備考	・アクティブラーニングを促すため、第2回目は「歴史とは何か」のグループディスカッションを行うので、十分準備学習をしておくこと。 ・復習テストの際は、毎回テスト実施の後でフィードバック（解説）を行う。 ・提出されたレポートは、採点后、授業中に返却し、フィードバック（解説）を行う。あるいはアクティブラーニングを促すため、出されたレポートをもとにグループによるディスカッションを行うことがある。
試験実施	実施しない

科目名	経済原論(再)【火4金4】(FIV1I110)
英文科目名	Elements of Economics
担当教員名	三原裕子(みはらゆうこ)
対象学年	1年
開講学期	春1
曜日時限	火曜日 4時限 / 金曜日 4時限
対象クラス	社会情報学科(～16)
単位数	2.0
授業形態	講義

回数	授業内容
1回	ガイダンス。授業の進め方や経済学、さらにはミクロ経済学とマクロ経済学の違いについて説明する。
2回	ゲーム理論の基本的な考え方を説明する。
3回	囚人のジレンマについて説明する。
4回	囚人のジレンマの応用として、財政問題を考える。
5回	これまでの内容を整理する。
6回	需要曲線がどのように導出され、また需要曲線の性質について説明する。
7回	供給曲線がどのように導出されるのか、また供給曲線の性質について説明する。
8回	需要曲線と供給曲線を用いて価格決定およびそのメカニズムについて説明する。
9回	第8回で行った価格決定を踏まえて消費者余剰、生産者余剰そして社会余剰について説明する。
10回	社会余剰の応用として、政府の政策が社会余剰に及ぼす効果について説明する。
11回	ミクロ編の応用として、途上国における児童労働発生メカニズムについての説明を行う。
12回	内閣府が公表する国内総生産についてのデータを読み、国内総生産の定義および国内総生産の三面等価の法則について説明する。 景気循環について説明し、あわせて経済成長率がどのようにして算出されるのかについて説明する。
13回	三面等価の法則を再度確認し、景気を底上げする政策について考えてみる。
14回	財政政策と金融政策について説明する。
15回	財政政策が国内総生産に与える効果について説明する。
16回	最終評価試験のフィードバックとして出題意図と解答の解説をおこなう。

回数	準備学習
1回	ミクロ経済学とマクロ経済学の違いについて参考書などにより調べておくこと(標準学習時間90分)
2回	ゲーム理論を用いるとどのような分析が行えるかについて、参考書を読み調べておくこと(標準学習時間60分)
3回	利得表の作成の仕方および読み方を復習しておくこと(標準学習時間60分)
4回	日本の財政をめぐる問題について調べておくこと(標準学習時間50分)
5回	2回から4回までの内容を復習しておくこと(標準学習時間90分)
6回	需要曲線の性質について参考書などにより調べておくこと(標準学習時間90分)
7回	供給曲線の性質について参考書などにより調べておくこと(標準学習時間90分)
8回	需要曲線と供給曲線を用いて、どのような分析を行うかについて参考書を用いて調べておくこと(標準学習時間90分)
9回	消費者余剰と生産者余剰を暗記ではなく、きちんと言葉と図示によって説明できるように復習を行うこと(標準学習時間90分)
10回	これまでの講義内容について、言葉と図示によってきちんと説明できるように整理しておくこと(標準学習時間90分)
11回	児童労働の現状について、ユニセフのホームページなどで確認をしておくこと(標準学習時間90分)

	)
1 2 回	国内総生産に関する新聞記事を最低でも1つは見つけて読んでおくこと（標準学習時間90分）
1 3 回	景気が良い、悪いとはどのような規準によって判断されるのかについて、自分なりに考えて整理しておくこと（標準学習時間90分）
1 4 回	財政政策と金融政策についての新聞記事を調べてみる（標準学習時間90分）
1 5 回	財政政策の効果およびそのメカニズムについて、復習しておくこと（標準学習時間90分）
1 6 回	最終評価試験の問題を復習しておくこと（標準学習時間90分）

講義目的	経済学を学ぶ上で、最も基本となるものがミクロ経済学とマクロ経済学である。本講義では、経済学をさらに学ぶために必要最低限の知識を身につけることを目的とする。そのために、需要曲線、供給曲線、社会余剰や国内総生産などの基礎的な事柄について述べる。 （社会情報学科の学位授与方針項目BとFにもっとも強く関与し、Cに強く関与する）
達成目標	経済学の基礎的な知識を身に付け、理論的に物事が判断できるための力を養う。新聞記事を読み、自分自身で政策の効果が評価できるようになるための知識を身につける。公務員試験や経済学検定試験等の資格試験取得のための力を養う。
キーワード	
成績評価（合格基準60	小テスト30%、学期末試験70%により評価し60点以上を合格とする。
関連科目	
教科書	
参考書	1からの経済学/中谷武、中村保/中央経済社
連絡先	A1号館7F 三原研究室
注意・備考	(1) この講義では、レジュメはMomo-campusを通じて配布する。 (2) 講義中の録音／録画／撮影は原則禁止する。ただし、やむを得ない事情等により、事前に申し出た場合に限りほかの受講生の妨げにならない範囲で許可する。
試験実施	実施する

科目名	データ解析システム(再) (FIV1L210)
英文科目名	Data Analysis System
担当教員名	大田靖 (おおたやすし)
対象学年	2 年
開講学期	春1
曜日時限	水曜日 2時限
対象クラス	社会情報学科 (~ 16)
単位数	2.0
授業形態	講義

回数	授業内容
1 回	統計ソフト (エクセル等) の利用とデータについて解説する。
2 回	経営などで利用されるデータについて解説する。
3 回	1変量データの視覚化(1) ～ 量的データの処理を実習により学ぶ～
4 回	1変量データの視覚化(2) ～ 質的データの処理を実習により学ぶ～
5 回	1変量データの数量化 ～ 基本統計量：中央傾向・散らばり傾向の代表値について実習により学ぶ～
6 回	2変量データの視覚化と数量化(1) ～ 散布図の書き方、相関係数などを実習により学ぶ～
7 回	2変量データの視覚化と数量化(2) ～ クロス集計表、オッズ比などを実習により学ぶ～
8 回	小テストとその解説を実施する。
9 回	サンプル調査の特徴(1) 母集団と標本について実習により学ぶ。
10 回	サンプル調査の特徴(2) 推測統計の考え方について実習により学ぶ。
11 回	サンプル調査の特徴(3) 区間推定の方法について実習により学ぶ。
12 回	サンプル調査の特徴(4) 適合度検定について実習により学ぶ。
13 回	サンプル調査の特徴(5) クロス表と独立性検定について実習により学ぶ。
14 回	総合演習 (1)
15 回	総合演習 (2)

回数	準備学習
1 回	これまで学んだ統計関係の授業内容を見直しておくこと。(標準学習時間30分)
2 回	インターネット等で経営などで使われているデータについて調べておくこと。(標準学習時間60分)
3 回	量的データ (1変量) のグラフについて, その用途や解釈について整理しておくこと。(標準学習時間60分)
4 回	質的データ (1変量) のグラフについて, その用途や解釈について整理しておくこと。(標準学習時間60分)
5 回	データ解析基礎において学んだ記述統計の内容について調べておくこと。(標準学習時間90分)
6 回	変量間の関係について復習しておくこと。(標準学習時間60分)
7 回	データ解析基礎において学んだクロス集計表の内容について調べておくこと。(標準学習時間90分)
8 回	第1回から第7回までの内容をよく理解し整理しておくこと。(標準学習時間120分)
9 回	母集団と標本についてよく復習しておくこと。(標準学習時間90分)
10 回	推測統計、特に仮説検定の考え方についてよく復習しておくこと。(標準学習時間120分)
11 回	視聴率や選挙速報が発表される仕組みについてインターネット等で事前に調べておくこと。(標準学習時間90分)
12 回	カイ 2 乗検定についてよく復習しておくこと。(標準学習時間90分)
13 回	クロス集計表を用いたカイ 2 乗検定についてよく復習しておくこと。(標準学習時間90分)
14 回	これまでに学んできたことをまとめ、総合演習に備えておくこと。(標準学習時間90分)
15 回	前回の内容を補い、総合演習が完成できるように備えておくこと。(標準学習時間90分)

講義目的	経営学部で学ぶデータ分析の基礎的な科目として、統計解析パッケージを用いたデータ分析を身に
------	--

	つけさせることを講義目的とする。具体的には、実データを利用した1変量データと2変量データの記述統計としてのデータ分析（データの視覚化と数量化）からはじめ、その後推測統計としてのデータ分析（区間推定、比率の検定、適合度検定、独立性検定）について学ぶ。すべての学習には、統計解析パッケージを活用し、その利用手順と出力の解釈を通して、経営学部で学ぶデータ分析の基礎について学ぶ。（社会情報学科の学位授与方針項目B、Fにもっとも強く関与し、Aに強く関与する）
達成目標	経営で用いられるデータを意識したデータ分析の基礎を習得すること 統計解析パッケージの基本操作をみにつけること 記述統計、及び推測統計について学んだ内容を統計解析パッケージで再現できること
キーワード	統計パッケージ、データ分析、データの視覚化、データの数量化、推定・検定
成績評価（合格基準60	平常点(15%)と適宜課す課題(55%)，総合演習(30%)によって評価し，すべての課題と総合演習課題が提出されたものに対して，総計で得点率 60%以上を合格とする。
関連科目	データ解析基礎、情報リテラシー、社会調査入門、社会調査法
教科書	教科書は利用しない。Web等で教科書としての資料を配布する。
参考書	講義中に適宜紹介する。
連絡先	A1号館8階 大田研究室（yota@mgt.ous.ac.jp）
注意・備考	・「社会調査士」認定科目である。 ・総合演習(2)において、取り組み内容の評価とともにフィードバックを行う。
試験実施	実施しない

科目名	電子計算機(再) (FIV1Z110)
英文科目名	Computer Science
担当教員名	水谷直樹 (みずたになおき)
対象学年	1 年
開講学期	春1
曜日時限	集中講義 その他
対象クラス	社会情報学科 (~16)
単位数	2.0
授業形態	講義

回数	授業内容
1 回	コンピュータのしくみについて概説する。
2 回	中央処理装置 (CPU) の役割について説明する。
3 回	主記憶装置 (メインメモリ) とキャッシュメモリの役割について説明する。
4 回	外部補助記憶装置について説明する。
5 回	キーボードやマウス, スキャナなどの入力装置について説明する。
6 回	ディスプレイやプリンタなどの出力装置について説明する。
7 回	基本ソフトウェア (OS) について説明する。
8 回	コンピュータを構成する部品について説明する (1)
9 回	コンピュータを構成する部品について説明する (2)
10 回	コンピュータを構成する部品について説明する (3)
11 回	コンピュータのOSの設定を通じて、OSの役割を解説する (1)
12 回	コンピュータのOSの設定を通じて、OSの役割を解説する (2)
13 回	プログラミング実習を通じて、コンピュータの特性を解説する (1)
14 回	プログラミング実習を通じて、コンピュータの特性を解説する (2)
15 回	プログラミング実習を通じて、コンピュータの特性を解説する (3)

回数	準備学習
1 回	コンピュータの5大装置について予習すること。(標準学習時間1時間)
2 回	CPUの役割について予習すること。(標準学習時間1.5時間)
3 回	メモリとキャッシュメモリについて予習すること。(標準学習時間1.5時間)
4 回	外部補助記憶装置について予習すること。(標準学習時間1.5時間)
5 回	パソコンに接続できる入力装置について調べる。(標準学習時間1.5時間)
6 回	ディスプレイの解像度の意味を調べる。(標準学習時間1時間)
7 回	OSの種類について調べる。(標準学習時間1.5時間)
8 回	コンピュータを構成する部品の種類について調べておくこと。(標準学習時間1.5時間)
9 回	コンピュータを構成する部品の接続関係を確認しておくこと。(標準学習時間1.5時間)
10 回	コンピュータの仕様表を作成しておくこと。(標準学習時間1.5時間)
11 回	コンピュータのBIOS画面を確認し、コンピュータのハードウェア構成を読み取っておくこと。(標準学習時間1.5時間)
12 回	コンピュータのOSの設定項目をまとめること。(標準学習時間1.5時間)
13 回	プログラミング言語の種類について調べる。(標準学習時間1.5時間)
14 回	1 ~ n までの数の合計を表示するプログラムを作成しておくこと。(標準学習時間1.5時間)
15 回	プログラムのライブラリとして、どのようなものがあるか調べておくこと。(標準学習時間1.5時間)

講義目的	情報社会において必要とされるコンピュータに関して、主にハードウェアの機能と役割、動作原理の基礎知識を学ぶ。また、ハードウェアを動かすオペレーティングシステムがどのように働いているかを学習する。さらに、基礎的なプログラミングに関する知識も学ぶ。(社会情報学科の学位授与方針項目 A および F にもっとも強く関与する)
達成目標	(1)コンピュータのハードウェアの仕組みとその名称を理解する。(2)ソフトウェアの種類、オペレーティングシステムの役割を理解する。(3)プログラミングを行い、プログラムが動作するしくみを理解する。
キーワード	ハードウェア、CPU、メモリ、ソフトウェア、オペレーティングシステム
成績評価 (合格基準60)	授業の中での課題提出(30%)および適宜実施する小テスト(70%)により成績を評価し、総計で 60% 以上を合格とする。
関連科目	情報科学
教科書	使わない
参考書	授業の中で紹介する
連絡先	水谷研究室 A1号館8階 (mizutani@mgt.ous.ac.jp) オフィスアワーは mylog 掲載のオフィスアワー欄を参照のこと。

注意・備考	社会情報学科の必修科目である。集中講義によって実施する。コンピュータを構成する部品の学習において、アクティブラーニングとして、パソコンの分解（組立）実習を実施することによる協調学習を行う予定である。 また、本科目の受講者数は若干名と想定しており、課題および小テストはその場で評価することによりフィードバックを行う。
試験実施	実施しない

科目名	システム管理(再) (FIV1Z210)
英文科目名	System Management
担当教員名	大田靖 (おおたやすし)
対象学年	2 年
開講学期	春1
曜日時限	集中講義 その他
対象クラス	社会情報学科 (~16)
単位数	2.0
授業形態	講義

回数	授業内容
1 回	オリエンテーションを行う。 情報システムとシステム管理について概略を説明する。
2 回	情報システムの利用目的について説明する。
3 回	情報システムはどのような目的で構築されるかを説明する。
4 回	システム開発方法とその特徴を説明する。
5 回	システムの設計から完成までの一連の流れを説明する。
6 回	情報システムのプログラム開発方法とテスト、運用管理について説明する。
7 回	第1回から第6回までの内容に関する小テストを行う。 小テスト終了後に出席内容について解説を行う。
8 回	品質管理技術などによるシステム管理におけるデータの集計方法を説明する。
9 回	コンピュータを構成しているハードウェアについて説明する。
10 回	オペレーティングシステム (OS) の役割とアプリケーションソフトウェアについて説明する。
11 回	情報システムにおけるデータベースの役割について説明する。さらに、データベース管理システムについて説明をする。
12 回	第8回から第12回までの内容に関する小テストを行う。 小テスト終了後に出席内容について解説を行う。
13 回	一般的に用いられる関係データベースの特徴について説明をする。
14 回	情報システムにおけるLANを構成するネットワーク機器について説明する。
15 回	小テスト及びその後フィードバックを行う。

回数	準備学習
1 回	情報システムとシステム管理について簡単に調べてくること。(標準学習時間60分)
2 回	情報システムの利用目的について簡単に調べてくること。(標準学習時間60分)
3 回	情報システムの開発組織とシステム管理の役割について予習しておくこと。(標準学習時間90分)
4 回	3つのシステム開発方法について予習しておくこと。(標準学習時間90分)
5 回	システム開発の特徴を整理し、相違点および特徴を復習しておくこと。(標準学習時間90分)
6 回	情報システムのプログラム開発方法とテストの役割について予習しておくこと。(標準予習時間90分)
7 回	第1回から第6回までの内容をよく理解し整理しておくこと。(標準学習時間120分)
8 回	データの統計的処理方法をまとめ方について予習しておくこと。(標準学習時間120分)
9 回	自分が使っているコンピュータのハードウェアの仕様を確認しておくこと。(標準学習時間90分)
10 回	代表的なオペレーティングシステム (OS) を調べ、それぞれのOSの特徴をまとめておくこと。(標準学習時間60分)
11 回	データベースの検索サービスとYahooなどのサイトの検索サービスの違いを調べておくこと。 次週に小テストを行うので、第1回から第6回までの内容をよく理解し整理しておくこと。(標準学習時間120分)
12 回	小テストの内容、および第8回から第12回までの内容をよく理解し整理しておくこと。(標準学習時間90分)
13 回	データベース管理システムのサービスについて復習しておくこと。(標準学習時間90分)
14 回	インターネットに接続しているコンピュータのネットワークの設定 (項目) について調べておくこと。(標準学習時間90分)
15 回	1 回 ~ 14 回までの内容をよく理解し整理しておくこと (標準学習時間180分)

講義目的	システム開発や運営・管理などのシステム管理をおこなう際に要求される知識を幅広く学習する。さらに、ファイル管理に関わるソフトウェアやデータベース、コンピュータネットワーク技術などについても学習する。システム管理に関して、情報システムやEUCにおけるシステム設計と要求分析、各種設計手法、工程管理や品質管理などの開発管理手法、さらにシステム運用と管理の理論
------	--

	、ファイル管理について理解を深める。次に、OSや応用ソフトウェアの種類と特徴、ソフトウェアの開発環境について学ぶ。また、ファイル管理とかかわってデータベースの応用やコンピュータネットワークについても触れる。（社会情報学科の学位授与方針項目 A、F にもっとも強く関与、学位授与方針項目 C に強く関与する）
達成目標	システム開発や運営管理などで要求される知識を幅広く理解すること ファイル管理に関わるソフトウェアやデータベース、ネットワーク技術の基本事項を理解すること
キーワード	情報システム、システム開発法、ハードウェア、ソフトウェア、データベース、インターネット
成績評価（合格基準60	課題提出 10%、小テスト30%、最終評価試験 60% によって成績を評価し、総計で60%以上を合格とする。
関連科目	電子計算機、情報科学
教科書	特に使用しない。講義時に適宜資料を配布する。
参考書	講義中に適宜紹介する。
連絡先	A1号館8階 大田研究室（yota@mgt.ous.ac.jp）
注意・備考	
試験実施	実施しない

科目名	社会調査実習 (FIV1Z310)
英文科目名	Exercise of Social Research
担当教員名	吉長裕司 * (よしながゆうじ *)
対象学年	3 年
開講学期	春1
曜日時限	集中講義 その他
対象クラス	社会情報学科
単位数	1.0
授業形態	実験実習

回数	授業内容
1 回	オリエンテーション (アンケート調査の流れと情報収集・分析・発信の方法) について解説する。
2 回	アンケート調査の企画 (テーマ, 仮説, 解決への方略の設定) を行う。
3 回	調査項目の設定 (先行研究の動向チェックと項目設定のための情報収集) を行う。
4 回	調査票の作成 (主として, 依頼文, 質問紙の作成) を行う。
5 回	調査票の作成 (主として, 依頼文, 質問紙の作成) を行う。
6 回	調査を実施する (1)。
7 回	調査を実施する (2)。
8 回	得られたデータを解析する (1 - 1 : Excel への結果の入力およびデータのクリーニング, 中間チェック)。
9 回	得られたデータを解析する (1 - 2 : Excel への結果の入力およびデータのクリーニング, 中間チェック)。
10 回	得られたデータを解析する (2 : 主として, 単純集計と傾向把握, Excel の集計機能の利用)。
11 回	得られたデータを解析する (3 : 項目間分析や多変量解析を利用した分析, ソフトの利用)。
12 回	得られたデータを解析する (4 : 解析結果の読み取りと再分析および仮説検証)。
13 回	報告書を作成する (報告内容の整理と報告書の作成 (Word & Excel))。
14 回	成果を発表する (1)。
15 回	成果を発表する (2)。

回数	準備学習
1 回	実際の社会調査を行うので, これまでの社会調査関連科目を復習しておくこと (標準学習時間30分)
2 回	調査をしたいテーマを具体的に絞っておくこと (標準学習時間60分)
3 回	以下, これまで得た社会調査に関する知識を総動員して調査の全過程を踏むので, 必要な知識と技法の確認および前回のやり残しを補いながら, 毎回の作業に臨むこと (標準学習時間90分)
4 回	必要な知識と技法の確認および前回のやり残しを補いながら, 今回の作業に臨むこと (標準学習時間60分)
5 回	必要な知識と技法の確認および前回のやり残しを補いながら, 今回の作業に臨むこと (標準学習時間60分)
6 回	必要な知識と技法の確認および前回のやり残しを補いながら, 今回の作業に臨むこと (標準学習時間60分)
7 回	必要な知識と技法の確認および前回のやり残しを補いながら, 今回の作業に臨むこと (標準学習時間60分)
8 回	必要な知識と技法の確認および前回のやり残しを補いながら, 今回の作業に臨むこと。ここまでに, 調査対象者を訪問・接触して, データ収集を行っておくこと (標準学習時間60分)
9 回	必要な知識と技法の確認および前回のやり残しを補いながら, 今回の作業に臨むこと。必要に応じて, 不足のデータ収集や再調査を行う (標準学習時間60分)
10 回	必要な知識と技法の確認および前回のやり残しを補いながら, 今回の作業に臨むことここまでに, データ入力を完了しておくこと (標準学習時間60分)
11 回	必要な知識と技法の確認および前回のやり残しを補いながら, 今回の作業に臨むこと (標準学習時間60分)
12 回	必要な知識と技法の確認および前回のやり残しを補いながら, 今回の作業に臨むこと (標準学習時間60分)
13 回	必要な知識と技法の確認および前回のやり残しを補いながら, 今回の作業に臨むこと。世論調査や官公庁の調査報告書の書き様を調べておくこと (標準学習時間120分)
14 回	発表の準備をしておくこと (標準学習時間120分)
15 回	他者の発表も参考にしながら, 必要に応じて修正を加えるなどして, よりよい発表ができるようにしておくこと (標準学習時間120分)

講義目的	本実習では, 社会情報実習 α とともに, 社会調査の全過程を体験的に学習する。ここでは, 対象
------	--

	とする分野は特定せず，身近な話題をテーマとしたアンケート調査を実施する。調査過程においては，自ら決めたテーマごとに立てた企画に基づき，事前情報の収集，質問紙の作成，調査の実施，得られたデータの分析に重点をおく。実際の調査では，事前のサンプリング調査や本調査での質問紙の配布と回収に焦点をあて，統計パッケージを利用したデータ分析と結果の読み取り，および調査書作成・報告を体験する。（社会情報学科の学位授与方針項目CとFにもっとも強く関与し，AとDに強く関与する）
達成目標	・ アンケート調査により，社会調査の全過程を体験し，自ら社会調査を実施できるようになる。
キーワード	アンケート調査，社会調査
成績評価（合格基準60	平常点(30%)，適宜課す課題(30%)，および最終課題（報告書の提出と成果発表）(40%)によって評価し，すべての課題と最終課題が提出されたものに対して，総計で得点率 60%以上を合格とする。
関連科目	これまでの社会調査関連科目を履修しておくこと。
教科書	Webページ http://www.soci.ous.ac.jp/SociResPrc/2018/ および社会調査関係の授業でこれまで使用した教科書・資料
参考書	実習中に適宜指示する。
連絡先	吉長裕司 ynohjadema@mx3.tiki.ne.jp
注意・備考	(1) 「社会調査士」認定科目である（資格取得のために，この科目を履修する場合は， http://www.soci.ous.ac.jp/skill/SocialResearcher/subjects.html を確認のこと）。 (2) 依頼文，質問票，分析結果，報告書について，適宜提出と添削を繰り返し，フィードバックを行う。提出については，Momo-campusを利用する。 (3) 講義中の録音／録画／撮影は他の受講者の妨げにならない限り自由とするが，他者への再配布（ネットへのアップロードを含む）は禁止する。
試験実施	実施しない

科目名	簿記会計(再)【月1水1】(FIV2A210)
英文科目名	Bookkeeping Accounting Theory
担当教員名	岡部勝成(おかべかつよし)
対象学年	2年
開講学期	春2
曜日時限	月曜日 1時限 / 水曜日 1時限
対象クラス	社会情報学科(～16)
単位数	2.0
授業形態	講義

回数	授業内容
1回	企業の簿記に関する簿記の意味、簿記の目的を説明する。
2回	企業の簿記に関する簿記の役割(利用価値)、簿記の種類を説明する。
3回	簿記の要素に関する貸借対照表、とりわけ資産と負債、純資産について説明する。
4回	簿記の要素に関する損益計算書、とりわけ収益と費用について説明する。
5回	取引と勘定に関するさまざまな簿記に関する取引やその勘定について具体的事例を用いて説明する。
6回	仕訳と転記に関するさまざまな簿記に関する取引やその勘定について、取引要素の結合関係を説明する。
7回	仕訳と転記に関する取引を勘定に記入する前に、取引内容を分析し、どの勘定科目を、貸借どちらか、幾らの金額を記入するのか説明する。さらに総勘定元帳に転記することを説明する。
8回	仕訳帳と元帳に関する仕訳帳とその役割、仕訳帳の記入法、元帳の意味と役割、さらに元帳の記入法を説明する。
9回	試算表に関する意味と種類、その作成、試算表と貸借平均の原理について説明する。
10回	精算表に関するその貸借合計が一致しない場合の調査法、試算表でも発見できない誤り、精算表について説明する。
11回	決算(その1)に関する決算の意味と手続き、元帳の締切り、繰越試算表の作成について説明する。
12回	決算(その2)に関する仕訳帳・補助簿の締切り、財務諸表の作成について説明する。
13回	現金・預金の記帳に関する現金、現金出納帳、現金過不足、当座預金、当座借越について説明する。
14回	現金・預金の記帳に関する当座預金出納帳、その他の預貯金、小口現金、小口現金出納帳について説明する。
15回	商品売買取引に関する傷害商品売買の処理法(分記法、総額法、三分法)について説明するとともに、講義の総括をする。
16回	1回～15回までの総括を行い、最終評価試験を実施する。

回数	準備学習
1回	1回テキストとプリントによる練習問題を解いてもらい、解説するため復習をすること(標準学習時間90分)。
2回	2回テキストとプリントによる練習問題を解いてもらい、解説をするため復習と次回の予習をすること(標準学習時間90分)。
3回	3回テキストとプリントによる練習問題を解いてもらい、解説をするため復習と次回の予習をすること(標準学習時間90分)。
4回	4回テキストとプリントによる練習問題を解いてもらい、解説をするため復習と次回の予習をすること(標準学習時間90分)。
5回	5回テキストとプリントによる練習問題を解いてもらい、解説をするため復習と次回の予習をすること(標準学習時間90分)。
6回	6回テキストとプリントによる練習問題を解いてもらい、解説をするため復習と次回の予習をすること(標準学習時間90分)。
7回	7回テキストとプリントによる練習問題を解いてもらい、解説をするため復習と次回の予習をすること(標準学習時間90分)。
8回	8回テキストとプリントによる練習問題を解いてもらい、解説をするため復習と次回の予習をすること(標準学習時間90分)。
9回	9回テキストとプリントによる練習問題を解いてもらい、解説をするため復習と次回の予習をすること(標準学習時間90分)。
10回	10回テキストとプリントによる練習問題を解いてもらい、解説をするため復習と次回の予習をすること(標準学習時間90分)。
11回	11回テキストとプリントによる練習問題を解いてもらい、解説をするため復習と次回の予習をすること(標準学習時間90分)。
12回	12回テキストとプリントによる練習問題を解いてもらい、解説をするため復習と次回の予習をす

	ること（標準学習時間90分）。
1 3 回	13回テキストとプリントによる練習問題を解いてもらい、解説をするため復習と次回の予習をすること（標準学習時間90分）。
1 4 回	14回テキストとプリントによる練習問題を解いてもらい、解説をするため復習と次回の予習をすること（標準学習時間90分）。
1 5 回	15回テキストとプリントによる練習問題を解いてもらい、解説をするため復習をすること（標準学習時間90分）。
1 6 回	1回～15回までの内容をよく理解し整理しておくこと（標準学習時間90分）。

講義目的	商業簿記を初めて学ぶ人たちのために、その基礎となる複式簿記の知識と技術を詳しく解説する。本講義では、企業や商店の日々の経営活動を記録・集計・計算して、経営成績と財政状態を明らかにする技術とその理論を修得することを目的としている（社会情報学科の学位授与方針項目Bにもっとも強く関与、項目Cに強く関与する）。
達成目標	簿記を理解することによって、経理事務に必要な会計知識だけではなく、財務諸表を読む力や基礎的な経営管理、分析力などを身につけることを達成目標とする。
キーワード	商業簿記、工業簿記、財務会計、管理会計
成績評価（合格基準60	最終評価試験(100%)により成績を評価し、60%以上を合格とする。
関連科目	ファイナンシャルプランニング
教科書	入門簿記のエッセンス / 岡部勝成 / 中央経済社 / 新刊のため3月に出版予定である。
参考書	適宜指示する。
連絡先	A1号館 7 階岡部研究室
注意・備考	(1)毎回のリアクションペーパーによりフィードバックを行う。(2)試験は最終評価試験期間に行い、試験形態は筆記試験とする。 (3)電卓もしくはそろばんを持参すること（ただし、計算する場合に限り電子手帳や携帯電話は講義では使用を認めるが、最終評価試験では禁止する）。 (4)毎回必ず出席すること（安易に欠席すると講義が理解できなくなる恐れがあるので注意のこと）。 (5)講義中の録音 / 録画 / 撮影は他の学生の妨げにならないよう自由とするが、他者への再配布やネットへのアップロードは禁止する。
試験実施	実施する

科目名	経営システム【月2月3】(FIV2B310)
英文科目名	Management System
担当教員名	辻野義雄(つじのよしお)
対象学年	3年
開講学期	春2
曜日時限	月曜日 2時限 / 月曜日 3時限
対象クラス	社会情報学科
単位数	2.0
授業形態	講義

回数	授業内容
1回	ガイダンス(講義の内容と進め方について説明と化粧品企業の定義について説明する。「薬事法から化粧品とは何か?」「化粧品企業とは何か?」)
2回	身の回りの化粧品を持ち合い、その商品から化粧品企業や業界について説明する。
3回	化粧品企業とは何か?その組織や構造について説明する。
4回	化粧品業界を流通面から歴史的背景を踏まえながら解説する。
5回	化粧品業界を商品面から歴史的背景を踏まえながら解説する。
6回	化粧品業界を顧客面から歴史的背景を踏まえながら解説する。
7回	市場調査等のリサーチ手法から化粧品企画の業務について説明する。
8回	企画案から商品設計までの過程について説明する。
9回	化粧品の開発過程を実例をもとに説明する。
10回	化粧品販売の実態について説明する。
11回	グループ演習により「この講義で何を学び、何を得たか」を考え、グループ内で意見をまとめる。
12回	グループ演習によりまとめた「この講義で何を学び、何を得たか」に関する意見をもとに、プレゼンテーション資料を作成する。
13回	「この講義で何を学び、何を得たか」について、グループで発表する。
14回	「この講義で何を学び、何を得たか」について、グループで発表する。
15回	評価結果に対して、フィードバックを行い、講義全体を総括する。

回数	準備学習
1回	基本事項(以下は毎回継続学習の事) 授業内容の確認と復習(コメントシート)、授業時に指定する予習課題の課題レポートを次回に提出、各自期限(追って通知)までにレポートを作成提出する。(標準学習時間90分)
2回	基本事項(以下は毎回継続学習の事) 授業内容の確認と復習(コメントシート)、授業時に指定する予習課題の課題レポートを次回に提出、各自期限(追って通知)までにレポートを作成提出する。(標準学習時間90分)
3回	基本事項(以下は毎回継続学習の事) 授業内容の確認と復習(コメントシート)、授業時に指定する予習課題の課題レポートを次回に提出、各自期限(追って通知)までにレポートを作成提出する。(標準学習時間90分)
4回	基本事項(以下は毎回継続学習の事) 授業内容の確認と復習(コメントシート)、授業時に指定する予習課題の課題レポートを次回に提出、各自期限(追って通知)までにレポートを作成提出する。(標準学習時間90分)
5回	基本事項(以下は毎回継続学習の事) 授業内容の確認と復習(コメントシート)、授業時に指定する予習課題の課題レポートを次回に提出、各自期限(追って通知)までにレポートを作成提出する。(標準学習時間90分)
6回	基本事項(以下は毎回継続学習の事) 授業内容の確認と復習(コメントシート)、授業時に指定する予習課題の課題レポートを次回に提出、各自期限(追って通知)までにレポートを作成提出する。(標準学習時間90分)
7回	基本事項(以下は毎回継続学習の事) 授業内容の確認と復習(コメントシート)、授業時に指定する予習課題の課題レポートを次回に提出、各自期限(追って通知)までにレポートを作成提出する。(標準学習時間90分)
8回	基本事項(以下は毎回継続学習の事) 授業内容の確認と復習(コメントシート)、授業時に指定する予習課題の課題レポートを次回に提出、各自期限(追って通知)までにレポートを作成提出する。(標準学習時間90分)
9回	基本事項(以下は毎回継続学習の事) 授業内容の確認と復習(コメントシート)、授業時に指定する予習課題の課題レポートを次回に提出、各自期限(追って通知)までにレポートを作成提出する。(標準学習時間90分)
10回	基本事項(以下は毎回継続学習の事) 授業内容の確認と復習(コメントシート)、授業時に指

	定する予習課題の課題レポートを次回に提出、各自期限(追って通知)までにレポートを作成提出する。(標準学習時間90分)
1 1 回	事前に自分の意見をまとめておくこと(標準学習時間90分)
1 2 回	事前に自分の意見をまとめておくこと(標準学習時間90分)
1 3 回	総合演習評価シートを用いて、他グループの発表に内容进行评估し、まとめておく。(標準学習時間90分)
1 4 回	総合演習評価シートを用いて、他グループの発表に内容进行评估し、まとめておく。(標準学習時間90分)
1 5 回	チーム内フィードバックシートにより、グループ内での貢献度について評価し、まとめておく。(標準学習時間90分)

講義目的	シャンプーや歯磨きから美白クリーム、メイクアップまで幅広いカテゴリーからなる化粧品は、生活必須品となっている。身近な存在である化粧品は、その取り巻く環境(市場、法規、流行など)の変化と共に変化し続けており、その経営には様々な工夫がなされている。この化粧品業界の経営システムについて、流通・商品・顧客の3点を中心に、裏話を含めて、わかりやすく説明する。そして、化粧品企業や業界において、どのような業務があるかを学び、受講者個々が業界で活躍できる目標を定める能力を習得していく。(社会情報学科の学位授与方針項目CおよびFにもっとも強く関与、項目Bに強く関与)
達成目標	1.化粧品企業の組織や構造を理解する。2.化粧品業界の全体像を理解する。3.流通・商品・顧客を中心に化粧品が出来るまでの仕組みを理解する。4.以上のことから化粧品業界の経営システムを学び、自分自身が化粧品業界でどの様に貢献できるかを考える力を習得する。
キーワード	マーケティング、化粧品、サービス、経営情報システム
成績評価(合格基準60)	コメントシート20%、課題レポート30%と総合演習50%により成績を評価する。採点の基準は100点満点のうち60点以上を合格とする。また、授業回数の3分の1以上欠席した場合は試験評価を無効と見なし、"E"評価とする。
関連科目	前期の「市場行動」の理解を前提としている為、必ず既に、「市場行動」を受講していること(必須)。
教科書	配布する講義資料による。
参考書	コスメティックサイエンス—化粧品の世界を知る— / 宮澤三雄 / 共立出版 / 978-4-320-06177-4
連絡先	C2号館7F 辻野研究室 or A1号館7階 山口研究室
注意・備考	毎回予習の課題レポート提出と理解度を確認するためのコメントシートを提出する。講義終盤にグループ討議による総合演習を行う。
試験実施	実施しない

科目名	データ解析基礎(再)【月3水3】(FIV2C110)
英文科目名	Introduction to Data Analysis
担当教員名	黒田正博(くろだまさひろ)
対象学年	1年
開講学期	春2
曜日時限	月曜日 3時限 / 水曜日 3時限
対象クラス	社会情報学科(～16)
単位数	2.0
授業形態	講義

回数	授業内容
1回	統計調査の意義と目的：統計の有用性とデータの誤用を説明する。
2回	質的データ(1変量データ)のまとめかたと読み方について説明する。
3回	度数分布表とヒストグラムによる調査データのまとめかたと読み方について説明する。
4回	中央傾向を表現する代表値とその利用(平均値、中央値、最頻値など)と読み方について説明する。
5回	散らばり傾向を表現する代表値とその利用(四分位数、分散、標準偏差、変動係数など)
6回	箱ひげ図による調査データのまとめかたと読み方
7回	2変量質的データの2x2クロス集計表と変量間の独立性について説明する。
8回	2変量質的データのrx cクロス表と変量間の独立性について説明する。
9回	多変量質的データのクロス集計表と連関性について説明する。
10回	相関係数と散布図による量的データ(2変量)のまとめかたと読み方について説明する。
11回	相関関係と因果関係、偏相関係数の概念について説明する。
12回	線形回帰の考え方と回帰式のデータへの当てはめについて
13回	線形回帰式の説明力の評価について
14回	複数の要因でデータを説明する方法について
15回	記述統計から推測統計へ～記述統計と推測統計の違い～
16回	これまでの内容を総括し、最終評価試験を実施する。

回数	準備学習
1回	統計調査の方法について予習しておくこと(標準学習時間60分)
2回	質的データとはどのような性質を持っているか予習しておくこと(標準学習時間60分)
3回	代表的なデータのまとめ方を予習しておくこと(標準学習時間60分)
4回	データの分布を調べることで何が得られるかを予習しておくこと(標準学習時間60分)
5回	データの散布度を調べることで何が得られるかを予習しておくこと(標準学習時間60分)
6回	データの散布度の視覚的な表現とその読み方を予習しておくこと(標準学習時間60分)
7回	クロス集計表の性質を予習しておくこと(標準学習時間60分)
8回	rx c集計表はどのようにして作成するかを理解しておくこと(標準学習時間60分)
9回	連関性と独立性の意味の違いを予習しておくこと(標準学習時間60分)
10回	量的データはどのような特徴を持っているかを予習しておくこと(標準学習時間60分)
11回	因果関係と相関関係の意味を調べ、違いを理解しておくこと(標準学習時間60分)
12回	相関係数の意味を復習しておくこと(標準学習時間60分)
13回	線形回帰の意味について復習しておくこと(標準学習時間90分)
14回	決定係数の意味および決定係数と相関係数の関係について理解をしておくこと(標準学習時間90分)
15回	統計的推定の目的について予習しておくこと(標準学習時間90分)
16回	講義内容をよく理解し整理しておくこと(標準学習時間180分)

講義目的	社会調査あるいは調査報告で得られたデータの集計方法としての度数分布表の作成法と読み方、グラフの読み方、平均値、分散などの基本統計量の算出と読み取りなど記述統計の基礎を学んだのち、質的データに対するクロス集計表の作成とその解釈について学習する。また、相関係数の読み方と擬似相関の存在、因果関係と相関関係の違いについても言及する。さらに、線形回帰によるデータの当てはめと、その評価方法についても学ぶ。(経営学科の学位授与方針項目Aにもっとも強く関与、項目Eに強く関与する。社会情報学科の学位授与方針項目Aにもっとも強く関与、項目Eに強く関与する)
達成目標	(1) データからの情報抽出とデータ処理に必要なとなる統計的手法を身につけること。(2) 統計データの読み方や統計的仮説の検証方法や予測に関する基礎などを学習すること。
キーワード	データ集計と視覚化、相関関係と因果関係、線形回帰
成績評価(合格基準60)	最終評価試験(100%)により成績を評価し、60%以上を合格とする。
関連科目	本科目に引続き「社会情報入門」「社会調査法」「データ解析システム」「行動計量学」を受講することが望ましい。

教科書	経済・経営系のための統計入門 / 景山 三平 (監修), 元山 斉 (編集), 伊藤 有希 (編集), 高橋 一 (編集) / 実教出版 / 978-4407337112
参考書	適宜指示する。
連絡先	黒田研究室 A1号館8階
注意・備考	(1) 「社会調査士」の認定科目である。 (2) この講義では、補助教材及び演習課題とその解答をMomo-campusを通じて配布する。 (3) 講義中の録音 / 録画 / 撮影は他の受講者の妨げにならない限り自由とするが、他者への再配布（ネットへのアップロードを含む）は禁止する。
試験実施	実施する

科目名	経営情報(再)【火1金1】(FIV2F210)
英文科目名	Management Information
担当教員名	水谷直樹(みずたになおき)
対象学年	2年
開講学期	春2
曜日時限	火曜日 1時限 / 金曜日 1時限
対象クラス	社会情報学科(～16)
単位数	2.0
授業形態	講義

回数	授業内容
1回	イントロダクションとして、本講義全体を解説する。
2回	不確かな状況のもとで行われる意思決定に関して、人々の行動に合理的な説明を与える意思決定の理論について概説する。
3回	不確かな状況のもとで幾つかの代替案の中から最適なものを選ぶ際の決定基準について、代表的なものを解説する。
4回	人々の意思決定を理解する道具として、期待効用仮説を解説する。意思決定の結果として得られる利得が確率的である場合の利得評価について学ぶ。
5回	不確実性下の意思決定を期待効用仮説にもとづいて説明する場合に、グラフを活用する方法について説明する。
6回	期待効用仮説によって種々の意思決定が説明できることを示す。保険が購入される理由、ビジネスの多角化が行われる理由などを期待効用仮説を用いて説明する。
7回	情報の非対称性について解説する。売り手と買い手との間で保有する情報量に大きな差がある場合の市場への影響について説明する。
8回	情報の非対称性が存在することによって生じる種々の問題を取り上げて説明するとともに、解決する方策について解説する。
9回	商品あるいはサービスの販売において、情報が非対称である場合に採用される戦略としての価格差別について解説する。
10回	人間の合理性には限界があるため、最適でないとしても満足できる選択肢を発見しようとしている。その場合に人間が用いる簡便な問題解決法について解説する。
11回	簡便な問題解決法による意思決定では、明らかな誤りを犯すことがある。そのような誤りを列挙して具体例を示す。
12回	人は直感で考えて正しい意思決定をすることもあるが、明らかな誤りを選ぶこともある。誰もが持っている特性で、意思決定のミスにつながりやすい特性を解説する。
13回	不確実性下における意思決定モデルの1つであるプロスペクト理論について解説する。
14回	行動経済学について全体をまとめるとともに、応用分野を紹介する。
15回	最終評価試験
16回	最終評価試験への出題についてのフィードバックを行う。

回数	準備学習
1回	シラバスを確認するとともに、経済原論のうちミクロ経済学に登場する「個人の効用」について復習しておくこと。(標準学習時間1.5時間)
2回	自分が携帯電話あるいはスマートフォンを購入した際に、多くの機種から現在保有する機種を選んだ理由や選択した経過を説明できるようにしておくこと。(標準学習時間1時間)
3回	前回の講義内容を復習しておくこと。(標準学習時間1.5時間)
4回	経済原論のうちミクロ経済学で学んだ個人の効用および効用関数の特性について復習しておくこと。(標準学習時間1.5時間)
5回	火災保険や自動車保険等の保険に加入する際、自分はいくらまでなら保険料を払うか考えるとともに、そのように計算する根拠を明確に説明できるようにしておくこと。(標準学習時間1時間)
6回	起きるかどうかわからない事故を対象に保険金を支払う保険会社のビジネスを成り立たせるための工夫について考察すること。(標準学習時間1時間)
7回	商品が高度化したスマートフォンなどで、売り手と買い手の間で商品に関して保有する情報量に大きな差が生じていることを確かめること。(標準学習時間1時間)
8回	売り手と買い手の間で商品に関して保有する情報量に差が生じている場合に、どのような問題が起きるのか推測しておくこと。(標準学習時間1.5時間)
9回	同一の商品が、販売相手や時間等の違いによって異なる価格で販売されている例について調べておくこと。(標準学習時間1.5時間)
10回	一般生活において経験する錯覚を類型化するとともに、経済的錯覚の例をあげよ。(標準学習時間1.5時間)
11回	これまでに経験した買い物の失敗等、選択における失敗について思い出し、その原因を説明できるようにしておくこと。(標準学習時間1時間)

1 2 回	前回の授業で紹介した簡便な問題解決法を用いたために、意思決定の失敗につながってしまう例を説明できるようにしておくこと（標準学習時間1時間）
1 3 回	当選金の期待値が低いことを知っているのに、人々が宝くじを購入する理由について考察しておくこと。（標準学習時間1.5時間）
1 4 回	プロスペクト理論について復習しておくこと。（標準学習時間1.5時間）
1 5 回	これまでに学んだ内容を振り返っておくこと。（標準学習時間1.5時間）
1 6 回	最終評価試験で出題された内容を復習しておくこと。（標準学習時間1.5時間）

講義目的	ビジネスの中で、顧客の購買意思決定の仕組みの解明は重要な分析課題であり、解き明かされればマーケティング分野に多大な貢献を果たすと考えられる。 本講義では、主としてマーケティング分野への応用を念頭に、人の意思決定についての理論を学ぶ。 そして、必ずしも合理的でない個人が意思決定においてどのような過ちを犯すか学ぶとともに、その特性を活用する事例について考察する。 （社会情報学科の学位授与方針項目 B および F にもっとも強く関与する。）
達成目標	・ グラフに描かれた効用関数を用いて、期待効用仮説を説明することができる。 ・ 情報の非対称性およびそれによって起きる種々の問題を理解するとともに、それら問題を解決するための方策について説明することができる。 ・ 合理性に限界のある人間が行う意思決定において、たびたび採用される簡便な問題解決法およびそれによって起きる典型的過ちについて理解し説明できる。
キーワード	意思決定理論、行動経済学、情報の非対称性
成績評価（合格基準60	最終評価試験（70%） および 適宜実施する小テスト（30%）により成績を評価し、総計で60% 以上を合格とする。
関連科目	経済原論
教科書	配布する講義資料による。
参考書	授業中に紹介する。
連絡先	水谷研究室 A1号館 8 階 （mizutani@mgt.ous.ac.jp） オフィスアワーは mylog 掲載のオフィスアワー欄を参照のこと。
注意・備考	講義においては、適宜小テストを実施し、その結果については次の講義時間にてフィードバックを行う。
試験実施	実施する

科目名	行政学(再)【火2金2】(FIV2G210)
英文科目名	Public Administration
担当教員名	鷲見哲男(わしみてつお)
対象学年	2年
開講学期	春2
曜日時限	火曜日 2時限 / 金曜日 2時限
対象クラス	社会情報学科(～16)
単位数	2.0
授業形態	講義

回数	授業内容
1回	オリエンテーション、授業の進め方、評価の行い方について説明する。 我が国でまちづくりが盛んに取り上げられている理由について説明する
2回	まちづくりとはどのような活動なのか説明する。まちづくりの特色や可能性について説明する。
3回	近年のまちづくりの変遷について説明する。住民主体のまちづくりについて説明する
4回	グローバル化とは何かを明らかにし、グローバル化と地域産業の関係について説明する。まちを活性化する地域産業の事例について説明する。
5回	観光による地域振興について具体的な事例によって説明する。国を初めとした行政の動きや大手旅行業がかかわる産業としてのツーリズムについて説明する(1回目)。
6回	観光による地域振興について具体的な事例によって説明する。地域のコミュニティを起点とした着地側の視点から産業としてのツーリズムについて説明する(2回目)
7回	我が国の人口減少を伴う少子高齢化について説明する。人口の減少と地域商業の関係を説明する。
8回	まちづくりと地方自治体・財政・の関係について説明する。近年の行政の施策について説明する。
9回	まちなみと地域デザインについて説明する。まちなみを守る活動について説明する。
10回	実際のまちづくりの活動について具体例を挙げながら説明する。特徴や長所・短所について説明する。
11回	岡山近隣の町を対象に具体的なまちづくりプランについてグループワークを行う。
12回	グループワークを行う。
13回	引き続きグループワークを行う。次回の発表会に向けて準備する。
14回	グループワークの発表会を行う。講評を行う
15回	授業全体の振り返りを行う。
16回	最終評価試験を実施する。

回数	準備学習
1回	シラバスを確認しておく。教科書の序章を読んでおくこと(標準学習時間60分)
2回	教科書の第2章・第3章を読んでおくこと(標準学習時間120分)
3回	教科書の第4章5章を読んでおくこと(標準学習時間120分)
4回	地域産業の事例を紹介するので、それらについて調べてくる(標準学習時間120分) (第5回授業時にレポート提出)
5回	配布資料に取り上げられた事例について調べてくること(標準学習時間120分)
6回	配布資料に取り上げられた事例について調べてくること(標準学習時間120分)
7回	配布資料の該当部分を読んでおくこと(標準学習時間120分)
8回	キーワードを提示するのでそのキーワードについて調べてくる(標準学習時間120分) (第9回授業時にレポート提出)
9回	教科書の第9章を読んでおくこと(標準学習時間120分)
10回	紹介する地域をあらかじめ提示するので、その地域について調べてくる(標準学習時間120分)
11回	グループワークの学習対象となる「まち」の候補を調べてくる。
12回	調べること・考察することについて、準備してくる(標準学習時間120分)
13回	まちづくりのアイデアについて、調査し・考えてくること(標準学習時間120分)
14回	パワーポイント等の発表資料を整える。配布用の資料を準備する。(標準学習時間120分)
15回	テキスト・ノート等を復習しておくこと(標準学習時間180分)
16回	講義内容をよく理解し整理しておくこと(標準学習時間180分)

講義目的	「まちづくり」とは外面的な形をもつ「まち」を整えてゆくことに加え、地域で生活し働いてゆく人々にとっての機能であり、コミュニティを形成してゆくことであるといえよう。我が国は少子高齢化を伴う人口減少局面に差し掛かっており、今後社会人として活躍していゆく岡山理科大学の学生諸君には、「まち」が元気で持続可能な社会に不可欠なものであることを事例や研究を通じ理解することは社会人の資質として大切なことであると考えられる。 本授業を通じ、社会の一員として活動してゆくことの重要性和指針を理解し、行動に移すことができる人財となるきっかけとしたい。(社会情報学科の学位授与方針項目BFにもっとも強く関与、項目Cに強く関与する)
------	---

達成目標	地域コミュニティにとって「まちづくり」を継続することが重要であることを理解し、第三者に説明できる。 地域経済に資することが「まちづくり」と密接にかかわっていることを理解し、ビジネスと地域の関係を説明できる。 具体的なまちづくりの事例を通じ、地域の発展にはハード面の整備に加え、人々のかかわりが重要であることを理解し、説明できる。 これから迎える高齢化・少子化を伴う人口減少への対応策について理解し、説明できる。 観光振興によるまちづくりの効用を理解し、説明できる。
キーワード	少子高齢化を伴う人口減少 地域コミュニティ（住民主体のまちづくり） 観光まちづくり 行政の役割、住民の役割、地域団体の役割 地域産業（地場産業・伝統産業） 街のにぎわいと地域商業の関係（中心市街地・インキュベーション） 美しい街並みと景観行政
成績評価（合格基準60）	小テスト（10分）× 2回 5点× 2回 レポート提出× 2回 20点× 2回 最終評価試験 50点満点 上記100点満点で60点以上を合格とする。ただし、最終評価試験は30点以上得点していることを要件とする。
関連科目	地域と伝統 観光ビジネス
教科書	まちづくりを学ぶ 西村幸夫編 有斐閣ブックス ISBN978-4-641-18390-2
参考書	地域プラットフォームによる観光まちづくり 大社充 学芸出版社 ISBN978-4-7615-2546-0 / 里山資本主義 藻谷浩介 角川ONEテーマ2 1 ISBN-978-4-04-110512-2 / 外国人が熱狂するクールな田舎の作り方 山田拓 新潮新書 ISBN978-4-10-610748-1 / その他都度紹介する
連絡先	鷲見研究室 A 1号館 6階 605号室 x-lwash_t@mgt.ous.ac.jp
注意・備考	(1) この授業では、地域振興や観光振興に関わる講義内容が含まれている。まちの活性化を観光という視点から検討してゆくのであらかじめ理解しておくこと。 (2) この授業では、課題とその解答例をMomo-campusを通じて配布する。 (3) この授業ではアクティブラーニングの一環としてグループワークを行う。 (4) 講義中の録音／録画／撮影は他の受講者の妨げにならない限り自由とするが、他者への再配布（ネットへのアップロードを含む）は禁止する。
試験実施	実施する

科目名	地理情報解析【火2木2】(FIV2G310)
英文科目名	Geographic Information Analysis
担当教員名	佐藤丈晴(さとうたけはる)
対象学年	3年
開講学期	春2
曜日時限	火曜日 2時限 / 木曜日 2時限
対象クラス	社会情報学科
単位数	2.0
授業形態	講義

回数	授業内容
1回	指導の方針と目的を説明する。講義の進め方と基本的ルールを確認する。 また、成績のつけ方について具体的に説明する。
2回	国土地理院で発行されている地図について説明する。
3回	さまざまな縮尺の地図の作成について説明する。
4回	地図を読むという感覚について説明する。
5回	地図の投影について説明する。
6回	第5回までの学習内容を整理し、説明する。 小テストを実施する。
7回	現地調査の方法を説明し、準備を行う。
8回	現地にて、調査内容について説明を行い、班単位で学生が調査する。
9回	現地にて、調査内容について説明を行い、班単位で学生が調査する。
10回	現地にて、調査内容について説明を行い、班単位で学生が調査する。
11回	現地にて、調査内容について説明を行い、班単位で学生が調査する。
12回	現地にて、調査内容について説明を行い、班単位で学生が調査する。
13回	現地調査結果を発表し、発表に基づいて説明する。【テーマ1：都市の回遊性】
14回	現地調査結果を発表し、発表に基づいて説明する。【テーマ2：現地住民を対象とした防災対策】
15回	現地調査結果を発表し、発表に基づいて説明する。【テーマ3：中心市街地の活性化】

回数	準備学習
1回	ノートを準備(第1回目の講義には持参)すること。
2回	国土地理院発行の地形図を予習しておくこと(標準学習時間90分)。
3回	さまざまな縮尺の地形図を目的・用途について予習しておくこと(標準学習時間90分)。
4回	地図を「読む」ことについて調べておくこと(標準学習時間90分)。
5回	座標系を予習しておくこと(標準学習時間90分)。
6回	テスト範囲について勉強しておくこと(標準学習時間180分)。
7回	ガイダンスで配布した資料を基に現地調査の方法について考えておくこと(標準学習時間90分)。
8回	調査班ごとに調査の方法や役割分担などについて話し合い調査日で実施する内容について計画を立てること(標準学習時間90分)。
9回	調査班ごとに調査の方法や役割分担などについて話し合い調査日で実施する内容について計画を立てること(標準学習時間90分)。
10回	調査班ごとに調査の方法や役割分担などについて話し合い調査日で実施する内容について計画を立てること(標準学習時間90分)。
11回	調査班ごとに調査の方法や役割分担などについて話し合い調査日で実施する内容について計画を立てること(標準学習時間90分)。
12回	調査班ごとに調査の方法や役割分担などについて話し合い調査日で実施する内容について計画を立てること(標準学習時間90分)。
13回	発表日までに発表資料を作成すること(担当班のみ標準学習時間180分)。
14回	発表日までに発表資料を作成すること(担当班のみ標準学習時間180分)。
15回	発表日までに発表資料を作成すること(担当班のみ標準学習時間180分)。調査結果をレポートとしてまとめること(標準学習時間180分)。

講義目的	この科目は卒業認定・学位授与の方針(ディプロマポリシー)のBに該当します。 地図についての基本的な読み方を学び、地図から地域の地形地質等地球科学的現象の取得について説明する。さらに電子地図の利用により、従来からの紙ベースの地図から大幅に取り扱える情報が増加し、様々な情報が地理空間情報として利活用されている実態を理解する。その情報を基に実際に現地調査を経験し、これらの情報に基づいた調査方法を身に着ける。(社会情報学科の学位授与方針項目Cにもっとも強く関与する)
達成目標	・GISで作成された地図や統計資料を用いて実施される現地調査を経験し、理解する。 ・地理情報システムの基本的知識を有し、実際に取り扱える。

	・人前で積極的に発言できる。 (生物地球学科学学位授与の方針Bに最も強く関与、およびAに強く関与、およびCはある程度関与)
キーワード	地図、測地系、GIS
成績評価(合格基準60)	現地調査のレポート提出及び発表(80点)、小テストの結果(20点)により評価(100点)し、60点以上を合格とする。最終評価試験は実施しない。 第1回講義で現地調査の班分けを行い、調査場所や工程を決定するため、第1回講義に出席しなかった場合は履修を認めない(E評価:現地調査5回分の講義が受講できないため)。
関連科目	測地測量学
教科書	使用しない
参考書	適宜、プリント等を配布する。詳細はガイダンス時に説明する。
連絡先	C2号館6階 佐藤研究室
注意・備考	講義の受講における詳細(レポートの書き方、VOD講義の受講や受講日、現地調査も含む)は、第1回講義で説明するため、必ず出席すること。 第1回講義で現地調査の班分けを行い、調査場所や工程を決定するため、第1回講義に出席しなかった場合は履修を認めない(E評価:現地調査5回分の講義が受講できないため)。
試験実施	実施しない

科目名	民族・民俗学演習【火2金2】（FIV2G320）
英文科目名	Exercises in Ethnology and Folklore
担当教員名	山形真理子（やまがたまりこ）
対象学年	3年
開講学期	春2
曜日時限	火曜日 2時限 / 金曜日 2時限
対象クラス	社会情報学科
単位数	2.0
授業形態	演習

回数	授業内容
1回	ガイダンスを実施し、本授業の目的と進め方について説明する。
2回	日本の文化財保護の歴史と基本的なしくみについて講義する。
3回	ユネスコ世界文化遺産の概要と登録・管理システムについて講義する。
4回	ベトナム・ホイアンについて、町並み保存の歴史と観光の現状について講義する。
5回	中国雲南・麗江について、観光開発とナシ族の文化変容の関係について講義する。
6回	タイ・バンチェン遺跡について、考古学研究と遺跡の活用について講義する。
7回	インドネシア・サンギランについて、初期人類遺跡の活用と課題について講義する。
8回	日本の富士山について、富士山信仰の歴史と習俗、その継承について講義する。
9回	ベトナム・ミーソン遺跡について、チャンパの文化遺産と、チャム人の民族としてのアイデンティティーについて講義する。
10回	インドネシア・バリ島とスラウェシ島トラジャについて、特異な儀礼や習俗の維持と文化観光開発との関係について講義する。
11回	カンボジア・アンコール遺跡群について、巨大な世界遺産と地域住民の関係について講義する。
12回	ベトナム世界無形遺産「ゴングとその文化的空間」について、山間部少数民族固有の文化と生活について講義する。
13回	マレーシア・ペナンとマラッカについて、多民族都市の文化遺産保護について講義する。
14回	日本の産業遺産について、その利活用と地域振興について講義する。
15回	講義のまとめとして、各国・各民族の世界文化遺産が直面する課題の共通性と異質性について考察する。
16回	1回～15回までの総括を説明し、最終評価試験を実施する。

回数	準備学習
1回	授業内容の確認と復習を行なうこと 第2回目授業までに参考書などにより、日本の文化財保護法に関する基本的情報を集めること（標準学習時間60分）
2回	日本の文化財保護の歴史と文化財保護法について復習すること 第3回目授業までに参考書などにより、ユネスコ世界文化遺産登録手続について予習を行なうこと（標準学習時間60分）
3回	ユネスコ世界遺産の登録と管理のシステムについて復習すること 第4回目授業までに参考書などにより、ベトナムの世界文化遺産ホイアンの歴史について予習を行なうこと（標準学習時間60分）
4回	ホイアンの歴史と、町並み保存の現状と課題について復習を行なうこと 第5回授業までに雲南省麗江の地理と文化について予習を行なうこと（標準学習時間60分）
5回	麗江の観光ブームがナシ族の生活と文化に与えた影響について復習を行なうこと 第6回授業までに参考書などにより、タイの地理と歴史について基本的知識を身につけること（標準学習時間60分）
6回	東北タイ・バンチェン遺跡をめぐる考古学的価値の変遷について復習を行なうこと 第7回授業までに参考書などにより、インドネシア・ジャワ島の原人が残した遺跡について予習を行なうこと（標準学習時間60分）
7回	ジャワ島の世界遺産サンギラン原人遺跡について復習を行なうこと 第8回授業までに参考書などにより、富士山信仰について基本的情報を集めること（標準学習時間60分）
8回	富士山信仰の歴史と世界遺産登録後の変化について復習を行なうこと 第9回授業までに参考書などにより、チャンパの歴史と世界遺産ミーソン遺跡について予習すること（標準学習時間60分）
9回	チャンパの文化遺産とチャム族の現在の関係について復習を行なうこと 第10回の講義までに参考書などにより、インドネシア・バリ島とスラウェシ島の地理や文化について予習を行なうこと（標準学習時間60分）

10回	バリ島の文化観光振興の歴史と世界遺産となった灌漑システムについて、またスラウェシ島トラジャ族の固有の習俗について、復習を行なうこと 第11回の講義までに参考書などにより、カンボジアの地理とアンコール王朝の歴史について予習を行なうこと（標準学習時間60分）
11回	アンコール遺跡群の概要と住民とのかかわりの歴史について復習を行なうこと 第12回授業までに参考書などにより、「銅鼓」と「ゴング」について基本的情報を集めること（標準学習時間60分）
12回	国境をまたいで存在する有形・無形の文化遺産について復習を行なうこと 第13回の授業までに参考書などにより、マレーシアのペナン島とマラッカの地理と歴史について予習を行なうこと（標準学習時間60分）
13回	ペナンとマラッカにおけるマレー文化・中国文化・インド文化の共存について復習を行なうこと 第14回の授業までに参考書などにより、世界文化遺産に登録された日本の産業遺産について基本的情報を集めること（標準学習時間60分）
14回	石見銀山や富岡製糸場が世界文化遺産に登録された意義について復習を行なうこと 第15回の授業までに世界文化遺産が直面する様々な課題についてまとめておくこと（標準学習時間60分）
15回	世界文化遺産の現状と課題を通して見えてくる、アジアの民族・民俗文化の多様性について復習すること（標準学習時間60分）
16回	第1回～第15回の授業内容をよく理解し整理しておくこと（標準学習時間60分）

講義目的	1. 日本を含むアジアの文化遺産に注目し、その歴史的背景を学び、アジアの民族文化の多様性に関する理解を深める。 2. ユネスコ世界遺産の仕組みについて学ぶ。 3. 世界遺産登録が地域社会に及ぼした影響について考察する。 （社会情報学科の学位授与方針項目C、Fにもっとも強く関与、項目B、Dに強く関与する）
達成目標	1. 日本を含むアジアの文化遺産に関する基礎的知識を身につける。 2. ユネスコ世界遺産の仕組みについて理解する。 3. 文化遺産保護の必要性について理解する。 4. 文化遺産と国・民族・地域住民との関係について考える力を身につける。
キーワード	アジア、文化遺産、ユネスコ、世界遺産
成績評価（合格基準60%）	提出課題30%、最終評価試験（最終試験）70%により成績を評価し、100点満点中60点以上を合格とする。
関連科目	
教科書	
参考書	日本ユネスコ協会連盟（編集）/「ユネスコ世界遺産年報」1997-1998年～：肥塚隆責任編集/『世界美術大全集 東洋編 第12巻 東南アジア』/小学館/2001年：佐滝剛弘/『「世界遺産」の真実：過剰な期待、大いなる誤解』/祥伝社新書185/2009年：毛利和雄/『世界遺産と地域再生 - 問われるまちづくり』/新泉社/2011年：安江則子編著/『世界遺産学への招待』法律文化社/2011年：西村幸夫・本中眞編/『世界文化遺産の思想』東京大学出版会/2017年
連絡先	
注意・備考	(1) 「社会調査士」の認定科目である。 (2) 講義資料は講義開始時に配布する。 (3) 提出課題については、講義中に検討し、フィードバックを行う。 (4) 講義中の録音/録画/撮影は他の受講者の妨げにならない限り自由とするが、他者への再配布（ネットへのアップロードを含む）は禁止する。
試験実施	実施する

科目名	憲法要論(再)【火3金3】(FIV2H210)
英文科目名	Review of Constitution
担当教員名	川島聡(かわしまさとし)
対象学年	2年
開講学期	春2
曜日時限	火曜日 3時限 / 金曜日 3時限
対象クラス	社会情報学科(～16)
単位数	2.0
授業形態	講義

回数	授業内容
1回	オリエンテーション：講義の進め方を説明する。「法と何か」を具体例を用いて考える。
2回	憲法（人権論）について解説する。グループワークでは最高裁昭和44年6月25日判決（夕刊和歌山時事事件）と最高裁平成15年3月14日判決（長良川事件報道訴訟）を扱う。
3回	憲法（統治論）について解説する。グループワークでは最高裁昭和56年4月7日判決（板まんだら事件）と最高裁昭和34年12月16日判決（砂川事件）を扱う。
4回	行政法（総論）について解説する。グループワークでは最高裁昭和63年6月17日判決（行政行為の撤回の可否）と最高裁昭和61年3月25日判決（点字ブロック）を扱う。
5回	行政法（行政救済法）について解説する。グループワークでは最高裁平成5年3月30日判決（校庭開放中の事故）と最高裁昭和6年2月6日判決（学校事故と国家賠償）を扱う。
6回	民法（総則）について解説する。グループワークでは最高裁昭和61年6月11日判決（北方ジャーナル事件）と最高裁昭和56年3月24日判決（男女別定年制度）を扱う。
7回	民法（物権・債権）について解説する。グループワークでは最高裁昭和60年11月29日判決（贈与と書面）と最高裁平成3年4月2日判決（敷地利用権付建物の売買と瑕疵担保）を扱う。
8回	民法（親族・相続）について解説する。グループワークでは最高裁昭和45年4月21日判決（意識不明の間に受理された婚姻届の効力）と東京家裁八王子支部平成6年1月31日審判（親の命名権）を扱う。
9回	刑法（基本概念）について解説する。グループワークでは最高裁平成元年12月15日決定（不作為の因果関係）と最高裁平成17年7月4日決定（不作為による殺人）を扱う。
10回	刑法（構成要件）について解説する。グループワークでは最高裁平成15年7月16日決定（高速道路侵入と因果関係）と昭和42年10月24日決定（他人の行為と因果関係）を扱う。
11回	刑法（違法性）について解説する。グループワークでは最高裁平成元年11月13日判決（防衛行為の相当性）と大阪高裁平成14年9月4日判決（誤想防衛）を扱う。
12回	刑法（有責性）について解説する。グループワークでは長崎地裁平成4年1月14日判決（実行行為と責任能力）と大阪地裁昭和51年3月4日判決（原因において事由な行為）を扱う。
13回	国際法（法源）について解説する。グループワークでは札幌地裁平成9年3月27日判決（二風谷ダム事件）と最高裁昭和53年10月4日判決（マクリーン事件）を扱う。
14回	国際法（共存と協力の国際法）について解説する。グループワークでは札幌地裁平成14年11月11日判決（小樽入浴拒否事件）と高松高裁平成9年11月25日判決（受刑者接見妨害事件）を扱う。
15回	1回～14回までの復習を行う。
16回	第15回に続き、1回～14回までの復習をするとともに、最終評価試験を実施する。

回数	準備学習
1回	予習として法律に関する新聞記事をひとつ探してくること。（標準学習時間60分）
2回	予習として最高裁昭和44年6月25日判決（夕刊和歌山時事事件）と最高裁平成15年3月14日判決（長良川事件報道訴訟）の事実の概要と判旨を読んでくること。復習として、授業で扱った事件と論点について学んだ点を説明できるようにすること。（標準学習時間90分）
3回	予習として最高裁昭和56年4月7日判決（板まんだら事件）と最高裁昭和34年12月16日判決（砂川事件）の事実の概要と判旨を読んでくること。復習として、授業で扱った事件と論点について学んだ点を説明できるようにすること。（標準学習時間90分）
4回	予習として最高裁昭和63年6月17日判決（行政行為の撤回の可否）と最高裁昭和61年3月25日判決（点字ブロック）の事実の概要と判旨を読んでくること。復習として、授業で扱った事件と論点について学んだ点を説明できるようにすること。（標準学習時間90分）
5回	予習として最高裁平成5年3月30日判決（校庭開放中の事故）と最高裁昭和6年2月6日判決（学校事故と国家賠償）の事実の概要と判旨を読んでくること。復習として、授業で扱った事件と論点について学んだ点を説明できるようにすること。（標準学習時間90分）
6回	予習として最高裁昭和61年6月11日判決（北方ジャーナル事件）と最高裁昭和56年3月24日判決（男女別定年制度）の事実の概要と判旨を読んでくること。復習として、授業で扱った事件と論点について学んだ点を説明できるようにすること。（標準学習時間90分）
7回	予習として最高裁昭和60年11月29日判決（贈与と書面）と最高裁平成3年4月2日判決（敷

	地利用権付建物の売買と瑕疵担保)の事実の概要と判旨を読んてくること。復習として、授業で扱った事件と論点について学んだ点を説明できるようにすること。(標準学習時間90分)
8回	予習として最高裁昭和45年4月21日判決(意識不明の間に受理された婚姻届の効力)と東京家裁八王子支部平成6年1月31日審判(親の命名権)の事実の概要と判旨を読んてくること。復習として、授業で扱った事件と論点について学んだ点を説明できるようにすること。(標準学習時間90分)
9回	予習として最高裁平成元年12月15日決定(不作為の因果関係)と最高裁平成17年7月4日決定(不作為による殺人)の事実の概要と決定要旨を読んてくること。復習として、授業で扱った事件と論点について学んだ点を説明できるようにすること。(標準学習時間90分)
10回	予習として最高裁平成15年7月16日決定(高速道路侵入と因果関係)と昭和42年10月24日決定(他人の行為と因果関係)の事実の概要と決定要旨を読んてくること。復習として、授業で扱った事件と論点について学んだ点を説明できるようにすること。(標準学習時間90分)
11回	予習として最高裁平成元年11月13日判決(防衛行為の相当性)と大阪高裁平成14年9月4日判決(誤想防衛)の事実の概要と判旨を読んてくること。復習として、授業で扱った事件と論点について学んだ点を説明できるようにすること。(標準学習時間90分)
12回	予習として長崎地裁平成4年1月14日判決(実行行為と責任能力)と大阪地裁昭和51年3月4日判決(原因において事由な行為)の事実の概要と判旨を読んてくること。復習として、授業で扱った事件と論点について学んだ点を説明できるようにすること。(標準学習時間90分)
13回	予習として札幌地裁平成9年3月27日判決(二風谷ダム事件)と最高裁昭和53年10月4日判決(マクリン事件)の事実の概要と判旨を読んてくること。復習として、授業で扱った事件と論点について学んだ点を説明できるようにすること。(標準学習時間90分)
14回	予習として札幌地裁平成14年11月11日判決(小樽入浴拒否事件)と高松高裁平成9年11月25日判決(受刑者接見妨害事件)の事実の概要と判旨を読んてくること。復習として、授業で扱った事件と論点について学んだ点を説明できるようにすること。(標準学習時間90分)
15回	予習・復習として1回～14回までの内容をよく理解し整理しておくこと。(標準学習時間90分)
16回	予習として1回～14回までの内容をよく理解し整理しておくこと。(標準学習時間90分)

講義目的	さまざまな社会問題、政治問題、経済問題、文化問題を法的観点から考えるためには、法的な考え方(リーガル・マインド)を身につける必要がある。そこで、本講義では、法的観点から、現実にある種々の問題に対して、どのようにアプローチすべきかについて判例と学説を中心に解説する。そして、多様な問題をとりあげながら、憲法、民法、刑法、労働法、社会保障法、経済法、国際法について説明するとともに、判例を取り上げることで、社会における法の役割、機能、限界を理解することを本講義の目的とする。(経営学科の「学位授与の方針」の項目Bにもっとも強く関与し、項目Fに強く関与し、項目Aにある程度関与する)(社会情報学科の「学位授与の方針」の項目BおよびFにもっとも強く関与し、項目Cに強く関与する)
達成目標	(1) 憲法・行政法・民法・刑法・国際法の基本概念を身につける。 (2) 憲法・行政法・民法・刑法・国際法の基本判例を身につける。 (3) 憲法・行政法・民法・刑法・国際法を中心に法分野横断的な観点から、グループワークやディスカッションを通じて、法が果たしている役割を理解することができる。
キーワード	憲法・行政法・民法・刑法・国際法
成績評価(合格基準60)	基本的に最終評価試験100%により成績を評価し、100点満点中、60点以上を合格とする。
関連科目	「国際社会と法」「情報法」など
教科書	使用しない。レジメと資料を授業中に配布する。
参考書	六法(出版社・種類は問わない)
連絡先	川島研究室 A1号館7階
注意・備考	1) 授業では、グループワークやディスカッションを含むアクティブラーニングの手法を採用する。 2) 教科書は用いず、レジメと資料を授業中に配布する。 3) 予習と復習をすること。 4) 授業中の私語を禁ずる。 5) 講義中の録音/録画/撮影は原則認めない。特別の理由がある場合には事前に相談すること。 6) 授業中の演習課題についてのフィードバックは、Momo-campusのフィードバック機能を用いるか、あるいはその授業中に行う。
試験実施	実施する

科目名	サービス経営【火3金3】(FIV2H310)
英文科目名	Service Management
担当教員名	村松潤一(むらまつじゅんいち)
対象学年	3年
開講学期	春2
曜日時限	火曜日 3時限 / 金曜日 3時限
対象クラス	社会情報学科
単位数	2.0
授業形態	講義

回数	授業内容
1回	オリエンテーション(授業の狙いと進め方について説明する。サービスとは何かを説明する。)
2回	サービス経営のマネジメントについて説明する。
3回	サービス創造のマネジメントについて説明する。
4回	サービス経験のマネジメントについて説明する。
5回	サービス人材のマネジメントについて説明する。
6回	サービス品質のマネジメントについて説明する。
7回	おもてなしのマネジメントについて説明する。
8回	顧客ロイヤルティのマネジメントについて説明する。
9回	サービスによる価値創造について説明する。
10回	モバイル技術による価値創造について説明する。
11回	ITによる価値創造について説明する。
12回	モノとメンテナンスによる価値創造について説明する。
13回	ヒトとモノによる価値創造について説明する。
14回	平準化による価値創造について説明する。
15回	サービスの新たな展開について説明する。
16回	最終評価試験を実施する。試験終了後、試験問題について解説を行い、フィードバックする。

回数	準備学習
1回	事前に、サービスとは何かを具体的にイメージしておくこと。今日の企業経営にあって、何故、サービスが重要となっているかについて予習しておくこと。(標準学習時間90分)
2回	サービスを経営するとはどのようなことが予習しておくこと。(標準学習時間90分)
3回	サービスを創造するとはどのようなことが予習しておくこと。(標準学習時間90分)
4回	サービスにとって経験はどのような役割を果たすか予習しておくこと。(標準学習時間90分)
5回	サービスにとって人材はどのような役割を果たすか予習しておくこと。(標準学習時間90分)
6回	サービスの品質を評価するとはどのようなことが予習しておくこと。(標準学習時間90分)
7回	日本の「おもてなし」とはどのようなものが予習しておくこと。(標準学習時間90分)
8回	顧客の「強い思い」はサービスとモノとではどのように違うか予習しておくこと。(標準学習時間90分)
9回	企業が顧客に提供するサービスによって何が生み出されるか予習しておくこと。(標準学習時間90分)
10回	モバイル技術の普及によってどのようなサービス提供が始まったか予習しておくこと。(標準予習時間90分)
11回	ITを利用した価値創造の事例にどのようなものがあるか予習しておくこと。(標準学習時間90分)
12回	ヒトを中心としたサービスにおけるモノとは何か予習しておくこと。(標準学習時間90分)
13回	ヒトを中心としたサービスにおけるモノとは何か予習しておくこと。(標準学習時間90分)
14回	サービスの品質と平準化はどのような関係にあるか予習しておくこと。(標準学習時間90分)
15回	モノとして捉えるサービスの限界について予習しておくこと。(標準学習時間90分)
16回	1回から15回までの内容を良く理解しておくこと。(標準学習時間90分)

講義目的	サービスの考え方を多面的に捉え、その本質を明らかにする。(社会情報学科の学位授与方針項目Cにもっとも強く関与、項目Bに強く関与する)
達成目標	サービスを理論的に理解するとともに、新たなサービス及びビジネスの仕組みを生み出す柔軟な思考力の育成を図るものとする。
キーワード	サービス、マネジメント、ビジネス、
成績評価(合格基準60)	最終評価試験100%により評価する。
関連科目	流通ビジネス、市場行動
教科書	1からのサービス経営 / 伊藤宗彦・高室裕史 / 碩学社 / 978-4502676109
参考書	適宜、指示する。
連絡先	A1号館7階 村松潤一研究室 086-256-9845 jmura@mgt.ous.ac

	.jp オフィスアワーについてはmylogを参照のこと
注意・備考	講義資料は、毎回、講義開始時に配布する。なお、特別な事情がない限り、後日の配布には応じない。講義中の録音／録画／撮影は原則認めない。特別な理由がある場合、事前に相談すること。課題（レポートや小テスト）や試験に対するフィードバックとして、講義中および最終試験終了後に解説を行うこととする。
試験実施	実施する

科目名	マクロ経済解析(再)【火4金4】(FIV2I210)
英文科目名	Macro-Economics
担当教員名	三原裕子(みはらゆうこ)
対象学年	2年
開講学期	春2
曜日時限	火曜日 4時限 / 金曜日 4時限
対象クラス	社会情報学科(～16)
単位数	2.0
授業形態	講義

回数	授業内容
1回	ガイダンス。授業の進め方や経済学、さらにはミクロ経済学とマクロ経済学の違いについて説明する。
2回	日本の格差の現状およびその原因について説明する。
3回	第2回目の授業を踏まえて、格差の問題点を整理する。
4回	格差をはかる指標であるジニ係数について説明する。
5回	世代間格差について説明し、その現状を把握する。
6回	世代間格差の問題点を整理する。
7回	年金制度について説明する。
8回	年金制度と世代間格差について説明する。
9回	年金制度改革を考察するために必要な経済理論について説明する。
10回	9回目の講義をもとに、年金制度改革を考察するために必要な経済理論について説明する。
11回	年金制度改革に関する問題点を整理する。
12回	課税平準化理論について説明する。
13回	課税平準化理論を用いて、制度移行のタイミングについて説明する。
14回	事前積立方式を説明し、これまでの講義内容をまとめる。
15回	最終評価試験を実施する。
16回	最終評価試験のフィードバックとして出題意図と解答の解説をおこなう。

回数	準備学習
1回	ミクロ経済学はどのような学問であったかを整理しておくこと(標準学習時間60分)
2回	格差にはどのような種類があるか、調べてみる(標準学習時間60分)
3回	格差は必ずしも悪だろうか、考えてみる(標準学習時間60分)
4回	日本のジニ係数の推移について調べておくこと(標準学習時間60分)
5回	生まれるタイミングによって生じる格差とはどのようなものか、考えてみる(標準学習時間60分)
6回	世代間格差はなぜ問題なのか、調べておくこと(標準学習時間60分)
7回	年金制度の仕組みについて調べておくこと(標準学習時間80分)
8回	みなさんが受け取ると予測される年金額はいくらだろうか、調べてみる(標準学習時間60分)
9回	一次方程式を復習しておくこと(標準学習時間90分)
10回	消費者の効用最大化行動について復習しておくこと(標準学習時間120分)
11回	来年から年金制度を変更したとすると、どのような問題が生じるだろうか、考えてみる(標準学習時間60分)
12回	消費者の効用最大化行動における所得効果と代替効果について復習しておくこと(標準学習時間80分)
13回	年金制度改革を急ぐことで、どのような弊害が発生するだろうか、考えてみる(標準学習時間60分)
14回	年金制度の運営方式について再度復習しておくこと(標準学習時間60分)
15回	講義内容をよく理解し整理しておくこと(標準学習時間180分)
16回	最終評価試験の問題を復習しておくこと(標準学習時間90分)

講義目的	「格差」をキーワードとして講義を進めていく。格差とは何か、格差は拡大しているのか、格差を議論するうえで注意しなければいけない事は何か、などについて考えていく。また、年金制度においても世代間格差が注目されており、世代間格差を緩和するための政策とは何か、についても見ていく。 (社会情報学科の学位授与方針項目BとFにもっとも強く関与し、Cに強く関与する)
達成目標	経済学の基礎的な知識を身に付け、理論的に物事が判断できるための力を養う。 新聞記事を読み、自分自身で政策の効果が評価できるようになるための知識を身につける。 公務員試験や経済学検定試験等の資格試験取得のための力を養う。

キーワード	世代間格差、社会保障、年金制度
成績評価（合格基準60	小テスト30%、学期末試験70%により成績を評価し60点以上を合格とする。
関連科目	経済原論、ミクロ経済解析、国際経済論、地域経済分析
教科書	
参考書	人口経済学/加藤久和/日経文庫(1160)
連絡先	A1号館7F 三原研究室
注意・備考	(1) この講義では、レジュメはMomo-campusを通じて配布する。 (2) 講義中の録音／録画／撮影は原則禁止する。ただし、やむを得ない事情等により、事前に申し出た場合に限りほかの受講生の妨げにならない範囲で許可する。
試験実施	実施する

科目名	ジャーナリズム論【火4金4】(FIV2I310)
英文科目名	Journalism
担当教員名	八木一郎(やぎいちろう)
対象学年	3年
開講学期	春2
曜日時限	火曜日 4時限 / 金曜日 4時限
対象クラス	社会情報学科
単位数	2.0
授業形態	講義

回数	授業内容
1回	イントロダクション。講義の進め方について説明する。
2回	ジャーナリズムとは何か。その定義について学習する。
3回	ジャーナリズムの意義、役割について戦場の取材・報道を通じて学習する。
4回	戦争報道の歴史と「知る権利」の誕生について学習する。
5回	ニュースとは何か。ニュースがどういう要件で生まれるか、社会的な背景について学習する。
6回	ニュース取材が実際にどのように行われているか、現場に起きている事実がどう報道されるかについて学習する。
7回	「事実」や「真実」をめぐる近年のメディアやジャーナリズムのあり方について学習する。
8回	職業人としてのジャーナリストについて、日本と欧米比較しながら学習する。
9回	スクープ(特ダネ)について、その意味と歴史的な役割を学習する。
10回	あるルポルタージュを事例に、ルポができるまでのジャーナリストの取り組みを学習する。
11回	表現すること、報道することの意味を犯罪報道を通じて学習する。
12回	メディアが社会に与える様々な影響と、モラルの重要性について学習する。
13回	報道による被害、求められる倫理性について学習する。
14回	ジャーナリズムに対する批判とその背景について学習する。
15回	ネット時代のジャーナリズムのあり方について学習する。
16回	1回から15回までを総括し、最終評価試験を実施する。

回数	準備学習
1回	授業の内容の確認と復習。参考図書などにより、ジャーナリズムの定義について予習すること。(標準学習時間60分)
2回	ジャーナリズムについては多様な解釈があり、時代によっても変遷があることを復習し、その意義や役割について調べておくこと。(標準学習時間120分)
3回	戦争の悲惨さを伝えるうえで、ジャーナリズムの役割の重要性を復習し、近代の戦争の歴史を調べておくこと。(標準学習時間120分)
4回	「知る権利」「報道の自由」の大切さを復習し、日々の新聞やテレビでニュースに接しておくこと。(標準学習時間120分)
5回	ニュースが時代の変化に応じて異なることを復習し、日々の新聞やテレビでニュースに接しておくこと。(標準学習時間120分)
6回	ニュースが起きている現場での取材の大切さを復習し、日々の新聞やテレビでニュースに接しておくこと。(標準学習時間120分)
7回	報道を取り巻く最近の政治社会風潮の課題を復習し、日々の新聞やテレビでニュースに接しておくこと。(標準学習時間120分)
8回	ジャーナリストの果たすべき役割を復習し、日々の新聞やテレビでニュースに接しておくこと。(標準学習時間120分)
9回	民主主義社会における報道の意義について復習し、日々の新聞やテレビのニュースに接しておくこと。(標準学習時間120分)
10回	ルポライターが何を考え、どう表現し、伝えるか。その思考や葛藤について復習し、報道という仕事について予習する。(標準学習時間120分)
11回	報道の影響がどれだけ大きいものかを復習し、日々の新聞やテレビでニュースに接しておくこと。(標準学習時間120分)
12回	メディアには多様性が求められることを復習し、日々の新聞やテレビでニュースに接しておくこと。(標準学習時間120分)
13回	報道被害がどのように起きるのか、報道の公共性とどうバランスをとるかについて復習し、日々の新聞やテレビでニュースに接しておくこと。(標準学習時間120分)
14回	ジャーナリズム批判の背景にある問題点やメディア独自の課題について復習し、日々の新聞やテレビでニュースに接しておくこと。(標準学習時間120分)
15回	ネットという新しい情報環境の中でのジャーナリズムの役割について復習し、日々の新聞やテレビでニュースに接しておくこと。(標準学習時間120分)
16回	これまでの講義内容を理解し、整理しておくこと。(標準学習時間120分)

講義目的	ジャーナリズムの歴史を学び、マスメディア社会でのジャーナリズムが果たしてきた役割を学ぶ。さらにネットの普及による新しい情報環境の中で、これからジャーナリズムが果たすべき役割について考えていく。（社会情報学科の学位授与方針項目Bに最も強く関与、項目Cに強く関与、項目Eにある程度関与する）（経営学科の学位授与方針項目Bに最も強く関与する）
達成目標	民主主義社会の土台となる「知る権利」や「表現の自由」の重要性を認識し、権力の監視やチェックをするメディアの言論活動について理解を深める。
キーワード	言論・評論活動、知る権利、調査報道、発表ジャーナリズム
成績評価（合格基準60	最終評価試験100%により成績を評価し、総計で得点率60%以上を合格とする。
関連科目	マスメディア論、コミュニケーション、情報メディア
教科書	使用しない
参考書	はじめてのメディア研究/浪田陽子・福岡良明編/世界思想社：メディアは社会を変えるのか/津田正太郎/世界思想社：ジャーナリズム「現」論/亘英太郎/世界思想社
連絡先	A1号館6階 八木研究室
注意・備考	講義資料は講義時に配布する。後日配布は特別の事情がない限り応じない。講義中の録音/録画/撮影は原則認めない。特別の理由がある場合には事前に相談すること。最終評価試験についてのフィードバックは、Momo-campusのフィードバック機能を用いて行う。
試験実施	実施する

科目名	環境政策【水3水4】(FIV2N310)
英文科目名	Environmental Policy
担当教員名	山口卓勇* (やまぐちたくお*)
対象学年	3年
開講学期	春2
曜日時限	水曜日 3時限 / 水曜日 4時限
対象クラス	社会情報学科
単位数	2.0
授業形態	講義
授業内容	本講義では、岡山で環境活動を行っている様々な人々からプレゼンを受け、環境活動を身近に感じて貰うとともに、社会に出て必要な計画を考える力、考えた計画を伝える力を育ててもらうことを主眼に置いています。 本講義では、特に予習は必要ありません。 ただし、個人での環境活動計画書の作成とグループでの環境計画の発表を行ってもらいます。 環境活動計画書は、現状及び問題意識、それに対する対策、具体的な活動内容、活動による効果（効果は、必ず数値で表せる効果を示すこと）を記述し、更にそれをパワーポイントにまとめて発表してもらいます。
準備学習	環境活動計画書(A4 10ページ～)、プレゼンテーション(1グループ10分～)は授業中に作成する時間は設けませんので、これらの作成が必要です。 プレゼンテーションは中間発表と最終発表があります。
講義目的	本講義では、岡山で環境活動を行っている様々な人々からプレゼンを受け、環境活動を身近に感じて貰うとともに、社会に出て必要な計画を考える力、考えた計画を伝える力を育ててもらうことを主眼に置いています。（社会情報学科の学位授与方針項目C、Fにもっとも強く関与する）
達成目標	環境活動が非常に身近なものと理解してもらうとこと、自分の力で考えた環境活動計画書の完成及びグループ活動としてのプレゼンテーションの実施を達成目標とします。
キーワード	
成績評価（合格基準60	出席40%、プレゼンテーション30%、環境活動計画書の内容30%により成績を評価し、総計で60%以上を合格とする。但し、環境活動計画書が他者に計画書を「写した」と判断された場合、「写した者」、「写された者」全てを不合格とする。
関連科目	
教科書	特になし
参考書	特になし
連絡先	takuo@bizen-greenenergy.co.jp
注意・備考	特になし
試験実施	実施しない

科目名	遺跡と遺物(再)【木1木2】(FIV2P210)
英文科目名	Sites and Artifacts
担当教員名	山形真理子(やまがたまりこ)
対象学年	2年
開講学期	春2
曜日時限	木曜日 1時限 / 木曜日 2時限
対象クラス	社会情報学科(～16)
単位数	2.0
授業形態	講義

回数	授業内容
1回	イントロダクション：講義のねらいと進め方を説明する。東南アジアの地理、気候、民族、言語、宗教、ASEAN諸国の概要について解説する。
2回	東南アジア基層文化の形成：初期人類が残した洞穴遺跡と壁画、出土遺物について講義する。
3回	東南アジア基層文化の形成：初期農耕と金属器の出現に関する遺跡と出土遺物について講義する。
4回	東南アジアの古代：ベトナム北部の鉄器時代ドンソン文化と、中国(漢)の南進による漢系遺物の流入について講義する。
5回	東南アジアの古代：東南アジアの初期国家「扶南」と「林邑」に関連する遺跡と遺物について講義する。
6回	東南アジアの古代：南海交易の発展と島嶼部の古代国家
7回	東南アジアの中世：カンボジア・アンコール遺跡群の最近の調査成果について講義する。
8回	東南アジアの中世：元寇に関係する遺跡と出土遺物について講義する。
9回	東南アジアの中世：鄭和の遠征にかかわる遺跡と遺物について講義する。
10回	東南アジア交易の時代：ベトナム・タイ・カンボジアに残された日本町の遺跡と出土遺物について講義する。
11回	東南アジアの交易の時代：フィリピン・インドネシアに残された日本町の遺跡と出土遺物について講義する。
12回	東南アジアの植民地化：フランス領インドシナ、英領マラヤ、オランダ領東インドの植民地化について概観する。
13回	第二次世界大戦と東南アジア：戦時下の日本と東南アジアの関係について講義する。
14回	冷戦の時代と東南アジア：ベトナム戦争と戦争遺跡について解説する。
15回	前回までの授業を踏まえ、東南アジア史の特性について議論する。とくに、日本と東南アジアの関係史について解説する。
16回	1回～15回までの講義を総括し、最終評価試験を実施する。

回数	準備学習
1回	授業内容の確認と復習を行なうこと 第2回目授業までに、参考書などにより、東南アジアの洞穴絵画について基本的情報を集めること(標準学習時間60分)
2回	東南アジアの洞穴壁画について復習を行なうこと 第3回目授業までに、参考書などにより、東南アジアの初期農耕と金属器の出現について基本的情報を集めること(標準学習時間60分)
3回	東南アジアの初期農耕と初期の金属器について復習を行なうこと 第4回目授業までに、参考書などにより、ベトナム北部のドンソン文化について基本的情報を集めること(標準学習時間60分)
4回	漢文化の影響を受けてドンソン文化がどのように変容したか、復習を行なうこと 第5回目授業までに、参考書などにより、「扶南」と「林邑」について基本的情報を集めること(標準学習時間60分)
5回	東南アジアにおける初期国家の出現について復習を行なうこと 第6回目授業までに、参考書などにより、中国とインドを結んだ南海交易について基本的情報を集めること(標準学習時間60分)
6回	海洋交易とそのルート上に反映した古代国家について復習すること 第6回目授業までに、参考書などにより、アンコール王朝の歴史について基本的情報を集めること(標準学習時間60分)
7回	アンコール遺跡群の最近の調査成果とアンコール王朝の歴史について復習を行なうこと 第8回目授業までに、参考書などにより、元寇について基本的情報を集めること(標準学習時間60分)
8回	東南アジアの元寇について復習すること 第9回目授業までに、参考書などにより、鄭和の遠征について基本的情報を集めること(標準学習時間60分)

9 回	鄭和の遠征の過程を歴史的意義について復習を行なうこと 第10回目授業までに、参考書などにより、東南アジアの「交易の時代」について基本的情報を集めること（標準学習時間60分）
10 回	東南アジア大陸部に存在した日本町について復習を行なうこと 第11回目授業までに、参考書などにより、東南アジア島嶼部の日本町に関する基本的情報を集めること（標準学習時間60分）
11 回	東南アジアの日本町について復習を行なうこと 第12回授業までに、参考書などにより、東南アジアの植民地化の過程について基本的情報を集めること（標準学習時間60分）
12 回	東南アジアの植民地化の歴史について復習すること 第13回授業までに、参考書などにより、第二次世界大戦の経緯について基本的情報を集めること（標準学習時間90分）
13 回	第二次世界大戦における日本と東南アジア諸国との関係について復習を行なうこと 第14回授業までに、参考書などにより、ベトナム戦争の経緯について基本的情報を集めること（標準学習時間60分）
14 回	ベトナム戦争と戦争遺跡について復習を行なうこと 第15回授業までに、これまでの授業を振り返り、遺跡と遺物を通してみた東南アジアの歴史についてまとめること（標準学習時間60分）
15 回	東南アジア史の特性と、日本との関係史について復習を行なうこと 第1回～第15回までの内容を整理しておくこと（標準学習時間120分）
16 回	第1回～第15回までの内容を復習し理解すること（標準学習時間60分）

講義目的	東南アジアの遺跡と遺物について学ぶことを通して、東南アジアの歴史と文化に対する興味と理解を深める。日本と東南アジアの関係史を学ぶことにより、広い視野から日本の歴史を見る力を養う。（社会情報学科の学位授与方針項目C,Fにもっとも強く関与，項目Bに強く関与する）
達成目標	1. 東南アジアの遺跡と遺物に関する基本的知識を身につける。 2. 遺跡と遺物を通して東南アジアの地域的特性を知り、東南アジアの歴史に対する理解を深める。 3. 東南アジアと日本の関係史を学び、広い視野から日本史について考える力を養う。
キーワード	東南アジア史、遺跡、遺物、考古学
成績評価（合格基準60点）	授業のなかで実施する小テスト30％、最終評価試験（最終試験）70％により成績を評価し、100点満点中60点以上を合格とする。
関連科目	
教科書	
参考書	池端雪浦他編集委員 / 『岩波講座東南アジア史』全9巻・別巻1 / 岩波書店 / 2001年～2003年：石井米雄，桜井由躬雄編 / 『東南アジア史1大陸部』 / 山川出版社 / 1999年：池端雪浦編 / 『東南アジア史2島嶼部』 / 山川出版社 / 1999年：桃木至朗他編 / 『東南アジアを知る事典』 / 平凡社 / 2008年：今井昭夫編集代表 / 『東南アジアを知るための50章』 / 明石書店 / 2014年
連絡先	山形研究室 A1号館7階
注意・備考	(1) 講義資料は講義開始時に配付する。 (2) 小テストについては次の回の授業で返却し、フィードバックを行う。 (3) 講義中の録音 / 録画 / 撮影は他の受講者の妨げにならない限り自由とするが、他者への再配布（ネットへのアップロードを含む）は禁止する。
試験実施	実施する

科目名	金融システム【木4木5】(FIV2S310)
英文科目名	Financial System
担当教員名	栗原理*(くりはらおさむ*)
対象学年	3年
開講学期	春2
曜日時限	木曜日 4時限 / 木曜日 5時限
対象クラス	社会情報学科
単位数	2.0
授業形態	講義

回数	授業内容
1回	文系人材が金融論を学ぶ意義について説明する。
2回	金融の基本 (バランスシート、金融の基本概念、貨幣) について説明する。
3回	金融の基本 (貨幣の需需要と供給、金利に関する基礎知識) について説明する。
4回	金融機関論 (金融機関の種類、預金取扱金融機関) について説明する。
5回	金融機関論 (証券会社、保険会社、ノンバンク) について説明する。
6回	金融システム (間接金融、直接金融) について説明する。
7回	金融システム (金融システムの国際比較、日本の金融構造) について説明する。
8回	直接金融と証券市場 - ガバナンスの展開 (市場とは、短期金融市場、資本市場) について説明する。
9回	直接金融と証券市場 - ガバナンスの展開 (資本調達方法と特徴、情報の非対称性と資金調達、株式会社) について説明する。
10回	間接金融と銀行論 (銀行の機能と使命、情報の非対称性と金融仲介機能) について説明する。
11回	間接金融と銀行論 (信用創造、資産転換機能、貯蓄から投資へ) について説明する。
12回	日本の銀行とその実力 (日本の銀行の俯瞰) について説明する。
13回	日本の銀行とその実力 (世界の中の日本の銀行) について説明する。
14回	金融規制の基本 (銀行はガラス細工、ブルーデンス政策) について説明する。
15回	これまでの内容を総括し、最終評価試験を実施する。
16回	最終評価試験の出題意図と解答の解説をおこなう。

回数	準備学習
1回	特になし
2回	金融をキーワードに新聞記事を読んでおくこと(標準学習時間90分)
3回	先週の講義の復習をしておくこと(標準学習時間90分)
4回	日経新聞で日銀の記事を読んでおくこと、また、先週の講義の復習をしておくこと(標準学習時間90分)
5回	日経新聞で日銀の記事を読んでおくこと、また、先週の講義の復習をしておくこと(標準学習時間90分)
6回	先週の講義の復習をしておくこと(標準学習時間90分)
7回	先週の講義の復習をしておくこと(標準学習時間90分)
8回	先週の講義の復習をしておくこと(標準学習時間90分)
9回	社会保障制度について自分なりに整理しておくこと(標準学習時間90分)
10回	先週の講義の復習し、年金制度について整理しておくこと(標準学習時間90分)
11回	先週の講義の復習をしておくこと(標準学習時間90分)
12回	今までの知識で自分の資産運用プランを立てること(標準学習時間90分)
13回	先週の講義の復習をしておくこと(標準学習時間90分)
14回	先週の講義の復習をしておくこと(標準学習時間90分)
15回	1回～14回までの内容をよく理解し整理しておくこと(標準学習時間90分)
16回	最終評価試験の問題を復習しておくこと。

講義目的	金融における基本的な知識が身につくように、できるだけやさしく、また最近の金融問題や法律・税制の改正も取り上げながらわかり易く講義を行っていく。あわせて、中小企業の資金調達の事例研究を通じて、企業のファイナンス戦略を理論的に分析し、実務的なファイナンスに関する分析能力も養成していく。もちろんキャリア教育の側面も兼ねています。(社会情報学科の学位授与方針項目Cにもっとも強く関与、項目Bに強く関与する)
達成目標	資金の調達・運用をいかに効率良く行うかが企業の命運を左右するといっても決して過言ではない。本講義では、金融システムの基礎知識とそれを企業の現場にいかに関用するかといった応用力を自分のものにすることを達成目標とする。社会に出て、即戦力としてすぐに活用できる知識を身につけることを主眼とします。
キーワード	資金調達、信用保証制度、中小企業、企業の社会的責任、コーポレートガバナンス
成績評価(合格基準60)	適宜課すレポート課題(40%)および、最終評価試験(60%)で評価し、総計で60%以上を

	合格とする。
関連科目	経済学関連講義、ファイナンス
教科書	現代の金融入門〔新版〕/池尾和人/筑摩書房（ちくま新書）/978-4480065292
参考書	適宜指示します。
連絡先	A1号館7階 山口研究室（経営学部経営学科）
注意・備考	金融の講義は専門用語が多い為、欠席するとついていけなくなります。このことが理解できる学生の受講を歓迎します。
試験実施	実施する

科目名	応用プログラミング(再)【月1水1】(FIV3A210)
英文科目名	Advanced Programming
担当教員名	黒田正博(くろだまさひろ)
対象学年	2年
開講学期	秋1
曜日時限	月曜日 1時限 / 水曜日 1時限
対象クラス	社会情報学科(～16)
単位数	2.0
授業形態	講義

回数	授業内容
1回	Rの起動と終了, 代入, 及びベクトル・行列といったデータの整形方法について説明をする。
2回	Rによる度数分布表, 及びヒストグラムの作成方法について説明をする。
3回	平均値などの代表値, 及び分散と標準偏差の計算プログラムの関数の作成方法について説明をする。 また, これらのR関数の利用方法について説明する。
4回	箱ひげ図の作成方法について説明をする。さらに, 記述統計の結果を出力するRプログラムの作成方法について説明をする。
5回	演習として, 1変量データ処理のための記述統計のRプログラムを作成する。
6回	共分散と相関係数を計算するためのRプログラムの作成方法について説明する。さらに, 散布図の作成と相関係数を計算するR関数を説明する。
7回	単回帰分析のR関数の使用方法について説明をする。さらに, 出力結果の読み方について説明をする。
8回	演習として, 2変量データ処理のための散布図作成と単回帰分析をおこなうRプログラムを作成する。
9回	重回帰分析のためのR関数の使用方法について説明をする。さらに, 出力結果の読み方について説明をする。
10回	時系列データの分析のためのRプログラムの作成方法について説明する。
11回	演習として, 経営・経済データを用いた重回帰分析及び時系列分析のためのRプログラムを作成する。
12回	クロス集計表の作成とグラフ表示のためのRプログラムを作成する。
13回	クロス集計表の解析のためのRプログラムの使用方法について説明をする。さらに, 出力結果の読み方について説明をする。
14回	演習として, 経営・経済データを用いたクロス集計表の解析のためのRプログラムを作成する。
15回	これまでの内容を総括し, 最終評価試験を実施する。
16回	最終評価試験の出題意図と解答の解説をおこなう。

回数	準備学習
1回	統計解析ソフトRについて予習しておくこと(標準学習時間60分)
2回	データ解析基礎で学習した度数分布表及びヒストグラムについて復習をしておくこと(標準学習時間60分)
3回	データ解析基礎で学習した代表値と散布度について復習をしておくこと(標準学習時間60分)
4回	Rによる関数の作成方法について復習をしておくこと(標準学習時間60分)
5回	第5回目までに作成したRプログラムの処理内容を復習しておくこと(標準学習時間60分)
6回	データ解析基礎で学習した相関係数と散布図について復習をしておくこと(標準学習時間60分)
7回	データ解析基礎で学習した単回帰について復習をしておくこと(標準学習時間60分)
8回	第7・8回目までに作成したRプログラムの処理内容を復習しておくこと(標準学習時間60分)
9回	データ解析基礎で学習した単回帰の復習と重回帰分析について予習をしておくこと(標準学習時間60分)
10回	時系列データの処理方法について予習をしておくこと(標準学習時間60分)
11回	重回帰分析のためのR関数と出力結果の読み方について復習をしておくこと(標準学習時間60分)
12回	データ解析基礎で学習したクロス集計表の見方について復習をしておくこと(標準学習時間60分)
13回	データ解析基礎で学習したクロス集計表の指標について復習をしておくこと(標準学習時間60分)
14回	クロス集計表の解析のためのR関数と出力結果の読み方について復習をしておくこと(標準学習時間60分)
15回	講義内容をよく理解し整理しておくこと(標準学習時間180分)
16回	最終評価試験の問題を復習しておくこと(標準学習時間60分)

講義目的	統計解析言語Rによる繰り返し, 条件分岐などのプログラムの作成方法とベクトル・配列といった
------	---

	データの整形方法について学習する．さらに，これらを用いた統計処理プログラムの作成方法を学習する．これらの方法を習得させた後に，経営・経済の実データのための統計解析プログラムが作成できる技術を演習で習得する．（経営学科の学位授与方針項目Eにもっとも強く関与する．社会情報学科の学位授与方針項目C，Fにもっとも強く関与する）
達成目標	データ解析基礎で学んだデータの分析手法をプログラミングによりコンピュータ上で実装し，処理できる能力を修得する．
キーワード	データの分析，統計解析言語R
成績評価（合格基準60	最終評価試験（100％）により成績を評価し，総計で60％以上を合格とする。
関連科目	データ解析基礎，社会調査入門，社会調査法，データ解析システム，行動計量学
教科書	なし
参考書	経済・経営系のための統計入門 / 景山 三平（監修），元山 斉（編集），伊藤 有希（編集），高橋 一（編集） / 実教出版 / 978-4407337112
連絡先	黒田研究室 A1号館8階
注意・備考	(1) この講義では，補助教材及び演習課題とその解答をMomo-campusを通じて配布する。 (2) 講義中の録音／録画／撮影は他の受講者の妨げにならない限り自由とするが、他者への再配布（ネットへのアップロードを含む）は禁止する。
試験実施	実施する

科目名	市場行動(再)【月1水1】(FIV3A220)
英文科目名	Market Behavior
担当教員名	大藪亮(おおやぶあきら)
対象学年	2年
開講学期	秋1
曜日時限	月曜日 1時限 / 水曜日 1時限
対象クラス	社会情報学科(～16)
単位数	2.0
授業形態	講義

回数	授業内容
1回	講義の進め方を説明する。マーケティングの基本的な考え方について説明する。
2回	マーケティング誕生の背景や発展、および役割について説明する。
3回	マーケティングの基礎概念について説明する。
4回	戦略的マーケティングの概念について説明する。
5回	具体的な事例をもとに、製品戦略について説明する。
6回	具体的な事例をもとに、価格戦略について説明する。
7回	具体的な事例をもとに、流通戦略について説明する。
8回	具体的な事例をもとに、プロモーション戦略について説明する。
9回	具体的な事例をもとに、顧客理解について説明する。
10回	製品開発に消費者が積極的に参加する事例を挙げ、消費者との価値創造について説明する
11回	関係性マーケティングの発生と展開について説明する。
12回	サービス・マーケティングの基本的概念について説明する。
13回	市場志向型経営の貢献とその問題点について説明する。
14回	インターネットマーケティングの発展および可能性について説明する。
15回	近年注目されるサービス・ドミナント・ロジックの基本的な考え方について説明する。
16回	1回～15回までの総括を行い、最終評価試験を実施する。

回数	準備学習
1回	授業内容の確認と復習(標準学習時間90分)
2回	マーケティングの基本的考え方について復習すること マーケティングの役割について調べておくこと(標準学習時間90分)
3回	マーケティング誕生・発展の歴史的背景について復習すること 戦略という言葉について調べておくこと(標準学習時間90分)
4回	マーケティングの概念について復習すること 売れる製品を開発するために重要なことについて調べておくこと(標準学習時間90分)
5回	戦略的マーケティングについて復習すること 過去のヒット商品の優れている点について考えておくこと(標準学習時間90分)
6回	製品マネジメントのプロセスについて復習すること 自分の携帯電話の料金プランを確認しておくこと(標準学習時間90分)
7回	価格設定の考え方について復習すること コンビニの出店戦略について予習すること(標準学習時間90分)
8回	チャネルの種類や特徴について復習すること 教科書などにより広告の重要性について予習すること(標準学習時間90分)
9回	プロモーションミックスについて復習すること 顧客を理解するための手法について予習すること(標準学習時間90分)
10回	顧客理解の方法について復習すること 顧客参加型製品開発について事前に調べておくこと(標準学習時間90分)
11回	顧客参加型製品開発の特徴について復習すること なぜ企業はポイントカードを発行するのかについて調べておくこと(標準学習時間90分)
12回	関係性マーケティングの概念について復習すること サービスの特征について予習すること(標準学習時間90分)
13回	サービスマーケティングとグッツマーケティングの違いについて復習すること 教科書などにより顧客志向や市場志向を実現する組織について予習しておくこと(標準学習時間90分)
14回	市場志向型経営の特徴について復習すること インターネットの登場によるマーケティング活動の変化について調べておくこと(標準学習時間90分)
15回	インターネットマーケティングの可能性や課題について復習すること サービスとは何かについて考えておくこと(標準学習時間90分)
16回	1回～15回までの内容をよく理解し整理しておくこと(標準学習時間90分)

講義目的	企業活動は、大きく内的活動と外的活動に分けられる。内的活動とは、組織内の活動であり戦略策定や財務に関する活動などが挙げられる。外的活動とは、消費者や顧客に対する活動であり、主にマーケティングが中心となる。企業の利益が、顧客・消費者による自社製品の購買からもたらされることを考えると、外的活動は非常に重要である。そこで、マーケティングに関する基礎的概念や理論の枠組みについて理解することを本講義の目的とする。そのために、具体的な事例を多く取り上げ、実際の企業のマーケティング活動と理論を結び付けることにより、マーケティングに関する基礎的な理論やその背景、マーケティング活動について理解を深めていく。（社会情報学科の学位授与方針項目Cにもっとも強く関与、項目Bに強く関与）
達成目標	本講義では、企業のマーケティング活動やそれに対する消費者行動に興味・関心を持つこと、また、マーケティングに関する基礎的な概念や理論を理解することを達成目標とする
キーワード	マーケティング、消費者行動、顧客価値
成績評価（合格基準60	最終評価試験100%により成績を評価し、60%以上を合格とする。
関連科目	
教科書	1からのマーケティング・デザイン/石井淳蔵・廣田章光・坂田隆文編著/碩学舎
参考書	適宜、指示する。
連絡先	A1号館7階 大数研究室
注意・備考	(1) 試験は最終評価試験期間に行い、試験形態は筆記試験とする。(2) 課題（レポートや小テスト）に対するフィードバックは、講義中に行うこととする。(3) 講義中の録音/録画/撮影は他の受講者の妨げにならない限り自由とするが、他者への再配布（ネットへのアップロードを含む）は禁止する。
試験実施	実施する

科目名	科学技術文化史(再)【月2水2】(FIV3B210)
英文科目名	Cultural History of Science,Technology
担当教員名	中島聰(なかしまさとし)
対象学年	2年
開講学期	秋1
曜日時限	月曜日 2時限 / 水曜日 2時限
対象クラス	社会情報学科(～16)
単位数	2.0
授業形態	講義

回数	授業内容
1回	世界や日本における科学技術の現代の状況を解説して、解決すべき諸問題を提起する。また科学技術文化史の研究上の資料と方法を説明する。
2回	科学と科学史、それぞれの定義や種類など基礎的な内容について説明する。
3回	科学史論の代表であるG.サートンの総合的科学史とT.クーンのパラダイム科学史について詳細に説明する。
4回	世界の科学の原点としてのオリエント科学とギリシア科学の関係と特徴について、さまざまな考古学的資料をもとにして、説明する。
5回	万物の原理の探求に始まる古代の自然科学の成立・成果・特徴について、イオニア派・ピュタゴラス派など古代ギリシア自然科学者たちの関係資料から説明する。
6回	古代ギリシア科学の大成者であるアリストテレスの著書『自然学』・『天体論』・『気象論』をもとにして、古代の典型的な自然観・天体論について説明する。
7回	アレキサンドリア科学期のエウクレイデスの著『原論』より、集成された古代数学の体系・内容・特徴について説明する。
8回	古代科学思想の成立・展開・影響についてのここまでの講義内容を振り返ると同時にここまでの講義内容について中間的な評価をするために試験を実施する。
9回	コペルニクスの著書『天球回転論』とケプラーの著書『宇宙誌の神秘』・『新天文学』をもとにして、近世の宇宙論の内容と特徴について説明する。
10回	ガリレオの『天文対話』を初めとするいくつかの著書と彼の発明品望遠鏡による彼の力学的、天文学的な業績について説明する。
11回	ニュートンの主著『プリンキピア』をもとに、近代重力論の体系・詳細な内容・その後の自然科学への影響について説明する。
12回	ダーウィンの生物進化論について、著書『ヴィーグル号航海記』・『種の起源』やガラパゴス諸島の固有種の多くの例をもとにして、説明する。
13回	技術思想の古代の展開について、ヘシオドスの神話やソフォクレスらのギリシア悲劇、プラトン『国家』、アリストテレス『ニコマコス倫理学』の各著作より、説明する。
14回	中世から近世、近代へ到る技術観を「ベーコンのテクノロジー科学」と特徴付け、その展開について、ベーコン『ニューアトランティス』、デイドロ『百科全書』の著書をもとに、説明する。
15回	近代より現代の技術の進展を「産業化科学」と特徴付け、その展開について説明する。そして現代世界の科学技術の問題点を提示し、科学技術時代と共存しうる人類の将来・方向を展望する。
16回	1回から15回までの総括を説明し、最終評価試験を実施する。

回数	準備学習
1回	わが国の科学技術の基本施策である「科学基本法」や「第二期・第四期科学技術基本計画」を調べ、日本の科学技術行政の基本的な方向を理解しておくこと。(標準学習時間120分)
2回	科学事典・辞典などで、科学の定義、科学史の種類、世界の科学史研究の動向について予習を行うこと。(標準学習時間120分)
3回	総合的科学史の代表者G.サートンとパラダイム科学史の代表者T.クーンの略歴・活動を、科学辞典やインターネットで調べておくこと。(標準学習時間120分)
4回	特に古代のエジプト、メソポタミア科学の各特徴・具体的な科学的発見や技術的発明の事例を、図書館の関係資料で調べておくこと。(標準学習時間120分)
5回	タレス、ピュタゴラスなど古代自然科学者たちの科学的業績についての資料を、図書館で調査・検索し、収集しておくこと。(標準学習時間120分)
6回	アリストテレスの著作『自然学』で、彼の自然・原因・運動などの科学的な基礎概念を予習しておくこと。(標準学習時間120分)
7回	ユークリッド(エウクレイデス)の『原論』の概要を、日本語訳本で見ておくこと。(標準学習時間120分)
8回	ここまでの授業内容についての復習を行うこと。(標準学習時間180分)
9回	コペルニクスとケプラー各々の著書の日本語訳本を読み、履歴・科学的業績についても国内外のインターネットで調べておくこと。(標準学習時間120分)
10回	ガリレオの著書『天文対話』・『偽金鑑識官』・『星界の報告』、どれか一冊を日本語訳本読んで

	おくこと。(標準学習時間120分)
1 1 回	ニュートンの著書『プリンキピア』を読み、重力の定義・三法則・万有引力の内容を確認しておくこと。(標準学習時間120分)
1 2 回	ダーウィンの著書『ヴィーグル号航海記』を読み、特にガラパゴス諸島の固有種の生物について調べておくこと。(標準学習時間120分)
1 3 回	ヘシオドス『神統記』・『仕事と日』、ソフォクレスらのギリシア悲劇、プラトン『国家』、アリストテレス『ニコマコス倫理学』のなかのどれか一冊を読み、古代人の技術思想を調べておくこと。(標準学習時間120分)
1 4 回	ルネッサンス期の代表的な建築物の構造を調べるか、またベーコン『ニューアトランティス』かデイドロ『百科全書』を、訳本で読んでおくこと。(標準学習時間120分)
1 5 回	フランスの近現代科学技術教育制度の出発点となったエコール=ポリテクニークについて予習を行うこと。(標準学習時間120分)
1 6 回	1 回から15回までの内容をよく理解し整理しておくこと。(標準学習時間180分)

講義目的	西洋の古代から近現代へいたる文化史的な視点からの科学技術の歴史を説明する。内容は、西洋の数学・力学・天文学・生物学などさまざまな自然科学の理論や諸概念の内容、それらの成立背景・展開・社会との相互関連を考える。また技術の発達・進化を明らかにして、科学技術の特徴・歴史のなかで果たした意義について考える。このことを通して現代科学技術の問題点、将来への方向、今後国や世界へ果たすべき社会的責任についても提言し、考えていくことを目的とする。（社会情報学科の学位授与方針項目Bにもっとも強く関与、項目Cに強く関与する）
達成目標	現代社会成立・発展の原動力となった科学技術の歴史を、その成立の背景・展開・時間的空間的な相互関連のなかで統合的な視点から理解する。 科学技術の飛躍的に進化する21世紀において、科学技術と人、世界・国・地域社会とのあるべき関係について明確な自分の考えもつ。
キーワード	西洋科学技術 文化史 数学・力学・天体論・生物学 自然科学の理論と基礎概念 テクノロジーの進化 科学技術の社会との相互連携 人類の未来
成績評価（合格基準60	中間試験(40%)、最終評価試験(60%)により成績を評価し、総計で得点率60%以上を合格とする。
関連科目	なし。
教科書	書店販売しない。 下記のテキストを、無料で、初回講義時に直接、配布する。 科学技術文化史/中島 聡/大学教育出版
参考書	教科書巻末に掲載した参考文献を参照のこと。
連絡先	A-1号館8F 833号室 nakashima@mgt.ous.ac.jp
注意・備考	試験は最終評価試験期間中に行い、試験形態は筆記試験とする。 この科目は、岡山理科大学教員免許状〔中学校一種:社会、高等学校一種:公民〕取得に関わる教科に関する科目、実務士資格「情報処理士」・「上級情報処理士」の認定科目である。
試験実施	実施する

科目名	言語文化論(再)【月4水4】(FIV3D210)
英文科目名	Language and Culture
担当教員名	西野雅二* (にしのみさじ*)
対象学年	2年
開講学期	秋1
曜日時限	月曜日 4時限 / 水曜日 4時限
対象クラス	社会情報学科(～16)
単位数	2.0
授業形態	講義

回数	授業内容
1回	イントロダクション。ヨーロッパの各種言語とドイツ語の類似点、相違点などについて解説する。
2回	ー ドイツ語初歩文法概観 ー ここでは、若干の分量のドイツ語の文章を見ながら講義をすすめていくので、まずは、ドイツ語の基礎的な文法について解説する。
3回	ー ドイツ語初歩文法概観 ー ここでは、若干の分量のドイツ語の文章を見ながら講義をすすめていくので、まずは、ドイツ語の基礎的な文法について解説する。
4回	英雄叙事詩や宮廷叙事詩について、例を示しながら解説する。また、これらの叙事詩に見られる中世の社会や文化について解説する。
5回	英雄叙事詩や宮廷叙事詩について、例を示しながら解説する。また、これらの叙事詩に見られる中世の社会や文化について解説する。
6回	主に中世の騎士がなった文化の代表的なものとしてミンネザングについて解説する。
7回	主に中世の騎士がなった文化の代表的なものとしてミンネザングについて解説する。
8回	ルターの聖書翻訳により、ドイツ語が変化した。ルター前後の時代のドイツ語について解説する。
9回	ゲーテの時代の作品、とりわけゲーテやシラーについて解説するとともに、それらを生んだ時代や社会について解説する。
10回	ゲーテの時代の作品、とりわけゲーテやシラーについて解説するとともに、それらを生んだ時代や社会について解説する。
11回	ゲーテの時代の作品、とりわけゲーテやシラーについて解説するとともに、それらを生んだ時代や社会について解説する。
12回	シュトルムの時代の作品、およびそれらを生んだ時代や社会について解説する。
13回	シュトルムの時代の作品、およびそれらを生んだ時代や社会について解説する。
14回	20世紀の作品やネット社会のドイツ語について解説する。
15回	20世紀の作品やネット社会のドイツ語について解説する。

回数	準備学習
1回	欧米の各言語の類似点・相違点について考えておくこと。(標準学習時間60分)
2回	ドイツ語I、IIの既習者は、その内容を見直しておくこと。また、講義終了後は文法項目をよく整理しておくこと。(標準学習時間120分)
3回	ドイツ語の文法初歩を復習しておくこと。ドイツ中世の「騎士」やその文化について調べておくこと。(標準学習時間120分)
4回	ドイツ中世の文化ならびに講義で取り上げた文章を復習しておくこと。「騎士」の「婦人」に対する考え方について調べておくこと。(標準学習時間120分)
5回	中世の文化ならびに講義で取り上げた文章を復習しておくこと。ドイツ中世末期以降の詩作について調べておくこと。(標準学習時間120分)
6回	ルター前後の文化ならびに講義で取り上げた文章を復習しておくこと。ゲーテの時代の詩人について調べておくこと。また、ゲーテやシラーにどのような代表的な作品があるか、調べておくこと。(標準学習時間120分)
7回	ゲーテ時代の文化ならびに講義で取り上げた文章を復習しておくこと。シュトルムの時代の詩人について調べておくこと。(標準学習時間120分)
8回	シュトルム時代の文化ならびに講義で取り上げた文章を復習しておくこと。20世紀の詩人について調べておくこと。ネット時代のドイツ語について、それまでのものと比較し検討しておくこと。(標準学習時間120分)
9回	
10回	
11回	
12回	
13回	
14回	
15回	

講義目的	中世から現代にいたるまでのドイツ語文章に触れ、ドイツ語およびドイツ文化に対する理解を深めることを目的とする。また、ことばと社会の関わりについても言及していく。(社会情報学科の学位授与方針項目Bにもっとも強く関与、項目Cに強く関与する)
達成目標	題材として取り上げる文章そのものを理解すると同時に、それらが書かれた時代の文化に一定の理解を深める。(B) 言語文化に対する関心を深め、この分野における諸問題に積極的に取り組めるようにする。(C)

	) * () 内は社会情報学科の「学位授与の方針」の対応する項目（学科のホームページ参照）
キーワード	ドイツ語、ドイツ文化
成績評価（合格基準60	小テスト（30%）および最終評価試験（70%）による。
関連科目	ドイツ語I、ドイツ語II、西洋史を受講していることが望ましい。
教科書	プリント（資料）を配布する。
参考書	適宜、指示する。
連絡先	
注意・備考	特になし。
試験実施	実施する

科目名	ファイナンシャルプランニング(再)【月4木2】(FIV3D220)
英文科目名	Financial planning
担当教員名	岡部勝成(おかべかつよし)
対象学年	2年
開講学期	秋1
曜日時限	月曜日 4時限 / 木曜日 2時限
対象クラス	社会情報学科(～16)
単位数	2.0
授業形態	講義

回数	授業内容
1回	ライフプランニングと資金計画 について説明する。FPと倫理・関連法規、ライフプランニングの考え方・手法、公的医療保険、公的介護保険、労災保険・雇用保険、公的年金の概要、老齢給付(国民年金)、老齢給付(厚生年金保険)
2回	ライフプランニングと資金計画 について説明する。障害給付、遺族給付、企業年金等、住宅取得プランニング、教育資金プランニング、中小法人の資金計画、ローンとカード
3回	リスク管理 について説明する。保険制度と契約者保護制度、生命保険の基礎知識、生命保険商品・第三分野の保険、体保険・法人と生命保険、生命保険料控除、個人の生命保険の税務
4回	リスク管理 について説明する。法人の生命保険の税務、損害保険の基礎知識、火災保険等、自動車保険、傷害保険・賠償責任保険、個人の損害保険の税務、個人事業主・法人の損害保険の税務
5回	金融資産運用 について説明する。金融政策と金利、経済指標、貯蓄型商品・金投資、債券投資の基礎知識、債券の利回り、債券投資のリスク
6回	金融資産運用 について説明する。株式投資の基礎知識、株式の投資尺度、投資信託、外貨建商品、金融派生商品、ポートフォリオ運用、金融商品と税金、セーフティネット、金融商品取引の関連法規
7回	タックスプランニング について説明する。税の分類、所得税の仕組み、利子所得・配当所得、給与所得・退職所得、不動産所得・事業所得・雑所得、譲渡所得・一時所得・山林所得
8回	タックスプランニング について説明する。損益通算・繰越控除、所得控除(物的控除)、所得控除(人的控除)、税額控除、所得税の申告・納付、個人住民税・個人事業税、法人税、消費税、会社役員間の税務
9回	不動産 について説明する。不動産登記、不動産の価格、借地借家法、区分所有法・宅地建物取引業法、売買契約上の留意点、都市計画法、建築基準法、その他法令上の制限
10回	不動産 について説明する。不動産の取得・保有と税金、不動産の譲渡と税金、居住用財産の譲渡の特例、その他の不動産の譲渡と税金、土地の有効活用、不動産の証券化
11回	相続・事業承継 について説明する。贈与と贈与税、贈与税の計算と申告・納付、相続時精算課税制度、相続と法律、遺産分割、遺言・遺留分、相続税の基礎知識、相続税の計算、相続税の申告・納付
12回	相続・事業承継 について説明する。財産評価、小規模宅地等についての相続税の課税価格の計算の特例、非上場株式の評価非上場株式の相続対策、会社法
13回	1回～4回までの総復習を行い再度説明する。
14回	5回～8回までの総復習を行い再度説明する。
15回	9回～12回までの総復習を行い再度説明する。
16回	1回～15回までの総括を行い、最終評価試験を実施する。

回数	準備学習
1回	1回テキストと練習問題を解いてもらい、解説するため復習をすること(標準学習時間90分)。
2回	2回テキストと練習問題を解いてもらい、解説をするため復習と次回の予習をすること(標準学習時間90分)。
3回	3回テキストと練習問題を解いてもらい、解説をするため復習と次回の予習をすること(標準学習時間90分)。
4回	4回テキストと練習問題を解いてもらい、解説をするため復習と次回の予習をすること(標準学習時間90分)。
5回	5回テキストと練習問題を解いてもらい、解説をするため復習と次回の予習をすること(標準学習時間90分)。
6回	6回テキストと練習問題を解いてもらい、解説をするため復習と次回の予習をすること(標準学習時間90分)。
7回	7回テキストと練習問題を解いてもらい、解説をするため復習と次回の予習をすること(標準学習時間90分)。
8回	第8回テキストと練習問題を解いてもらい、解説をするため復習と次回の予習をすること(標準学習時間90分)。
9回	9回テキストと練習問題を解いてもらい、解説をするため復習と次回の予習をすること(標準学習時間90分)。

	時間90分)。
10回	10回テキストと練習問題を解いてもらい、解説をするため復習と次回の予習をすること(標準学習時間90分)。
11回	11回テキストと練習問題を解いてもらい、解説をするため復習と次回の予習をすること(標準学習時間90分)。
12回	12回テキストと練習問題を解いてもらい、解説をするため復習と次回の予習をすること(標準学習時間90分)。
13回	1回～4回のテキストと練習問題を解いてもらい、解説をするため復習と次回の予習をすること(標準学習時間90分)。
14回	5回～8回のテキストと練習問題を解いてもらい、解説をするため復習と次回の予習をすること(標準学習時間90分)。
15回	9回～12回のテキストと練習問題を解いてもらい、解説をするため復習をすること(標準学習時間90分)。
16回	1回～15回までの内容をよく理解し整理しておくこと(標準学習時間90分)。

講義目的	国家資格であるファイナンシャル・プランナー (Financial Planner : FP) を育成することを目的としている。FPとは、顧客である個人から、収支・負債・家族構成・資産状況などの情報の提供を受け、それに基づいて住居・教育・老後など将来のライフプランニングに即した資金計画やアドバイスを行う職業・職種、およびその職に就く者をさす。(社会情報学科の学位授与方針項目BおよびEにもっとも強く関与, 項目Cに強く関与する)
達成目標	ファイナンシャル・プランニング技能士 (FP)の2級、3級の合格をめざしているもの、あるいは金融機関や不動産業などの就職先に興味があるものの基礎知識の醸成やその意識付けを図る。
キーワード	キャッシュ・フロー、金融、税制、不動産、住宅ローン
成績評価 (合格基準60)	最終評価試験(100%)により成績を評価し、60%以上を合格とする。
関連科目	簿記会計
教科書	18～'19年版最短合格 2級FP技能士 / きんざいファイナンシャル・プランナーズ・センター編著 / きんざい / 毎年7月頃に改訂版が出版されるので、最も新しいものを購入すること。
参考書	適宜指示する。
連絡先	A1号館 7 階岡部研究室
注意・備考	(1)毎回のリアクションペーパーによりフィードバックを行う。(2)試験は最終評価試験期間に行い、試験形態は筆記試験とする。 (3)電卓を持参すること(電子手帳や携帯電話は講義では使用を認めるが、最終評価試験では禁止する)。 (4)毎回必ず出席すること(安易に欠席すると講義が理解できなくなる恐れがあるので注意のこと)。 (5)講義中の録音 / 録画 / 撮影は他の学生の妨げにならないよう自由とするが、他者への再配布やネットへのアップロード等は禁止する。
試験実施	実施する

科目名	世界地誌(再)【月4月5】(FIV3E110)
英文科目名	World Topography
担当教員名	辻貴志＊(つじたかし＊)
対象学年	1年
開講学期	秋1
曜日時限	月曜日 4時限 / 月曜日 5時限
対象クラス	社会情報学科(～16)
単位数	2.0
授業形態	講義

回数	授業内容
1回	ガイダンスを行う。-スマホをオフにし、自分の目、肌、足で感じて世界を歩こう！
2回	統計で見る日本人の平均
3回	人類と環境適応 形質から見える人類の法則
4回	人口と環境問題
5回	漁撈活動
6回	農業
7回	ヒトの身体とジェスチャーを見る
8回	食糧と栄養
9回	狩猟
10回	ドメスティケーションー野生生物の「家畜化」と「栽培化」
11回	食べ物とそのカテゴリー
12回	世界の民話と日本の民話
13回	生物を利用した生業
14回	人類と感染症
15回	世界の言語問題ー日本の方言を中心に
16回	最終評価試験

回数	準備学習
1回	受講に適した科目かどうか判断するために、シラバスによく目を通しておくこと。わからない点は積極的に質問すること。第2回講義の「統計で見る日本人の平均」について、参考文献などを利用し予習すること。(標準学習時間：120分)
2回	「人類とはどのような生物か？」について説明できるよう復習すること。レジュメや参考文献などを利用し、第3回講義「人類と環境適応 形質から見える人類の法則」について予習すること。(標準学習時間：120分)
3回	「人類と環境適応 形質から見える人類の法則」について説明できるよう復習すること。レジュメや参考文献などを利用し、第4回講義「人口と環境問題」について予習すること。(標準学習時間：120分)
4回	「人口と環境問題」について説明できるよう復習すること。レジュメや参考文献などを利用し、第5回講義「漁撈活動」について予習すること。(標準学習時間：120分)
5回	「漁撈活動」について説明できるよう復習すること。レジュメや参考文献などを利用し、第6回講義「農業」について予習すること。(標準学習時間：120分)
6回	「農業」について説明できるよう復習すること。レジュメや参考文献などを利用し、第7回講義「ヒトの身体とジェスチャーを見る」について予習すること。(標準学習時間：120分)
7回	「ヒトの身体とジェスチャーを見る」について説明できるよう復習すること。レジュメや参考文献などを利用し、第8回講義「食糧と栄養」について予習すること。(標準学習時間：120分)
8回	「食糧と栄養」について説明できるよう復習すること。レジュメや参考文献などを利用し、第9回講義「狩猟」について予習すること。(標準学習時間：120分)
9回	「狩猟」について説明できるよう復習すること。レジュメや参考文献などを利用し、第10回講義「ドメスティケーションー野生生物の「家畜化」と「栽培化」」について予習すること。(標準学習時間：120分)
10回	「ドメスティケーションー野生生物の「家畜化」と「栽培化」」について説明できるよう復習すること。レジュメや参考文献などを利用し、第11回講義「食べ物とそのカテゴリー」について予習すること。(標準学習時間：120分)
11回	「食べ物とそのカテゴリー」について説明できるよう復習すること。レジュメや参考文献などを利用し、第12回講義「世界の民話と日本の民話」について予習すること。(標準学習時間：120分)
12回	「世界の民話と日本の民話」について説明できるよう復習すること。レジュメや参考文献などを利用し、第13回講義「生物を利用した生業」について予習すること。(標準学習時間：120分)
13回	「生物を利用した生業」について説明できるよう復習すること。レジュメや参考文献などを利用し、第14回講義「人類と感染症」について予習すること。(標準学習時間：120分)

14回	「人類と感染症」について説明できるよう復習すること。レジュメや参考文献などを利用し、第15回講義「世界の言語問題－日本の方言を中心に」について予習すること。（標準学習時間：120分）
15回	「世界の言語問題－日本の方言を中心に」について説明できるよう復習すること。レジュメや参考文献などを利用し、第16回講義時に実施する最終評価試験について予習すること。（標準学習時間：120分）
16回	1回から15回までの講義内容をレジュメや参考文献などを利用し、よく理解しておくこと。（標準学習時間180分）

講義目的	本講義は、世界の様々な事象について、過去から未来まで、基本的かつ重要な世界地誌のトピックを取り上げ、解説していく。そして、世界の問題が日本を含め相互に影響し合っている事実を確認し、プラスの問題は積極的に評価し、マイナスの問題は真摯に解決するための思考能力を身につける練習をする。本講義は教職課程科目であることから、一般的な答えが求められる問題を扱う一方、教員として生徒の可能性を引き出せるよう柔軟でユニークな「考え方」ができるよう意図されている。本講義は、文系の学生だけでなく、理系の学生も視野に入れた内容となっている。内容の多くは、担当教員が異文化世界で独自に入手したものであり、主観的に思われる点はどんどん批判いただき、議論の仕方も学んでゆく。講義では、担当教員のこれまでの異文化の人びとや環境との付き合い方など、失敗例も交え紹介することで、異文化や他者への関心が高まることを期待する。さらに、自分自身で異文化世界を歩き回り、世界地誌の知識を豊かにすることは、人間を理解する上で有効な手段であり、教員としての資質にも大きく役立ってこよう。（経営学科の学位授与方針項目Fにもっとも強く関与する。社会情報学科の学位授与方針項目Bに最も強く関与し、Cに強く関与する）
達成目標	生の世界に関心を持つ。 世界事情を幅広く把握する。 世界の動きが自分たちの生活と大きく絡み合っていることを理解する。
キーワード	人類、環境、文化、文明、資源。
成績評価（合格基準60）	最終評価試験65%、講義中の小テストと議論35%で評価する。いずれも基本を踏まえた上で、正誤関係なく独自色に富む回答を高く評価する。総計で60%以上を合格とする。
関連科目	文化史、地理学、民俗学。
教科書	使用しない。本講義の内容はテキストに出ていないことを含んでいる。
参考書	毎回配布するレジュメに参考文献を示す。また、講義中、適宜指示する。
連絡先	連絡はメールにて対応する。メールアドレスは、takashitsuji@kindai.ac.jp。携帯メールでの連絡はシステム上、返信できないことがあるので、連絡にはパソコン・メールアドレスを使用すること。講義日当日の質問や相談は、講義の前後に受け付ける。
注意・備考	止むを得ない事情で欠席する場合は、正当な事由を明記し、これを証する者が記名・押印した文書を事前に提出すること。講義資料は講義開始時に配布するものとMomo-campusで配布するものがある。なお、特別な事情がない限り、前者は、後日の配布、後者は、ダウンロード期間終了後の配布には応じない。講義中の録音/録画/撮影は原則認めない。特別の理由ある場合事前に相談すること。講義中に課した提出課題に関しては、適切な単元においてフィードバックを行う。
試験実施	実施する

科目名	社会情報入門(再)【火1金1】(FIV3F110)
英文科目名	Introduction to Socio-Information
担当教員名	森裕一(もりゆういち)
対象学年	1年
開講学期	秋1
曜日時限	火曜日 1時限 / 金曜日 1時限
対象クラス	社会情報学科(～16)
単位数	2.0
授業形態	講義

回数	授業内容
1回	社会調査の意義と用途について解説する。
2回	社会調査の歴史について解説する。
3回	調査倫理について解説する。
4回	各種の調査法と実施の方法について解説する。
5回	データ獲得法(母集団と標本および標本抽出法)について解説する。
6回	質的調査と量的調査について解説する。
7回	調査の企画について解説する。
8回	調査票のデザインについて解説する。
9回	分析の方法について解説する。
10回	調査結果のまとめ方とよみ方について解説する。
11回	実際の調査例(1)として、国税庁調査等の公的統計、世論調査、学術調査、動向調査の具体例について解説する。
12回	実際の調査例(2)として、マーケティングリサーチ、Web調査の具体例と特徴について解説する。
13回	統計処理の基礎(1)として、集団の特徴の把握、データの要約と表現の仕方について解説する。
14回	統計処理の基礎(2)として、変量間の関係把握の方法について解説する。
15回	調査報告とデータの管理について解説する。
16回	これまでの内容を総括し、最終評価試験を行う。

回数	準備学習
1回	社会調査の事例について、各種媒体で調べていくこと(標準学習時間60分)
2回	社会調査が行われる目的について、主として官公庁および報道機関の資料から調べておくこと(標準学習時間90分)
3回	社会調査の具体的な方法について、主として官公庁や報道機関の資料から調べておくこと(標準学習時間90分)
4回	社会調査の方法の特徴を復習するとともに、それぞれの方法がどのように用いられているかを調べておくこと(標準学習時間60分)
5回	データ解析基礎などの講義を復習し、母集団と標本について予習をしておくこと(標準学習時間60分)
6回	さまざま社会調査を調べ、それらの調査方法の違いについてまとめておくこと(標準学習時間90分)
7回	前回の復習をするとともに、具体的な計画や設計が自分でできるように、そのポイントをまとめておくこと(標準学習時間60分)
8回	さまざまな質問紙を見て、その質問文の作り方がどのようなになっているかを見teくること(標準学習時間60分)
9回	データの整理の仕方についてまとめておくこと(標準学習時間90分)
10回	あらためて官公庁や報道機関が実施している社会調査を見直し、これまでの講義で習った各観点からそれらを考察しておくこと(標準学習時間90分)
11回	あらためて官公庁や報道機関が実施している社会調査を見直し、これまでの講義で習った各観点からそれらを考察しておくこと(標準学習時間90分)
12回	市場調査や企業が行う社会調査を見直し、これまでの講義で習った各観点からそれらを考察しておくこと(標準学習時間90分)
13回	データ解析基礎などで学んだ統計手法を復習しておくこと(標準学習時間90分)
14回	前回学んだ分析手法を復習しておくこと(標準学習時間90分)
15回	社会調査が行われた例をさがし、その報告書などから、実際の手順についてまとめておくこと(標準学習時間90分)
16回	教科書を復習するとともに、講義内容をよく理解し、整理しておくこと(標準学習時間180分)

講義目的	社会調査を行う際に必要となることは何か?どのようなことができ、どのような学びが必要か?など、社会調査全体を鳥瞰し、社会調査の意義や目的を理解することを目的とする。はじめに、社会
------	--

	調査の意義、歴史、類型、調査倫理、官庁統計などの各種調査やマーケティングなどでの利用事例を取り上げ、社会調査全般にわたって学習する。その後、資料やデータの収集から分析までの諸過程に関する基礎的事項にも触れ、標本調査の考え方を基に、データの要約と関係の把握（記述統計）や推定・検定などのデータ処理方法（推測統計）についても、その概要と考え方を学習する。（社会情報学科の学位授与方針項目BとFにもっとも強く関与し、Cに強く関与し、Aにある程度関与する）
達成目標	・本学科で学習・研究する「社会情報」を広く理解することができる。 ・「社会調査」の基礎的事項を身につける。
キーワード	社会情報，社会調査，経営，経済，法政，社会，歴史，文化
成績評価（合格基準60	平常点(40%)最終評価試験(60%)によって評価し、総計で得点率 60%以上を合格とする。
関連科目	「社会調査法」，「社会調査実習」
教科書	新・社会調査へのアプローチ—論理と方法／大谷，木下，後藤，小松著／ミネルヴァ書房／9784623066544
参考書	データマイニング事例集／上田太一郎／共立出版
連絡先	森研究室（A1号館8階） mori@mgt.ous.ac.jp
注意・備考	(1) 「社会調査士」認定科目である。 (2) 毎回，確認小テストを行い，次の回で回答することで，学習内容の確認とフィードバックを行う。 (3) 講義中の録音／録画／撮影は他の受講者の妨げにならない限り自由とするが，他者への再配布（ネットへのアップロードを含む）は禁止する。
試験実施	実施する

科目名	歴史資料解析(再)【火1金1】(FIV3F210)
英文科目名	Analysis of Historical Sources
担当教員名	志野敏夫(しのとしお)
対象学年	2年
開講学期	秋1
曜日時限	火曜日 1時限 / 金曜日 1時限
対象クラス	社会情報学科(～16)
単位数	2.0
授業形態	講義

回数	授業内容
1回	オリエンテーション、および歴史の研究対象＝史料について講義する。
2回	歴史研究におけるテキストクリティークの重要性について講義する。歴史叙述に関する実験を行う。
3回	前回到引き続き、歴史研究におけるテキストクリティークの重要性について講義する。その後、歴史研究に必要な工具書、Webサイトを紹介する。
4回	レポートに基づき、引き続き工具書の解説を行ない、また、書籍の表題から内容についてどう推測するかについて講義する。
5回	漢字の持つ文化史的意義について講義する。
6回	漢字の訓読みと音読みの歴史的意味について講義する。
7回	『大漢和辞典』の紹介と引き方を講義し、実習する。
8回	漢字と漢文の特性を解説し、漢文理解の方法(漢文の読み方)を講義する。
9回	前回到引き続き、漢文理解の方法を講義する。
10回	『三国志』の著者陳寿の紹介と、『魏志倭人伝』のテキストクリティークを行なう。
11回	曹操と劉備を例にとり、彼らに対してどのような人物像が描かれているかを講義する。
12回	『魏志倭人伝』を読解し、そこにどのような問題が見いだせ、それをどのように考えるか、いくつかの考え方を紹介する。
13回	前回到引き続き『魏志倭人伝』を読解し、そこにどのような問題が見いだせ、それをどのように考えるか、いくつかの考え方を紹介する。
14回	前回到引き続き『魏志倭人伝』を読解するとともに、その史料を基に歴史を復元する方法を講義する。
15回	これまでの講義とレポートの内容に基づく小テストを行い、その解説をして本講義の学習内容を復習する。

回数	準備学習
1回	われわれはどのようにして「歴史」を知るのかについて、各人考えまとめておくこと。(標準学習時間120分)
2回	前回講義の復習をしておくこと。(標準学習時間120分)
3回	第2回の授業最後に、各人に特定の書籍名を与えるので、それをどのようにすれば手に入れて読むことができるかを調べておくこと。(標準学習時間120分)
4回	歴史概説書に関するレポートを課すので、それを行っておくこと。(標準学習時間180分)
5回	東アジア世界に漢字が普及する過程について調べておくこと。(標準学習時間120分)
6回	漢字の音読みと訓読みの違いについて調べておくこと。(標準学習時間120分)
7回	各人の持つ漢和辞典で、引き方を復習しておくこと。(標準学習時間120分)
8回	高校で学習した漢文文法の復習をしておくこと。(標準学習時間120分)
9回	前回講義の復習をしておくこと。(標準学習時間120分)
10回	『正史 三国志』(ちくま学芸文庫)の解説部分を読んで、『三国志』とはどのような書物であるのかを知っておくこと。(標準学習時間120分)
11回	前回講義の復習をしておくこと。(標準学習時間120分)
12回	『正史 三国志 4』(ちくま学芸文庫)の「魏志倭人伝」部分を一読し、内容を把握しておくこと。(標準学習時間120分)
13回	いわゆる「里程問題」についてレポートを作成すること。(標準学習時間120分)
14回	前回講義の復習をし、問題へのアプローチについて各自で考えておく。(標準学習時間120分)
15回	『正史 三国志 4』(ちくま学芸文庫)の「魏志倭人伝」部分を参考にして、配布している「魏志倭人伝」原文の読み下しを行っておくこと。また、各自がこれまでに提出したレポートを再度確認し、各人それぞれの問題解決へのアプローチ方法について再考しておくこと。(標準学習時間180分)

講義目的	歴史研究に必要な方法論を講義・実習する。主に東アジアの歴史理解に必要な、漢文史料の読解を行う。 (社会情報学科のディプロマポリシーのCに最も強く関与し、Bに強く関与する)
------	--

達成目標	1. 歴史研究の方法を理解できる。 2. 漢和辞典を使いこなすことができる。 3. 漢文史料から歴史を再構成する基本的方法を理解できる。
キーワード	歴史研究、テキストクリティーク、漢字文化、漢文読解
成績評価（合格基準60）	一般レポート（60％）、実験レポート（20％）、小テスト（20％）で評価し、総合して全体の60％以上で合格とする。
関連科目	東アジアの歴史、歴史学、社会情報実習 y
教科書	特に無い
参考書	『大漢和辞典』（購入する必要はない） 『正史 三国志4』ちくま学芸文庫（購入する必要はない） その他、講義中に紹介する
連絡先	研究室：A1号館 6 階
注意・備考	・小テストの際は、テスト実施の後でフィードバック（解説）を行う。 ・提出されたレポートは、採点后、授業中に返却し、フィードバック（解説）を行う。あるいはアクティブラーニングを促すため、出されたレポートをもとにグループによるディスカッションを行うことがある。
試験実施	実施しない

科目名	民俗学(再)【火2金2】(FIV3G210)
英文科目名	Folklore
担当教員名	志野敏夫(しのとしお)
対象学年	2年
開講学期	秋1
曜日時限	火曜日 2時限 / 金曜日 2時限
対象クラス	社会情報学科(～16)
単位数	2.0
授業形態	講義

回数	授業内容
1回	オリエンテーションと導入。「民俗学」とはどのような学問か、「民族学」とはどう違うのか、講義する。
2回	日本における「民俗学」はどのような学問か、「歴史学」「考古学」と比較しながら講義する。
3回	無形文化遺産という概念を出発点に、民俗学の資料と歴史学の史料について考える。
4回	日本や海外のさまざまな誕生の儀式、成人式、葬礼を紹介し、人々が生や死についてどのように考えているかを考察する。
5回	日本の神社とは、どのような空間であるのかを講義する。
6回	京都祇園祭を例に、神社と祭礼、日本の神話について講義する。
7回	神社において行われる祭礼について、都市と農村、山村と漁村などによってどのように違うか、そしてその違いはどうして起こるのかを考える。
8回	照葉樹林文化圏について講義する。
9回	引き続き照葉樹林文化圏について講義する。
10回	中国四川省の山岳民の生活を紹介するとともに、日本の山村との共通点などについて講義する。
11回	民俗学的調査の方法について講義する。
12回	年中行事についてのアクティブラーニング(1)を行う。グループ分けをし、アイスブレイクの後、各グループでテーマと各人の調査事項を決める。ここでは、なぜそのようなことが行われるのかについて調査することを主体とする。
13回	年中行事についてのアクティブラーニング(2)を行う。各人が調べたことを持ち寄り、グループとしての発表資料にまとめる。続けて、同様のことが海外の風習にもあるか、有るならばどのようなもので、なぜそのようにするのか、などについて調べるための役割分担を決める。
14回	年中行事についてのアクティブラーニング(3)を行う。各人が調べたことを持ち寄り、グループとしての発表資料にまとめる。
15回	年中行事についてのアクティブラーニング(4)を行う。これまで調べまとめてきたことを、グループ毎に発表する。

回数	準備学習
1回	「民俗」と聞いてどのようなことを連想するかを尋ねるので、各人考えておくこと。(標準学習時間40分)
2回	柳田國男という人物について調べておくこと。(レポート)(標準学習時間120分)
3回	無形文化遺産の具体的な例を、各自2つずつ調べておくこと。(レポート)(標準学習時間120分)
4回	日本の今のような成人式がいつからできたかについて調べておくこと。(レポート)(標準学習時間120分)
5回	各人の居住地にある神社について調べておくこと。(レポート)(標準学習時間180分)
6回	日本の神話における、スサノヲノミコトという神について調べておくこと。(レポート)(標準学習時間120分)
7回	第5回の準備学習で調べた神社について、改めてその祭礼を調べておくこと。(レポート)(標準学習時間120分)
8回	高校で学習した、地理の気候区分について復習しておくこと。(標準学習時間90分)
9回	前回の講義内容について復習をしておくこと。(標準学習時間120分)
10回	焼畑という生産方法について調べておくこと。(レポート)(標準学習時間120分)
11回	民俗学的調査方法について調べておくこと。(レポート)(標準学習時間120分)
12回	年中行事について調べておくこと。(標準学習時間120分)
13回	各人に割り当てられた調査をしておくこと。(標準学習時間120分)
14回	各人に割り当てられた調査をしておくこと。(標準学習時間120分)
15回	パワーポイントで発表資料をまとめ、発表の準備をしておくこと。(標準学習時間180分)

講義目的	グローバル化がすすむ現在、今いちど日本の伝統文化を見直そうとする動きがある。本講義では、民俗学を通じて日本人の生活や伝統文化の特質を理解することを目的とする。こうした自文化への理解を深めることは、将来的には異文化を理解するための基礎となる。講義のなかでは、基本的に
------	--

	は日本のことを学ぶが、アジアの生活習慣や伝統文化の事例を紹介することにより、比較という視点を混ぜつつ日本文化への理解を深めていく。（社会情報学科の学位授与方針項目BとFにもっとも強く関与する）
達成目標	民俗学の研究方法について理解し、実施を試みることができる。 日本の文化や社会の特質を理解することができる。 身近な伝統文化や生活について関心を持ち自ら調べることができる。 文化の多様性と普遍性を理解することができる。
キーワード	日本民俗学、柳田國男、民俗調査、自国文化と異文化
成績評価（合格基準60	レポート（50％）、グループディスカッションでの活動（30％）、グループでの発表（20％）により評価し、これらを総合して全体で60％以上の得点率で合格とする。
関連科目	地域と伝統、日本の歴史、中国の歴史、東南アジアの歴史、アジアの考古学、地理学、世界地誌、比較文化論
教科書	特に無い
参考書	適宜授業中に紹介する
連絡先	A 1 号館 6 階 志野研究室
注意・備考	・提出されたレポートについては授業中の講義やディスカッションの中でフィードバックする。 ・この講義ではアクティブラーニングを促すためグループディスカッションを行う。
試験実施	実施しない

科目名	国際政治学(再)【火3金3】(FIV3H220)
英文科目名	International Politics
担当教員名	松村博行(まつむらひろゆき)
対象学年	2年
開講学期	秋1
曜日時限	火曜日 3時限 / 金曜日 3時限
対象クラス	社会情報学科(～16)
単位数	2.0
授業形態	講義

回数	授業内容
1回	日本国憲法の成立と国際環境の変化：終戦後の占領期の日本外交の課題について説明する。
2回	独立の回復と米軍の駐留：主権回復後に米軍の日本駐留が継続した背景について説明する。
3回	1950年の内政・外交：鳩山一郎、岸信介の時代の日本政治の課題について説明する。●第1回小テスト
4回	安保改定から高度経済成長へ：安保改定を頂点に「政治の季節」が終わり、経済の時代へ突入する経緯について説明する。
5回	1960年代の国際関係：60年代の米ソ関係と中国の状況について説明する。
6回	激動の1970年代：国際関係が大きく動く1970年代の日米関係を解説する。●第2回小テスト
7回	日米同盟へ：日米安保体制が「同盟」と評されるようになった1980年前後の日米関係について説明する。
8回	同盟関係とライバル関係：安全保障面での関係深化に対し、経済の面で深刻化した日米貿易経済摩擦の展開について説明する。
9回	冷戦の終焉：冷戦の終焉が日米関係に与えた影響について考察する。●第3回小テスト
10回	同盟の漂流と東アジアの新たな脅威：冷戦の終焉が日米同盟に与えた影響とその再定義に至るまでの過程を説明する。
11回	日米安保再定義と新ガイドラインの制定：1996年の安保再定義の含意と新ガイドライン制定に至る過程を説明する。
12回	「テロ特措法」と日米同盟の新たな局面：9・11事件を契機とした新たな時代における日米関係について説明する。●第4回小テスト
13回	イラク特措法から「世界の中の日米同盟」へ：自衛隊がイラクに派遣された背景と日米による軍事一体化の現状を説明する。
14回	台頭する中国への対応：経済力、軍事力を高めた中国に対して日本や米国がどのように対応しているのかを説明する。
15回	講義のまとめ：講義を総括し、今後の日本の政治・外交のあり方について考える。●第5回小テスト
16回	最終評価試験：第1回から第15回までを総括し、最終評価試験を実施する。

回数	準備学習
1回	予習： マッカーサー、GHQについて調べておくこと。 復習： 対日占領政策がなぜ変わったのか整理しておくこと。 (標準学習時間120分)
2回	予習： 吉田茂という人物について調べておくこと。 復習： 吉田外交がなぜ左右から批判されたのか、その理由を整理しておくこと。 (標準学習時間120分)
3回	予習： 岸信介という人物の来歴について調べておくこと。また、小テストに向けて前2回の内容を復習しておくこと。 復習： 鳩山がなぜ当初の思い通りの政策を実現できなかったのか整理しておくこと。 (標準学習時間180分)
4回	予習： 安保闘争について調べておくこと。 復習： 吉田外交が再評価された理由について整理しておくこと。 (標準学習時間120分)
5回	予習： ベトナム戦争について調べておくこと。 復習： 米ソデタントや中ソ対立が日本の安全保障にどのような影響を与えたのか整理しておくこと。 (標準学習時間120分)
6回	予習： 1971年のニクソンショックについて調べておくこと。また、小テストに向けて前2回の内容を復習しておくこと。 復習： ニクソンショックがなぜ日本の外交にトラウマを与えたのか整理しておくこと。

	(標準学習時間180分)
7 回	予習： 中曽根康弘という人物について調べておくこと。 復習： 総合安全保障戦略と平和主義の関係について整理しておくこと。 (標準学習時間120分)
8 回	予習： スーパー301条、ジャパン・バッシングとは何か調べておくこと。 復習： 日米貿易経済摩擦における日本の対応策について整理しておくこと。 (標準学習時間120分)
9 回	予習： 湾岸戦争における日本政府の対応について調べておくこと。また、小テストに向けて前2回の内容を復習しておくこと。 復習： カンボジアPKO派遣に至るまでの「国際協力」の議論について整理しておくこと。 (標準学習時間180分)
10 回	予習： 北朝鮮核危機(1994年)と台湾海峡ミサイル演習(1995年)について調べておくこと。 復習： 東アジアでは冷戦が終わっていなかった理由を説明できるように整理しておくこと。 (標準学習時間120分)
11 回	予習： 78ガイドラインと97ガイドラインの内容を調べておくこと 復習： 周辺事態とはどのような概念かを整理しておくこと (標準学習時間120分)
12 回	予習： 9.11事件とそれを受けたアメリカの「対テロ戦争」がどのようなものか調べておくこと。また、小テストに向けて前2回の内容を復習しておくこと。 復習： テロ特措法における自衛隊の活動内容を整理しておくこと。 (標準学習時間180分)
13 回	予習： イラク戦争に対する世界各国の支持・不支持の立場について調べておくこと。 復習： イラク特措法に基づいて自衛隊が行った活動について整理しておくこと。 (標準学習時間120分)
14 回	予習： 2000年以降の中国の経済成長の様相と「韬光養晦」の意味について調べておくこと。 復習： パワーシフト、パワートランジションについて説明できるように整理しておくこと。 (標準学習時間120分)
15 回	予習： 講義で取り扱った現代日本の外交問題について、自分の意見が言えるように準備しておくこと。 復習： これまで指示した復習のポイントを再度復習しておくこと (標準学習時間180分)
16 回	予習： 第1回から第15回までの内容をよく理解し、整理しておくこと(標準学習時間120分)

講義目的	この講義は皆さんが教養として知っておくべき戦後日本の歩みを、政治外交史を中心に概説することを目的としています。特に、戦後の日米関係と自衛隊の活動との関係について深く議論を行いたいと思います。(社会情報学科の学位授与方針の項目Bにもっとも強く関与し、項目Cに強く関与する)
達成目標	(1)日本の戦後政治外交史の基礎を理解し、説明できる。 (2)日本の平和主義の移り変わりについて理解し、説明できる。 (3)戦後日本外交史の基軸にある日米関係について理解し、自身の見解を持つことができる。
キーワード	吉田ドクトリン 日米同盟 平和主義 集団的自衛権
成績評価(合格基準60)	小テスト(15点×5) 最終評価試験(25点)
関連科目	政治学
教科書	使用しない
参考書	五百旗頭真編[2010]『戦後日本外交史』第3版、有斐閣(978-4-641-12407-3) 必ずしも購入する必要はありませんが、講義はこの本を基に進めていきます。
連絡先	松村研究室 A1号館702号室
注意・備考	・配布資料は、毎回授業の最初に配布する。 ・小テストの模範解答は、次の授業内にて解説し、フィードバックを行う。 ・最終評価試験のフィードバックはMomo-Campusのフィードバック機能を用いて行う。 ・他の受講生の妨害になる振る舞い(雑談等)については厳しく対処する。 ・講義の録音、録画、撮影は原則認めない。ただし、特別な理由がある場合には事前に相談すること。 ・飲食のうち、「食」についてはガムやアメも含めて認めてない。
試験実施	実施する

科目名	市民生活と法(再)【水4水5】(FIV30110)
英文科目名	Civil Law
担当教員名	入江祥子* (いりえしょうこ*)
対象学年	1 年
開講学期	秋1
曜日時限	水曜日 4時限 / 水曜日 5時限
対象クラス	社会情報学科(～16)
単位数	2.0
授業形態	講義
授業内容	民法を具体的事例をまじえ概括的に講義する。
準備学習	授業の進行スピードが速いので、教科書の該当箇所は必ず一読しておくこと。 疑問点はあらかじめ挙げておくこと。 関連する時事問題についても調べておくこと。
講義目的	民法の基本的な考え方を学ぶ。社会生活に密接に関連している民法を通して法的思考力を養い、事例のなかから論点を抽出し分析する力を習得すること。(社会情報学科の学位授与方針項目B, Fにもっとも強く関与する)
達成目標	社会生活において陥りがちな法的トラブルを認知し、未然に回避するもしくは自ら解決するためのスキルを身に着ける。
キーワード	私法
成績評価(合格基準60)	授業後に実施する理解度チェック小テストの結果: 40% 最終評価試験結果: 60% により成績を評価し、総計で60%以上を合格とする。
関連科目	
教科書	民法入門(第6版)/野村豊弘/有斐閣/978-4-641-22029-4
参考書	六法(出版社、種類は問わない)
連絡先	質問等は授業時間前後に講義室で受けます。
注意・備考	授業の進行上、授業計画が前後する可能性があります、ご了承ください。 出欠数及び配布物の管理は各自で行ってください。 公欠は学校所定の手続きを行ったうえで、申し出てください。
試験実施	実施する

科目名	ビジネス実務総論(再)【木1木2】(FIV3P110)
英文科目名	Information of Business Practice
担当教員名	八木力俊*(やぎりきとし*)
対象学年	1年
開講学期	秋1
曜日時限	木曜日 1時限 / 木曜日 2時限
対象クラス	社会情報学科(～16)
単位数	2.0
授業形態	講義

回数	授業内容
1回	「オリエンテーション」～この講座目的とキャリアの考え方について説明する。
2回	「キャリアデザインの時代を生きる」～なぜキャリアデザインを考えなければならないか？人生全体のキャリアや今までの自分を考察する。
3回	「大学生生活とキャリアの関係について」～大学生活全般及び岡山理科大学や経営学部でできることについて説明する。
4回	「人生100年時代のキャリアデザイン」～AIの急速な進化や寿命が100年を超えるのが当たり前といわれる現代においては変化をとらえることが必要とされる。その考えを学び自らのキャリアデザインに役立てる。
5回	「大学生のゴールと就職活動」～大学を終えた後の自分を想像するとともに、履歴書を書くことの意味と基本について説明する。
6回	「資格を活かす生き方」～資格の種類を説明し、取得することのメリットや意味について考える。
7回	「学ぶことと経験することについて」～学ぶことと経験することについてグループで考える。
8回	「学ぶことと経験することについて」～学ぶことと経験することについて演習を通じて考える。(グループワーク)
9回	「会話による情報伝達」～話し方、聴き方について説明する。演習を通じて日常生活で意識し使えるように練習する。
10回	「会話による情報伝達」～就職試験で用いられるグループディスカッションを体験して意見の違いをまとめる練習をする。
11回	「メディアから情報を得る方法」～新聞や雑誌、インターネット、テレビなど様々な媒体から情報を得る方法を学習し習慣化する。
12回	「要約するための技術を学ぶ」～11回で学んだ内容を文章にして伝える練習をする。
13回	「発表するための技術を学ぶ」～要約した文章を人に伝える方法を学び、演習を通して体験する。
14回	「計画された偶然を引き寄せる」～ブランド・ハプスタンス理論をベースに世の中にある機会を前向きにとらえる方法を学ぶ。
15回	キャリアプラン、ライフプランの作成を説明する。
16回	最終評価試験を実施する。

回数	準備学習
1回	書籍やインターネットを参考にして「キャリア」とは何か自分なりの意見をまとめてくること(標準学習時間60分)
2回	書籍やインターネットを参考にして「なぜキャリアデザインを考えなければならないか？」自分なりの意見をまとめてくること(標準学習時間60分)
3回	大学のホームページを見たり、改めて志望動機を思い返し、大学生活とはなにか自分なりの意見を考えておくこと。やりたいことや目標も考えておくこと(標準学習時間60分)
4回	書籍やインターネットを参考にして「人生100年時代」について調べ、自分なりの意見をまとめてくること(標準学習時間60分)
5回	ワークで履歴書を作成してPRを行う。経歴や自己PRなどを考えておくこと(標準学習時間60分)
6回	興味のある分野の資格について調べておくこと(標準学習時間40分)
7回	「まなぶこと」や「経験すること」について自分なりの意見をまとめてくること。また一番長く続けていることについて考えてくること(標準学習時間60分)
8回	特になし
9回	自己PRを行うので、自分の強みや好きなこと苦手なことなどを自己分析しておくこと(標準学習時間60分)
10回	事前に「グループディスカッション」について調べてくること(標準学習時間60分)。
11回	日常どのようなメディアを利用して情報を得ているかメンバーに説明できるようにまとめておくこと(標準学習時間60分)
12回	新聞やインターネットから気になった記事を選んで持ってくること(標準学習時間60分)
13回	前回作成した原稿を発表するための準備をしておくこと(標準学習時間60分)

1 4 回	事前に「ブランド・ハブスタンス理論」について調べてくること（標準学習時間60分）
1 5 回	1回～15回までの内容をよく理解し整理しておくこと、またこれまでに配布した資料に目を通しておくこと（標準学習時間60分）
1 6 回	講義内容をよく理解し整理しておくこと（標準学習時間90分）
講義目的	経営学部から広がる将来展望に必要な考え方や学生生活について学び、学問的・専門的知識を獲得すると共に、将来を見据えた計画を立て、自らキャリアを主体的に進めていくことを目的とする。必要とされる資格や能力、人とのかかわり方「社会人基礎力」を演習から習得できるようアクティブラーニングを中心とした内容で進める。 （社会情報学科の学位授与方針項目AとEにもっとも強く関与、社会情報学科の学位授与方針項目Bに強く関与する）
達成目標	経営学部から広がる将来への可能性や学生生活について理解することができる 学問的・専門的知識を獲得すると共に将来を見据えた計画を立てることができる 自らキャリアデザインを描き、計画を立てて学生生活を送ることができる 課題を見つけ将来に向けて学生生活を主体的、行動的に過ごすことができる 社会で必要とされる能力や人とのかかわり方を演習から習得することができる
キーワード	自己分析、キャリアデザイン、コミュニケーション、就職活動、目標設定、社会人基礎力、ライフシフト
成績評価（合格基準60	・授業中の演習10%、提出物10%、最終評価試験80%により成績を評価し、総計で60%以上を合格とする。 ・但し、最終評価試験において基準点を設け、得点が100点満点中、60点未満の場合は不合格とする。
関連科目	「コミュニケーション論」は本講座の「人と関わる力」のスキルアップにつながる。 「実践キャリア学」を受講することで継続して学生生活のキャリアを考えることができる。
教科書	各回の講義で必要に応じてプリントを配布する。
参考書	特になし
連絡先	A 1 号館 7 階山口研究室
注意・備考	・この講義ではアクティブラーニングを促すためペアワークやグループワークを行う。 ・講義資料は講義開始時に配布する。なお、特別な事情がない限り後日の配布には応じない。 ・講義中の録音／録画／撮影は原則認めない。当別の理由がある場合事前に相談すること。 ・講義中に課題を出した場合のフィードバックは授業内で説明する。 ・学生の人数、受講状況により内容や進め方の変更の可能性がある。様子を見ながら進めていきたい。「履修して良かった」と思える講義を目指したい。
試験実施	実施する

科目名	危機管理論 (再) (FIV3S210)
英文科目名	Risk Management I
担当教員名	松尾浩三* (まつおこうぞう*)
対象学年	2年
開講学期	秋1
曜日時限	木曜日 4時限
対象クラス	社会情報学科 (~16)
単位数	1.0
授業形態	講義

回数	授業内容
1回	危機管理概論 (リスク対策の基本 (回避、低減、移転、保有) 及びPDCAサイクル等) について説明する。
2回	リスクの認識及び評価の仕方 (リスクマップ作成) について説明する。
3回	リスクへの事前対策 (危険予知シート作成) について説明する。
4回	リスクへの事前対策 (法令・行政・地域・企業等の取組) について説明する。
5回	リスク発生時の対策 (問題発生時の謝罪の仕方、謝罪文作成) について説明する。
6回	リスク発生時の対策 (図上演習を取り入れた大災害への対応、BCPの説明) について説明する。
7回	図上演習を取り入れた大災害への対応と対策について説明する。
8回	現在日本が抱える課題とその対策概論 まとめ 最終評価試験を実施する。

回数	準備学習
1回	ニュースに興味をもつこと。(標準学習時間90分)
2回	第1回目の講義の復習及び課題の準備をしておくこと。(標準学習時間90分)
3回	第2回目の講義の復習及び課題の準備をしておくこと。(標準学習時間90分)
4回	第3回目の講義の復習及び課題の準備をしておくこと。(標準学習時間90分)
5回	第4回目の講義の復習及び課題の準備をしておくこと。(標準学習時間90分)
6回	第5回目の講義の復習及び課題の準備をしておくこと。(標準学習時間90分)
7回	第6回目の講義の復習及び課題の準備をしておくこと。(標準学習時間90分)
8回	第1回目から第7回目まで、全ての講義の復習をしておくこと。(標準学習時間90分)

講義目的	身近な事例を用いリスクを認識してもらうとともに、社会に出てからも実践で役立つリスク 対策の考え方を身につける。(社会情報学科の学位授与方針項目Eにもっとも強く関与、項目Cに強く関与)
達成目標	日々報道されるニュースに興味を持つとともに、ニュースを見て(読んで)自分でリスク を認識できるようにする。講義で行うグループワークを通じてリスク対策の基礎を身につける。
キーワード	日常のリスク、企業・行政・地域のリスク、災害のリスク
成績評価 (合格基準60)	最終評価試験 (50%) と授業における討論中の発言、発表内容 (50%) によって評価する。
関連科目	危機管理論
教科書	リスクマネジメント基礎講座 / 一般財団法人リスクマネジメント協会 / ISBN978-4-9907466-1-2
参考書	リスクマネジメント101 / 一般財団法人リスクマネジメント協会 (授業で配布)
連絡先	松尾 kinkikeibi@sirius.ocn.ne.jp
注意・備考	・本講義 (危機管理論) を受講しないと、危機管理論、 を受講できないので注意すること。 ・この講義ではアクティブラーニングを促すためグループディスカッションを行う。 ・課題については、講義中に模範解答を配布しフィードバックを行う。講義中の録音 / 録画 / 撮影は他の受講者の妨げにならない限り自由とするが、他者への再配布 (ネットへのアップロードを含む) は禁止する。
試験実施	実施する

科目名	国際経済論(再)【木4木5】(FIV3T110)
英文科目名	International Economics
担当教員名	栗原理*(くりはらおさむ*)
対象学年	1年
開講学期	秋1
曜日時限	木曜日 4時限 / 木曜日 5時限
対象クラス	社会情報学科(～16)
単位数	2.0
授業形態	講義

回数	授業内容
1回	貿易などをととして、世界的な経常収支不均衡が生じている。一国における国内総生産を総支出の面から俯瞰し、経常収支と国際経済についての関連を考える。
2回	国際的な資金の移動について考える。
3回	国際金融取引と国際収支について考える。
4回	国際金融取引と貯蓄・投資について考える。
5回	外国為替レートの決定について考える。
6回	購買力平価から外為レートについて考える。
7回	金利平価から外国為替レートについて考える。
8回	外国為替レートの安定について考える。
9回	マクロ経済政策と為替介入について考える。
10回	通貨危機のメカニズムについて考える。
11回	国際通貨制度について考える。
12回	為替レート制度について考える。
13回	通貨統合について考える。
14回	経済開発について説明する。経済発展の源泉とは何かについて考える。
15回	これまでの内容を総括し、最終評価試験を実施する。
16回	最終評価試験の出題趣旨と解説をおこなう。

回数	準備学習
1回	国内総生産について復習をしておく。(標準学習時間90分)
2回	一国の経常収支が国際経済の中で、どういった現象として現れるのかを復習しておく。(標準学習時間90分)
3回	物・サービスの移動を伴う対外的な金融取引や資本取引をととして資金が移動していくことを復習しておく。(標準学習時間90分)
4回	国際収支の各項目を復習しておく。(標準学習時間90分)
5回	消費、貯蓄、投資と利子率との関連を復習しておく。(標準学習時間90分)
6回	貿易に伴って変動する外国為替レートについて復習しておく。(標準学習時間90分)
7回	物価水準の相違が外国為替レートに変動をもたらすことを復習しておく。(標準学習時間90分)
8回	利子率の相違がと外国為替レートに変動をもたらすことを復習しておく。(標準学習時間90分)
9回	財政政策、金融政策について復習しておく。(標準学習時間90分)
10回	財政政策と金融政策、ならびに通貨当局による為替介入について復習しておく。(標準学習時間90分)
11回	国際政策協調がなぜ重要であるかについて復習をしておく。(標準学習時間90分)
12回	基軸通貨ドル体制の特徴について復習しておく。(標準学習時間90分)
13回	外国為替レートが変動することの長所について復習しておく。(標準学習時間90分)
14回	通貨統合と財政規律について復習しておく。(標準学習時間90分)
15回	1回～14回までの内容をよく理解し整理しておく。(標準学習時間90分)
16回	最終評価試験に備え、復習しておく。

講義目的	15回の講義を行う。国際金融論に必要な基礎知識として、マクロ経済学の基礎的な事項を再確認しながら、それらの知識をもとにして、外国為替の仕組みと形態、外国為替相場、外国為替市場、為替リスクヘッジの手段と方法、国際収支の仕組み、為替相場決定理論等を紹介する。また、関連する時事問題を随時とりあげて紹介することにより、国際的な政治・経済上のでき事を金融の視点から考察する。(経営学科の学位授与方針項目Eにもっとも強く関与する、社会情報学科の学位授与方針項目B, Fにもっとも強く関与する)
達成目標	国際金融に関わる基礎的な理論を学習することととして、さまざまな国際金融のしくみや意味を理解するとともに、関連する時事問題を、国際的な政治・経済上のでき事を金融の視点から考察できる力を醸成することを目指す。
キーワード	貿易、国際収支、経常収支、貿易収支、外国為替
成績評価(合格基準60)	適宜課すレポート課題(40%)および、最終評価試験(60%)で評価し、総計で60%以上を

	合格とする。
関連科目	経済学関連講義、アジアの産業と市場
教科書	はじめて学ぶ 国際経済 / 浦田秀次郎・小川英治・澤田康幸 / 有斐閣アルマ / 978-4641124219
参考書	ゼミナール国際経済入門 / 伊藤元重 / 日本経済新聞社 / 978-4532132880
連絡先	教務課にお尋ねください。
注意・備考	国際経済論は理論科目です。そのため、授業に欠席すると理解できなくなる恐れがあります。このことが理解できる学生の受講を歓迎します。
試験実施	実施する

科目名	キャリアデザイン(再)【金4金5】(FIV3X210)
英文科目名	Career Design
担当教員名	八木力俊*(やぎりきとし*)
対象学年	2年
開講学期	秋1
曜日時限	金曜日 4時限 / 金曜日 5時限
対象クラス	社会情報学科(～16)
単位数	2.0
授業形態	講義

回数	授業内容
1回	「オリエンテーション」～本講義で学ぶことについて説明する。
2回	「現在までのキャリアを振り返る」～大学1年生のキャリアを棚卸する。初めて受講する学生もいるのでキャリアデザインをなぜ学ぶ必要があるかについても解説する。
3回	「大学の学びを将来に活かす」～エンプロイアビリティと将来に向けて繋げるスキルを学ぶ。
4回	「ワークスタイルからみる働き方」～正社員、フリーランサー、フリーターなど様々な働き方がある中で、それぞれの特徴を学び未来を考える。
5回	「自己分析」～アセスメントを通じて自分を理解する方法を学ぶ。ペアになって他者評価を受け、傍目の自分に気づくことを目的とする。
6回	「自己分析」～質問から回答を通じて自分を理解する方法を学ぶ。ペアになって他者評価を受け、傍目の自分に気づくことを目的とする。
7回	「内的キャリアと外的キャリア」～自己分析とグループワークを通じて将来を決めるカギとなる経験を見つける。(8回へ継続して実施する)
8回	「適職とはどのようなものか」～自己分析とグループワークで適職について考える。(7回から引き続いて実施する)
9回	「社会で求められる力」～社会人基礎力について学びそれを醸成するためのワークに挑戦する。
10回	「社会で求められる力」～前回学んだことを踏まえてグループワークにて体験する。
11回	「社会で求められる力」～課題解決とロジカルコミュニケーションについて説明する。
12回	「社会で求められる力」～前回学んだことを踏まえてグループワークにて体験する。
13回	社会構造の変化～変化に適応する力とワークライフバランスについて説明する。
14回	社会構造の変化：変化に適応する力：イノベーションについて説明する。
15回	まとめ：ふりかえりを行う。
16回	最終評価試験を実施する。

回数	準備学習
1回	キャリアの意味を調べてくること。ビジネス実務総論を受講している者は配布資料に目を通してくること(標準学習時間60分)
2回	1年生の学生生活について他のメンバーに発表できるように振り返ってメモしてくること。ビジネス実務総論を受講している者は配布資料に目を通してくること(標準学習時間60分)。
3回	エンプロイアビリティの意味をメンバーに説明できるように調べて授業に参加すること(標準学習時間30分)
4回	「正社員」と「非正規社員」の違いや「フリーランサー」の意味をメンバーに説明できるように調べて授業に参加すること(標準学習時間30分)
5回	前回のレポートをもう一度読んで理解して授業に参加すること(標準学習時間30分)
6回	前回のレポートをもう一度読んで理解して授業に参加すること(標準学習時間30分)。
7回	「内的キャリア」「外的キャリア」の意味をメンバーに説明できるように調べて授業に参加すること(標準学習時間30分)
8回	前回のレポートをもう一度読んで理解して授業に参加すること(標準学習時間30分)
9回	「社会人基礎力」とは何か?メンバーに説明できるように整理して授業に参加すること(標準学習時間30分)
10回	グループワークの進め方を調べて参加すること(標準学習時間30分)
11回	前回のレポートをもう一度読んで理解して授業に参加すること(標準学習時間30分)
12回	前回のレポートをもう一度読んで理解して授業に参加すること(標準学習時間30分)
13回	「ワークライフバランス」の意味をメンバーに説明できるように調べて授業に参加すること(標準学習時間30分)
14回	「イノベーション」の意味をメンバーに説明できるように調べて授業に参加すること(標準学習時間30分)
15回	これまでのレポートで復習して授業に参加すること(標準学習時間90分)。
16回	講義内容をよく理解し整理しておくこと(標準学習時間90分)。

講義目的	終身雇用・年功序列・右肩上がりといった、会社がキャリアを保障する時代から、キャリアの自律
------	--

	を求められる時代に変化した今、大学時代から自分のキャリアをデザインすることが求められている。本講義は、自分が社会ではどのように働き、どんな人生を送りたいのかという、自律・自立した「自分らしい生き方」をデザインして実践できる力をつけることを目的とする。 自己分析や演習を通じて3年生からの就職活動への意識を高める。 「対話」や「プレゼンテーション」等のコミュニケーション技術を理解して実践できるようになる。
達成目標	自己と自分の強みと弱みを理解し、他者との円滑な意思疎通が行えるようになる。(E) 対話を通じて視野を広げ、将来を見据えた行動が行えるようになる(C) 問題解決の方法を身につけ、イノベーションや変化に対応できるようになる(B) 目標を見つけ、学生生活を能動的に過ごすことができるようになる(E) 働く意味を理解し、就職に向けて情報収集することができるようになる(E) ()内は社会情報学科の「学位授与の方針」に対応する項目(学科のホームページ参照)
キーワード	自己分析、キャリアデザイン、コミュニケーション、就職活動、目標設定、社会人基礎力、ライフシフト
成績評価(合格基準60)	・授業中の演習10%、提出物10%、最終評価試験80%により成績を評価し、総計で60%以上を合格とする。 ・但し、最終評価試験において基準点を設け、得点が100点満点中、60点未満の場合は不合格とする。
関連科目	「ビジネス実務総論」、「コミュニケーション」を受講することでこの授業の意味が更に深く理解できると考える。
教科書	各回の講義で必要に応じてプリントを配布する。
参考書	特になし
連絡先	A 1 号館 7 階山口研究室
注意・備考	・この講義ではアクティブラーニングを促すためペアワークやグループワークを行う。 ・講義資料は講義開始時に配布する。なお、特別な事情がない限り後日の配布には応じない。 ・講義中の録音/録画/撮影は原則認めない。当別の理由がある場合事前に相談すること。 ・講義中に課題を出した場合のフィードバックは授業内で説明する。 ・学生の人数、受講状況により内容や進め方の変更の可能性がある。様子を見ながら進めていきたい。「履修して良かった」と思える講義を目指したい。
試験実施	実施する

科目名	情報システム(再)【月1水1】(FIV4A210)
英文科目名	Information System
担当教員名	黒田正博(くろだまさひろ)
対象学年	2年
開講学期	秋2
曜日時限	月曜日 1時限 / 水曜日 1時限
対象クラス	社会情報学科(～16)
単位数	2.0
授業形態	講義

回数	授業内容
1回	イントロダクション。経営科学とは何かを説明する。
2回	線形計画法によるモデル化について予習をしておくこと(標準学習時間60分)
3回	線形計画法の解法について説明するとともに、確認のための練習問題を解く。
4回	輸送問題のためのネットワーク解析について説明する。
5回	最短経路問題を解くための基本アルゴリズムについて説明をするとともに、確認のための練習問題を解く。
6回	待ち行列理論によるモデル化と確率分布について予習をしておくこと(標準学習時間60分)
7回	教科書の例題を解くことで、理解を確実にしておくこと(標準学習時間90分)
8回	2つの在庫管理モデル化の違いを理解し、用いられる解法を予習をしておくこと(標準学習時間60分)
9回	教科書の例題を解くことで、理解を確実にしておくこと(標準学習時間90分)
10回	物価指数および株式市場での指数などの経営統計量と指数について説明する。
11回	平滑化モデルによる時系列データの解析方法について説明する。
12回	重回帰モデルを用いた時系列データの解析方法について説明する。
13回	計量経済モデルを用いた時系列データの解析方法について説明する。
14回	時系列データの解析方法を復習するとともに、確認のための練習問題を解く。
15回	これまでの内容を総括し、最終評価試験を実施する。
16回	最終評価試験の出題意図と解答の解説をおこなう。

回数	準備学習
1回	授業内容の確認をするとともに、線形計画法が有用な経営における場面を予習しておくこと。(標準学習時間60分)
3回	練習問題を解くことで、線形計画法の解法の理解を確実にしておくこと(標準学習時間90分)
4回	ネットワーク解析で考える(1)最短経路問題、(2)最小・スパニング・ツリー問題、(3)最大フロー問題について予習をしておくこと(標準学習時間60分)
5回	教科書の例題を解くことで、理解を確実にしておくこと(標準学習時間90分)
10回	経済および経営指標の定義と意味について予習しておくこと(標準学習時間90分)
11回	平滑化モデルを調べておくこと(標準学習時間60分)
12回	平滑化モデルの練習問題を解くことで理解を確実にしておくとともに、重回帰モデルを調べておくこと(標準学習時間90分)
13回	重回帰モデルの練習問題を解くことで、理解を確実にしておくとともに、計量経済モデルを調べておくこと(標準学習時間90分)
14回	計量経済モデルの練習問題を解くことで、理解を確実にしておくこと(標準学習時間60分)
15回	講義内容をよく理解し整理しておくこと(標準学習時間180分)
16回	最終評価試験の問題を復習しておくこと(標準学習時間90分)

講義目的	経営システムは、経営活動において生じる様々な問題を数学理論に基づく科学的方法や、合理的な意思決定によりで解決を図るための学問である。実際には、経営学、経済学、数学などの分野での考え方や理論を用いて、数学モデルを立て、コンピュータを使ってそのモデルを解析し、問題を説明していく。この講義では、よく用いられる数学モデルとその解法について説明する。(経営学科の学位授与方針項目Eにもっとも強く関与、項目Aに強く関与する。社会情報学科の学位授与方針項目A、B、Fにもっとも強く関与する)
達成目標	経営活動で生じる問題に対し、その解決方法としての数学モデルとその解法を理解することを目指し、経営分野における数理的問題解決のための方法に関する基礎知識を習得する。
キーワード	線形計画法、輸送問題、待ち行列と在庫管理、時系列データの解析
成績評価(合格基準60)	最終評価試験(100%)により成績を評価し、60%以上を合格とする。
関連科目	経営情報
教科書	入門経営科学—EXCELによる演習(改訂版)/宮川公男・野々山隆幸・佐藤修/実教出版/978-4407316957
参考書	適宜指示する。

連絡先	黒田研究室 A1号館8階
注意・備考	(1) この講義では、補助教材及び演習課題とその解答をMomo-campusを通じて配布する。 (2) 講義中の録音 / 録画 / 撮影は他の受講者の妨げにならない限り自由とするが、他者への再配布（ネットへのアップロードを含む）は禁止する。
試験実施	実施する

科目名	ミクロ経済解析(再)【月1水1】(FIV4A220)
英文科目名	Micro-Economics
担当教員名	三原裕子(みはらゆうこ)
対象学年	2年
開講学期	秋2
曜日時限	月曜日 1時限 / 水曜日 1時限
対象クラス	社会情報学科(～16)
単位数	2.0
授業形態	講義

回数	授業内容
1回	ガイダンス。講義の進め方を説明し、ミクロ経済の概観を説明する。
2回	授業を行うために最低限必要な連立方程式を復習する。
3回	消費者は何を規準として意思決定を行っているのかについて説明する。
4回	消費者の効用最大化行動を経済学の枠組みで説明する。
5回	財の価格が変化したときの消費者の効用最大化行動の変化について、所得効果と代替効果を用いながら説明する。
6回	異時点間の問題を考え、消費者はどのように消費量や貯蓄量を決定するのかについて説明する。
7回	消費者余剰、生産者余剰および社会余剰について説明する。
8回	2回から7回までの練習問題を解き、その解説をする。
9回	財政の役割、租税の原則および種類について説明する。
10回	所得税の性質を超過負担の観点から説明する。
11回	消費税の性質を超過負担の観点から説明する。
12回	公平性の観点から消費税と所得税の性質について説明する。
13回	9回から12回までの練習問題を解き、その解説をする。
14回	税の転嫁と税が社会余剰に与える効果について説明し、これまでの講義内容をまとめる。
15回	最終評価試験を実施する。
16回	最終評価試験のフィードバックとして出題意図と解答の解説をおこなう。

回数	準備学習
1回	ミクロ経済学の目的について、第1回目の講義を踏まえてきちんと整理しておくこと(標準学習時間30分)
2回	連立方程式を解き、与えられた関数をきちんと図示できるように復習をしておくこと(標準学習時間60分)
3回	消費者の行動規準についてきちんと復習をしておくこと(標準学習時間60分)
4回	消費者の効用最大化行動にはなぜ予算制約線と無差別曲線を用いるのかについて説明できるように復習をしておくこと(標準学習時間60分)
5回	所得効果と代替効果について図示によって説明できるように復習をしておくこと(標準学習時間60分)
6回	異時点間の消費決定について、所得効果と代替効果を用いて説明できるように復習をしておくこと(標準学習時間40分)
7回	消費者余剰、生産者余剰および社会余剰について言葉と図示によって説明できるように復習をしておくこと(標準学習時間60分)
8回	第3回から第6回までで分からないところを見つけておくこと(標準学習時間60分)
9回	日本の財政状況について、調べておくこと(標準学習時間60分)
10回	第5回目で行った所得効果と代替効果についてしっかりと復習をしておくこと(標準学習時間40分)
11回	第5回目で行った所得効果と代替効果についてしっかりと復習をしておくこと(標準学習時間30分)
12回	「逆進性」について参考書などで調べておくこと(標準学習時間50分)
13回	消費税と所得税という2つの税体系を超過負担と逆進性の観点からきちんと復習すること(標準学習時間60分)
14回	第14回までに社会余剰について復習をしておくこと(標準学習時間60分)
15回	講義内容をよく理解し整理しておくこと(標準学習時間180分)
16回	最終評価試験の問題を復習しておくこと(標準学習時間90分)

講義目的	本講義では消費者の行動を通じて経済現象を説明することを目的とする。そのために、消費者の効用最大化行動、租税の性質、公平性と超過負担という観点からいくつかの税体系のもつ性質について述べる。(社会情報学科の学位授与方針項目Bにもっとも強く関与し、Cに強く関与する)
達成目標	経済学の基礎的な知識を身に付け、理論的に物事が判断できるための力を養う。 新聞記事を読み、自分自身で政策の効果が評価できるようになるための知識を身につける。

	公務員試験や経済学検定試験等の資格試験取得のための力を養う。
キーワード	財政、効率性、公平性
成績評価（合格基準60	課題提出20%、小テスト30%、学期末試験50%により評価し60点以上を合格とする。
関連科目	マクロ経済解析、社会学
教科書	
参考書	ミクロ経済学をつかむ / 神戸伸輔 他 / 有斐閣 : コア・テキスト 財政学 / 小塩隆士 / 新世社
連絡先	A1号館7階 三原研究室
注意・備考	(1) この講義では、レジュメはMomo-campusを通じて配布する。 (2) 講義中の録音 / 録画 / 撮影は原則禁止する。ただし、やむを得ない事情等により、事前に申し出た場合に限りほかの受講生の妨げにならない範囲で許可する。
試験実施	実施する

科目名	ファイナンス【月2水2】(FIV4B310)
英文科目名	Finance
担当教員名	山口隆久(やまぐちたかひさ)
対象学年	3年
開講学期	秋2
曜日時限	月曜日 2時限 / 水曜日 2時限
対象クラス	社会情報学科
単位数	2.0
授業形態	講義

回数	授業内容
1回	イントロダクション。講義の進め方を説明する。このファイナンス戦略とは何か。
2回	企業の財務諸表の見方を説明する。
3回	企業の財務諸表の分析の手法を説明する。
4回	時間的価値を割引価値を中心に説明する。
5回	投資にあたり重要な判断基準を説明する。
6回	リスクとリターンについて説明する。
7回	資金調達(株式と負債)を説明する。
8回	資本コストを説明する。
9回	企業の評価評価の手法を説明する。
10回	情報の非対称性とエージェンシー理論を説明する。
11回	配当政策を説明する。
12回	企業の合併・買収を説明する。
13回	事業投資の意思決定の事例を説明する(第1回)。
14回	事業投資の意思決定の事例を説明する(第2回)。
15回	講義のまとめを行う。
16回	1回～15回までの総括を行い、最終評価試験を実施する。

回数	準備学習
1回	特になし
2回	第1回の講義に配付された資料を事前に確認しておくこと(標準学習時間90分)
3回	第2回の講義後に配付された資料を事前に確認しておくこと(標準学習時間90分)
4回	第3回の講義後に配付された資料を事前に確認しておくこと(標準学習時間90分)
5回	第4回の講義後に配付された資料を事前に確認しておくこと(標準学習時間90分)
6回	第5回の講義後に配付された資料を事前に確認しておくこと(標準学習時間90分)
7回	第6回の講義後に配付された資料を事前に確認しておくこと(標準学習時間90分)
8回	第7回の講義後に配付された資料を事前に確認しておくこと(標準学習時間90分)
9回	第8回の講義後に配付された資料を事前に確認しておくこと(標準学習時間90分)
10回	第9回の講義後に配付された資料を事前に確認しておくこと(標準学習時間90分)
11回	第10回の講義後に配付された資料を事前に確認しておくこと(標準学習時間90分)
12回	第11回の講義後に配付された資料を事前に確認しておくこと(標準学習時間90分)
13回	これまでに配布した資料に目を通しておくこと(標準学習時間90分)
14回	これまで配布の資料をチェックして、法人マネジメントについて考えておくこと(標準学習時間90分)
15回	これまでに配布した資料に目を通しておくこと(標準学習時間90分)
16回	1回～15回までの内容をよく理解し整理しておくこと(標準学習時間90分)

講義目的	本講義の目的は、はじめて「ファイナンス」を学ぶ人を対象に、コーポレート・ファイナンスの基礎的概念を学ぶことである。ファイナンスというワードは非常に多義的な意味をもっている。それは私たちの社会生活において、ファイナンスというものがとても関係が深いことの表れであろう。本講義の目的はファイナンスの考え方を理解することにより、今後の生活に適切に活用できるようにすることである。初学者には難しいことでも、身近な事例を用いて、基礎的理解を深めるよう、平易に説明する。(社会情報学科の学位授与方針項目Cにもっとも強く関与、項目Bに強く関与)
達成目標	日々取り上げられる経済ニュースには、ファイナンスに関わる出来事が散見されます。本講座を履修することにより、経済ニュースの理解を深めることを期待します。
キーワード	貸借対照表、損益計算書、キャッシュフロー、NPV、IRR、ROC、CAPM、間接金融、直接金融、WACC、MM理論、M&A
成績評価(合格基準60)	定期試験(60%)と、授業の中で実施する課題または中間テスト(40%)によって評価する。
関連科目	特になし
教科書	
参考書	適宜、指示する。

連絡先	A1号館7F 山口隆久研究室 t-yama@mgt.ous.ac.jp 086-256-9752
注意・備考	(1)試験は最終評価試験期間に行い、試験形態は筆記試験とする。(2)課題（レポートや小テスト）に対するフィードバックは、講義中に行うこととする。(3)講義中の録音／録画／撮影は他の受講者の妨げにならない限り自由とするが、他者への再配布（ネットへのアップロードを含む）は禁止する。
試験実施	実施する

科目名	社会調査法(再)【月3水3】(FIV4C110)
英文科目名	Social Research Methods
担当教員名	大田靖(おおたやすし)
対象学年	1年
開講学期	秋2
曜日時限	月曜日 3時限 / 水曜日 3時限
対象クラス	社会情報学科(～16)
単位数	2.0
授業形態	講義

回数	授業内容
1回	社会調査の意義と用途について解説する。
2回	社会調査の歴史について解説する。
3回	調査倫理について解説する。
4回	各種の調査法と実施の方法について解説する。
5回	調査の企画と調査票のデザインについて解説する。
6回	データ獲得法(母集団と標本および標本抽出法)について解説する。
7回	分析の方法、質的調査と量的調査について解説する。さらに、調査結果のまとめ方について解説する。
8回	小テストとその解説を実施する。
9回	実際の調査例(1)として、国税庁調査等の公的統計、世論調査、学術調査、動向調査の具体例について解説する。
10回	実際の調査例(2)として、マーケティングリサーチ、Web調査の具体例と特徴について解説する。
11回	統計処理の基礎(1)として、集団の特徴の把握、データの要約と表現の仕方について解説する。
12回	統計処理の基礎(2)として、変量間の関係把握の方法について解説する。
13回	統計処理の基礎(3)として、標本と推定について解説する。
14回	統計処理の基礎(4)として、判断の根拠と検定の考え(1)について解説する。
15回	小テスト及びその後フィードバックを行う。

回数	準備学習
1回	社会調査入門の内容をよく復習しておくこと。(標準学習時間60分)
2回	インターネット等で社会調査について調べておくこと。(標準学習時間60分)
3回	社会調査を行う際の問題点について調べておくこと。(標準学習時間60分)
4回	社会調査を実施する際にどのような方法があるか調べておくこと。(標準学習時間60分)
5回	身近にあるアンケート等の調査票を探し、その内容について調べておくこと。(標準学習時間90分)
6回	母集団と標本の違いを明らかにしておくこと。(標準予習時間90分)
7回	「データ解析基礎」「情報リテラシー」等で学んだ当部分について、よく復習しておくこと。さらに、調査結果がどのようにまとめられているかをインターネット等で調べておくこと。(標準学習時間120分)
8回	第1回から第7回までの内容をよく理解し整理しておくこと。(標準学習時間120分)
9回	実際に行われている社会調査をインターネット等で調べておくこと。(標準学習時間90分)
10回	特に、企業などの経営分析に関して、Web等で行われている社会調査の例をいくつか調べておくこと。(標準学習時間120分)
11回	「データ解析基礎」「情報リテラシー」等で学んだ該当部分について、よく復習しておくこと。(標準学習時間90分)
12回	「データ解析基礎」「情報リテラシー」等で学んだ該当部分について、よく復習しておくこと。(標準学習時間90分)
13回	「データ解析基礎」で学んだ該当部分について、よく復習しておくこと。(標準学習時間90分)
14回	「データ解析基礎」で学んだ該当部分について、よく復習しておくこと。(標準学習時間90分)
15回	1回～14回までの内容をよく理解し整理しておくこと。(標準学習時間180分)

講義目的	社会調査とは何か?どのようなことができ、どのような学びが必要か?など、社会調査全体を鳥瞰し、社会調査の意義や目的を理解することを目的とする。 はじめに、社会調査の意義、歴史、類型、調査倫理、官庁統計などの各種調査やマーケティングなどでの利用事例を取り上げ、社会調査全般にわたって学習する。その後、資料やデータの収集から分析までの諸過程に関する基礎的事項にも触れ、標本調査の考え方を基に、データの要約と関係の把握(記述統計)や推定・検定などのデータ処理方法(推測統計)についても、その概要と考え方を学習する。
------	--

	。(社会情報学科の学位授与方針項目 A、F にもっとも強く関与、項目 C に強く関与する。)
達成目標	社会調査の基本的概念を習得すること 社会調査の一連の過程を理解し、正しい調査票が作れるようになること データの要約と推定・検定について理解し、目的に応じたデータ処理ができるようになること
キーワード	社会調査、調査倫理、標本調査、データ処理、推定・検定
成績評価（合格基準60	課題提出20%、小テスト30%、最終評価試験 50% によって成績を評価し、総計で60%以上を合格とする。
関連科目	データ解析基礎、情報リテラシー、社会調査入門
教科書	利用しない。プリント等を授業時に適宜配布する。
参考書	講義中に適宜紹介する。
連絡先	A1号館8階 大田研究室（yota@mgt.ous.ac.jp）
注意・備考	・「社会調査士」認定科目である。
試験実施	実施しない

科目名	情報と社会(再)【月3水3】(FIV4C120)
英文科目名	Information and Society
担当教員名	村松潤一(むらまつじゅんいち)
対象学年	1年
開講学期	秋2
曜日時限	月曜日 3時限 / 水曜日 3時限
対象クラス	社会情報学科(～16)
単位数	2.0
授業形態	講義

回数	授業内容
1回	オリエンテーション(授業の狙いと受け方について説明する。サービス社会システムとは何かを説明する。)
2回	モノ、情報、サービスについて説明する。
3回	モノと工業社会の関係について説明する。
4回	工業社会の論理について説明する。
5回	モノの豊かさと心の豊かさについて説明する。
6回	主として、脱工業化と脱産業化について説明する。
7回	主として、情報社会とサービス社会について説明する。
8回	新しいサービス概念(1)-純粋サービスについて説明する。
9回	新しいサービス概念(2)-与え手(提供者)と受け手(受容者)の関係について説明する。
10回	新しいサービス概念(3)-日本の特徴について説明する。
11回	サービス社会の論理(1)-市場原理、消費者主権について説明する。
12回	サービス社会の論理(2)-利己主義、利他主義、利他的利己主義について説明する。
13回	サービス社会における企業システム(1)-短期主義と長期主義について説明する。
14回	サービス社会における企業システム(2)-創造と統合について説明する。
15回	サービス社会の今後の展望について説明する。
16回	最終評価試験を実施する。試験終了後、試験問題について解説を行い、フィードバックする。

回数	準備学習
1回	事前に、サービス、情報、社会、システムとは何かを具体的にイメージしておくこと。(標準学習時間90分)
2回	モノ、情報、サービスにおける相違点と共通点について考えてくること。(標準予習時間90分)
3回	モノの視点から産業構造について考えてくること。(標準予習時間90分)
4回	モノを軸とした社会は、どのようなが原理が働いていたか考えてくること。(標準予習時間90分)
5回	モノと心はどのような関係にあるか考えてくること。(標準予習時間90分)
6回	脱工業化、脱産業化、情報化、サービス化の違いについて考えてくること。(標準予習時間90分)
7回	「脱産業化、情報化、サービス化」の共通点について考えてくること。(標準予習時間90分)
8回	モノ化しない純粋なサービスとは何かについて考えてくること。(標準予習時間90分)
9回	サービスの与え手(提供者)と受け手(受容者)はどのような関係にあるか考えて来ること。(標準予習時間90分)
10回	サービスの日本的な特徴について考えてくること。(標準予習時間90分)
11回	市場原理、消費者主権とは何かについて考えてくること。(標準予習時間90分)
12回	利己主義、利他主義、利他的利己主義とは何かについて考えてくること。(標準予習時間90分)
13回	
14回	サービス社会において創造と統合がどのように為されるか考えてくること。(標準予習時間90分)
15回	サービス社会に求められるヒトとは何かについて考えてくること。(標準予習時間90分)
16回	1回から15回までの内容を良く理解しておくこと。(標準予習時間90分)

講義目的	新しいサービス概念にもとづいたサービス社会とは何かについて明らかにする。(社会情報科の学位授与方針項目Cにもっとも強く関与、項目Bに強く関与する)
達成目標	学生諸君がこれから深く関わっていくサービス社会に対する理解を深め、新たな行動を起こすことの出来る能力の育成を図るものとする。
キーワード	サービス、社会、システム、プロセス
成績評価(合格基準60)	最終評価試験100%により評価する。
関連科目	サービス経営
教科書	使用しない。
参考書	適宜、指示する。

連絡先	A1号館7階 村松潤一研究室 086 - 256 - 9845 jmura@mgt.ous.ac.jp オフィスアワーについてはmylogを参照のこと
注意・備考	講義資料は、毎回、講義開始時に配布する。なお、特別な事情がない限り、後日の配布には応じない。講義中の録音／録画／撮影は原則認めない。特別な理由がある場合、事前に相談すること。課題（レポートや小テスト）や試験に対するフィードバックとして、講義中および最終試験終了後に解説を行うこととする。
試験実施	実施する

科目名	言語文化情報解析(再)【月3水3】(FIV4C210)
英文科目名	Information Analysis of Language and Culture
担当教員名	西野雅二* (にしのみさじ*)
対象学年	2年
開講学期	秋2
曜日時限	月曜日 3時限 / 水曜日 3時限
対象クラス	社会情報学科(～16)
単位数	2.0
授業形態	講義

回数	授業内容
1回	イントロダクション。「メモ帳」によるファイルの作成と保存を説明する。
2回	国際事情理解(1) テキストファイルと欧米言語。ドイツ語のウムラウトなど、英語には無い文字を、それらが使用できない環境ではどのように表現するのか説明する。
3回	国際事情理解(2) ワードプロソフトでの欧米言語。ドイツ語のウムラウトなど、英語には無い文字をワードプロソフトではどのように処理するのか説明する。
4回	国際事情理解(3) ブラウザでの欧米言語。ドイツ語のウムラウトなど、英語には無い文字をブラウザで表示できるようにはどのようにしたらよいのか説明する。
5回	国際事情理解(4) ドイツ語動詞。次回以降の練習問題のために、ドイツ語の動詞の人称変化について説明する。
6回	JavaScriptでの語学練習問題と言語理解(1)。htmlファイルで問題が1問だけの練習問題を作成する。
7回	JavaScriptでの語学練習問題と言語理解(2)。htmlファイルで複数の問題を採点する練習問題を作成する。
8回	JavaScriptでの語学練習問題と言語理解(3)。htmlファイルでの練習問題により採点結果を表示できるプログラムを作成する。
9回	CGIでの語学練習問題と言語理解(1)。CGIでの練習問題の採点をするhtmlファイルを作成する。
10回	CGIでの語学練習問題と言語理解(2)。前回採点に用いたCGIプログラムを解説する。
11回	C言語での文学作品理解(1)。C言語でのプログラム作成を説明する。
12回	C言語での文学作品理解(2)。C言語での繰り返し処理について説明する。
13回	C言語での文学作品理解(3)。C言語でのファイルの読み書きについて説明する。
14回	C言語での文学作品理解(4)。作品に出現する単語数をカウントする方法について説明する。
15回	多言語による文書。まとめとして、テキストファイル、htmlファイル、ワープロファイル等により多言語が混在するファイルの作成について説明する。

回数	準備学習
1回	パソコンの操作、特にファイル保存の場合の注意事項を確認しておくこと。(標準学習時間60分)
2回	メモ帳におけるファイルの保存の仕方を復習しておくこと。テキストファイルで表示できない欧文文字をどのように扱うのか調べておくこと。(標準学習時間120分)
3回	テキストファイルでの欧文特殊文字の処理の仕方を復習しておくこと。ワードプロソフトで特殊な欧文文字をどのように入力するのか調べておくこと。(標準学習時間120分)
4回	ワードプロソフトでの欧文特殊文字の処理の仕方を復習しておくこと。ブラウザで特殊な欧文文字をきちんと表示できるようにするにはどうするか調べておくこと。(標準学習時間120分)
5回	ブラウザでの欧文特殊文字の処理の仕方を復習しておくこと。以後、簡単なドイツ語を用いて講義を進めていくので、まずはドイツ語の動詞の変化について調べておくこと。(標準学習時間120分)
6回	ドイツ語動詞の人称変化を復習しておくこと。htmlファイルの作り方について調べておくこと。(標準学習時間120分)
7回	htmlファイルの作り方を復習しておくこと。JavaScriptとはどのようなものか調べておくこと。(標準学習時間120分)
8回	これまでのまとめをするので、特に、前々回および前回の復習をしっかりしておくこと。(標準学習時間120分)
9回	htmlファイルの作り方を復習しておくこと。CGIとはどのようなものか調べておくこと。(標準学習時間120分)
10回	ドイツ語練習問題がどのようにして採点されたのか、復習しておくこと。CGIの利用について考えておくこと。(標準学習時間120分)
11回	CGIの採点プログラムがどのようなものであったか、復習しておくこと。C言語でのプログラミング入門について調べておくこと。(標準学習時間120分)

1 2 回	C言語でのプログラムの作り方を復習しておくこと。C言語での繰り返し処理について調べておくこと。（標準学習時間120分）
1 3 回	繰り返し処理について復習しておくこと。C言語でのファイルの読み書きについて調べておくこと。（標準学習時間120分）
1 4 回	ファイルの読み書きについて復習しておくこと。C言語でのプログラミング全般について調べておくこと。（標準学習時間120分）
1 5 回	これまでの全般について復習しておくこと。各種ソフトやブラウザなどでの欧米特殊文字の入力、表示等について再確認しておくこと。（標準学習時間120分）

講義目的	英語、ドイツ語などの欧米言語による情報の処理を行う。すなわち、ここではこれらの言語による報道文や文学作品を取り扱いつつ、国際事情の理解にまでつなげていく。さらに、html、C言語によるプログラミングにより、これらの語学練習問題など言語情報の処理について理解を深める。（社会情報学科の学位授与方針項目C、Fにもっとも強く関与、項目Bに強く関与する）
達成目標	グローバル化した現代社会における異文化コミュニケーションの手段としての「言語情報」の処理に関する知識を身につける。（B） 「言語情報の処理」に関する理解を深め、国際事情の理解につなげる。（C） さまざまな資格取得により、各自の将来の進路に対する展望が見いだせるようにする。（F） *（ ）内は社会情報学科の「学位授与の方針」の対応する項目（学科のホームページ参照）
キーワード	ドイツ語、JavaScript、html、C言語、国際事情
成績評価（合格基準60	小テスト（30%）および最終評価試験（70%）による。
関連科目	ドイツ語I、ドイツ語IIを履修済みであることが望ましい。
教科書	適宜、プリントを配布する。
参考書	適宜、指示する。
連絡先	
注意・備考	実務士資格「情報処理士」「上級情報処理士」の認定科目である。
試験実施	実施する

科目名	経済情報化論【月3水3】(FIV4C310)
英文科目名	Analysis of Informational Economy
担当教員名	水谷直樹(みずたになおき)
対象学年	3年
開講学期	秋2
曜日時限	月曜日 3時限 / 水曜日 3時限
対象クラス	社会情報学科
単位数	2.0
授業形態	講義

回数	授業内容
1回	イントロダクションとして、本講義全体を概説する。
2回	不確かな状況のもとで行われる意思決定に関して、人々の行動に合理的な説明を与える意思決定の理論について概説する。
3回	不確かな状況のもとで幾つかの代替案の中から最適なものを選ぶ際の決定基準について、代表的なものを解説する。
4回	人々の意思決定を理解する道具として、期待効用仮説を解説する。意思決定の結果として得られる利得が確率的である場合の利得評価について学ぶ。
5回	不確実性下の意思決定を期待効用仮説にもとづいて説明する場合に、グラフを活用する方法について説明する。
6回	期待効用仮説によって種々の意思決定が説明できることを示す。保険が購入される理由、ビジネスの多角化が行われる理由などを期待効用仮説を用いて説明する。
7回	リスクが取引可能であることを示し、リスクの引き受けにおいて編み出された手法であるシンジケートとプーリングについて説明する。
8回	情報の非対称性について解説する。売り手と買い手との間で保有する情報量に大きな差がある場合の市場への影響について説明する。
9回	情報の非対称性が存在することによって生じる種々の問題を取り上げて説明する。
10回	情報の非対称性によって生じる種々の問題を解決する方策について解説する。
11回	保険を事例として、情報の非対称性の存在がもたらす弊害と、その状況への対処方法について説明する。
12回	商品あるいはサービスの販売において、情報が非対称である場合に採用される戦略としての価格差別について解説する。
13回	意思決定理論としてのプロスペクト理論について概説する。
14回	プロスペクト理論の着眼点である人間の行動特性について説明する。
15回	全体のまとめを行うとともに、状況に応じて理解を深めるために適宜復習を行う。

回数	準備学習
1回	シラバスを確認するとともに、経済原論のうちミクロ経済学に登場する「個人の効用」について復習しておくこと。(標準学習時間1.5時間)
2回	自分が携帯電話あるいはスマートフォンを購入した際に、多くの機種から現在保有する機種を選んだ理由を説明できるようにしておくこと。(標準学習時間1時間)
3回	前回の講義内容を復習しておくこと。(標準学習時間1.5時間)
4回	経済原論のうちミクロ経済学で学んだ個人の効用について復習しておくこと。(標準学習時間1.5時間)
5回	経済原論のうちミクロ経済学で学んだ効用関数の特性について復習しておくこと。(標準学習時間1.5時間)
6回	火災保険等の保険に加入する際、自分はいくらまでなら保険料を払うか考え、その理由を明確に示さない。(標準学習時間1時間)
7回	起きるかどうかわからない事故を対象に保険金を支払う保険会社のビジネスを成り立たせるための工夫について考察すること。(標準学習時間1時間)
8回	商品が高度化したスマートフォンなどで、売り手と買い手の間で商品に関して保有する情報量に大きな差が生じていることを確かめること。(標準学習時間1時間)
9回	売り手と買い手の間で商品に関して保有する情報量に差が生じている場合に、どのような問題が起きるのか推測しておくこと。(標準学習時間1.5時間)
10回	前回の授業内容を復習し、情報の非対称性について復習すること。(標準学習時間1.5時間)
11回	保険に加入する場合と加入しない場合とで、行動に変化が起きる事例について、その理由を考察せよ。(標準学習時間1.5時間)
12回	同一の商品が、販売相手や時間等の違いによって異なる価格で販売されている例について調べておくこと。(標準学習時間1.5時間)
13回	子供の頃に1万円を受け取る嬉しさと現在1万円を受取る嬉しさの違いについて論じることができるようしておくこと。(標準学習時間1.5時間)

1 4 回	当選金の期待値が低いことを知っているのに、人々が宝くじを購入する理由について考察しておくこと。（標準学習時間1.5時間）
1 5 回	これまでに学んだ内容を振り返っておくこと。（標準学習時間1.5時間）

講義目的	経済取引を行う主体間で保有する情報量に格差が存在する場合、円滑な経済取引が阻害されることがある。このような情報の非対称性が存在する状況は、程度の差はあるものの、どのような経済取引においても起きるものである。本講義では、まず不確実性下の意思決定について、経済学における説明手法について学ぶ。そして、情報の非対称性が存在する状況であっても効率的な経済取引がなされるための方策について理解する。（社会情報学科の学位授与方針項目 C および F にもっとも強く関与、項目 B に強く関与する。）
達成目標	個人の意思決定について、そして意思決定において重要な役割を果たす情報について、ミクロ経済学における扱い方を理解する。情報の非対称性について理解し、情報の非対称性が存在するために起きる非効率を理解するとともに、対処方法について学ぶ。
キーワード	意思決定理論、情報の非対称性
成績評価（合格基準60	授業中での課題提出(30%)および適宜実施する小テスト(70%)により成績を評価し、総計で 60% 以上を合格とする。
関連科目	経済原論
教科書	配布する講義資料による。
参考書	授業中に紹介する。
連絡先	水谷研究室 A1号館 8 階（mizutani@mgt.ous.ac.jp） オフィスアワーは mylog 掲載のオフィスアワーを参照のこと。
注意・備考	課題を何回か課し、そのフィードバックは次の授業にて行う。
試験実施	実施しない

科目名	文化記号論【月3水3】(FIV4C320)
英文科目名	Cultural Semiotics
担当教員名	中島聰(なかしまさとし)
対象学年	3年
開講学期	秋2
曜日時限	月曜日 3時限 / 水曜日 3時限
対象クラス	社会情報学科
単位数	2.0
授業形態	講義

回数	授業内容
1回	文化記号論への導入 ―記号の表現形態と意味― 序論として、1)文化記号論の基礎、 2)文化記号論のさまざまな分野、 3)文化資料解析の手法 について説明する。
2回	記号論史 ―前史からソシュールへ― (1)記号というものが歴史の中でどんな取り扱いをされてきたかを解説する。 (2)現在の記号論の問題点を説明する。
3回	記号の基礎理論 ―定義とさまざまな分類・種類― (1)さまざまな記号の定義や意味を説明する。 (2)記号の分類・種類を、多くの事例をもとにして調べて、記号のはたらき・特徴について説明する。
4回	コミュニケーション論 ―モデル、コード― 記号の中心的機能であるコミュニケーションの種類と、しくみ(過程・要因)をさまざまなモデルについて説明する。
5回	パースの記号の三分説を説明する。 1)パースの記号過程の三要因と、記号の代表的な事例である図像・指標・象徴について、多くの事例をもとに、解説する。 2)モリスの記号論の三区分である構文論・意味論・語用論の概要を説明する。
6回	意味論と語用論を学習する。 1)歴史的に、さまざまな視点から意味が捉えられてきたことを解説する。【意味論】 2)具体的状況での言語使用を通して判る記号の豊かな働きを説明する。【語用論】
7回	構文論を学習する。 論理的な構文の基礎理論を理解し、具体的に演習をすることで、自然言語の記号配列やその真偽計算法について説明する。【構文論】
8回	記号論の基礎理論についての概略を説明する。 またここまでの講義内容について中間的な評価をするための試験を実施する。
9回	表象文化の資料検索・収集・処理とプレゼンテーション技法を説明する。 具体的な事例として、芸術的表象文化である日本古典芸能の能「井筒」を取り挙げて、記号資料の収集・処理・解析の手法について説明する。
10回	言語的記号 ―人名― 1)人名は個人・家族・地域や国への帰属についての考え方と深く結び付いていることを、多くの事例をもとにして、説明する。 2)命名をめぐる慣習や制度を理解することで、その背景にある意味体系、つまり文化的・社会的価値観を解説する。 3)言語記号に関係した課題で受講者がプレゼンテーションをする。
11回	非言語的記号 1)言語記号に比べて、非言語記号は多種多様で、その使用範囲やはたらき・目的も著しく広いことを、多くの事例をもとにして、また実際に表現しながら、説明する。 2)非言語記号に関係した課題で受講者がプレゼンテーションをする。
12回	科学・技術記号 1)科学・技術記号は各々規約に基づいた特殊な独自の記号の表現形式をもっている。それはそれぞれの学問・技術の固有の進歩・発達により形作られたものであることを、各学問分野の事例をもとにして、説明する。 2)科学・技術記号に関係した課題で受講者がプレゼンテーションをする。
13回	社会的・経済的記号 1)多くの人間のいろいろな関係を集約した体系である社会、その社会の中での個人の位置・状況・役割を示す社会的・経済的記号。これらを構造化・システム化し、規約化したさまざまな社会的・経済的記号の表現の働きを、たくさんの事例をもとにして、説明する。 2)社会的・経済的記号に関係した課題で受講者がプレゼンテーションをする。
14回	文化的記号

	1) 習俗に関わる前知識的・思想的な記号として、占い・占術を紹介し、そのいろいろな種類を説明する。また特に命占のなかで九星気学を取り扱い、実際の技法を学びながら、東洋文化の思想的背景・世界観を解説する。 2) 文化的記号に関係した課題で受講者がプレゼンテーションをする。
15回	宗教的記号 1) 宗教、特に真言密教における記号論を、そのいろいろな記号の形・種類・機能・儀具を学びながら、宗教と記号の本質的な関わりについて説明する。 2) 宗教的記号に関係した課題で受講者がプレゼンテーションをする。
16回	1回から15回までの総括を説明し、最終評価試験を実施する。

回数	準備学習
1回	記号論(記号学)の定義・系統・分野などについて辞典・辞書などで調べておくこと。(標準学習時間120分)
2回	記号論関係の図書から、西洋の歴史における記号の捉え方・分類について概略を把握しておくこと。(標準学習時間120分)
3回	記号論関係の図書から、記号の意味・機能・種類・収集処理方法について調べておくこと。(標準学習時間120分)
4回	心理学的、社会的、情報理論的な視点からのコミュニケーション=モデルを各ターずつ調べておくこと。(標準学習時間120分)
5回	パースの類像(アイコン)・指標(インデックス)・象徴(シンボル)の内容と種類について、インターネットで調べておくこと。(標準学習時間120分)
6回	モリスの「記号理論の基礎」を読み、意味論と語用論の内容を理解しておくこと。(標準学習時間120分)
7回	モリスの「記号理論の基礎」を読み、構文論の内容を理解しておくこと。(標準学習時間120分)
8回	ここまでの授業内容を復習しておくこと。(標準学習時間180分)
9回	記号論関係の図書から、記号の各種分野の資料の分類・検索・処理方法についての予備知識をもっておくこと。能「井筒」について、事前にインターネット、関連のDVDなどで直接触れておくこと。(標準学習時間120分)
10回	漢字圏と英語圏での人名の構成・命名法・珍名・希名・近年日本で多く名づけられる男女名を調べておくこと。(標準学習時間120分)
11回	身振り言語(ゼスチャー)・身体接触・空間など、非言語的記号の具体例を調べ表現方法を確認しておくこと。(標準学習時間120分)
12回	数学・化学・生物学・物理学単位・建築学・機械学・天気気象・情報などさまざまな科学・技術記号の内容を調べておくこと。(標準学習時間120分)
13回	家紋・紋章・ブランドマーク・ロゴ・交通標識・印鑑等の社会的・経済的な記号形態を調べておくこと。(標準学習時間120分)
14回	占星術・手相・姓名判断・夢占い・易学・九星気学など占いについて調べておくこと。(標準学習時間120分)
15回	日本真言密宗の宗教的な印契・真言陀羅尼・儀具・曼荼羅図等の記号内容とその意味するところを調べておくこと。(標準学習時間120分)
16回	1回から15回までの授業内容をよく理解し整理しておくこと。(標準学習時間180分)

講義目的	表象とは、知覚・体験・記憶した内容を再び心の内に表わす働きやそれにより思い浮かべる像をいう。その代表は言語とイメージだが、表象による意味の生成は現代の文化現象の基底を成している。 この講義では、表象作用の具体化であるさまざまな意味の成立や表象の形態を、多彩な資料をもとにして、解析する。こうした新たな記号論的な観点からの文化現象への広く深い理解を目的としている。(社会情報学科の学位授与方針項目Cにもっとも強く関与、項目Bに強く関与する)
達成目標	多様な文化現象の基礎である記号の多様な意味や豊かな形態を知ることができる。 さまざまな文化領域内の記号解析をもとにして、文化の創造・生成ができる。
キーワード	表象 文化 記号 表現・形態 意味 象徴
成績評価(合格基準60%)	中間試験(30%)、プレゼンテーション(20%)、最終評価試験(50%)により成績を評価し、総計で得点率60%以上を合格とする。
関連科目	なし。
教科書	教科書販売はしない。 下記のテキストを、無料で初回の講義時に配布する。 文化記号学/中島 聡/丸善 K
参考書	教科書巻末に掲載した参考文献を参照のこと。
連絡先	A-1号館8F 833号室 nakashima@mgt.ous.ac.jp
注意・備考	試験は最終評価試験期間中に行い、試験形態は筆記試験とする。 この科目は、岡山理科大学教員免許状〔中学校一種:社会、高等学校一種:公民〕取得に関わる教

	科に関する科目である。
試験実施	実施する

科目名	地理学(再)【月4月5】(FIV4D110)
英文科目名	Geography
担当教員名	神田竜也* (かんだたつや*)
対象学年	1年
開講学期	秋2
曜日時限	月曜日 4時限 / 月曜日 5時限
対象クラス	社会情報学科(～16)
単位数	2.0
授業形態	講義

回数	授業内容
1回	ガイダンス、「地理学」とはどんな学問か、について考える。
2回	さまざまな地図について講義する。
3回	地形図の基礎について講義する。
4回	扇状地のなりたちと土地利用について講義する。
5回	平野の地形と災害について講義する。
6回	人口理論と人口政策について講義する。
7回	日本の人口動態について講義する。
8回	都市の誕生・発達について講義する。
9回	都市計画へのアプローチについて講義する。
10回	都市・交通問題について講義する。
11回	村落の形態・機能・構造について講義する。
12回	村落の衰退と新たな潮流について講義する。
13回	農業の現状と農業地理学の課題について講義する。
14回	グローバル化に対抗する日本の農業について講義する。
15回	農業と環境について講義する。
16回	最終評価試験

回数	準備学習
1回	ガイダンスのレジュメにより、授業内容を確認し、地理学の学問としての性格を説明できるように復習すること。また、図書館などで2、3の参考文献を自分の目で見ること(標準学習時間120分)。
2回	地図の分類と主題図の表現方法について、説明ができるように復習すること(標準学習時間120分)。
3回	地形図の基礎(縮尺、等高線、谷と尾根、地図記号)が説明できるように復習し、地形図の読図の精度を高めること(標準学習時間120分)。
4回	扇状地のなりたちと土地利用の特色を、地形図上および模式的に図示して説明できるように復習し、前回に引き続き、地形図の読図の精度を高めること(標準学習時間120分)。
5回	日本の河川の特徴、河川がつくる地形、地形と災害との関係を説明できるように復習すること。また、第6回授業までに、人口問題に関する書籍や新聞記事等を読んで、次回学習内容の予習を行うこと(標準学習時間120分)。
6回	人口理論の流れ、世界の人口構成を説明できるように復習すること(標準学習時間120分)。
7回	日本の人口動態、人口問題を説明できるように復習すること(標準学習時間120分)。
8回	都市の起源と発達を、具体的な都市をあげながら説明できるように復習すること(標準学習時間120分)。
9回	都市計画の目的、イギリスの田園都市、日本の都市計画史を説明できるように復習すること(標準学習時間120分)。
10回	公共交通問題を説明できるように復習すること(標準学習時間120分)。
11回	村落の形態・機能・構造を説明できるように復習すること(標準学習時間120分)。
12回	村落の衰退過程と、新たな潮流としての地域づくり、田園回帰などを説明できるように復習すること。第13回授業までに、農業問題に関する書籍や新聞記事を読んで、次回学習内容の予習を行うこと(標準学習時間120分)。
13回	日本農業の現状を説明できるように復習すること(標準学習時間120分)。
14回	農産物の輸入自由化と、その国内産地の影響を説明できるように復習すること(標準学習時間120分)。
15回	農業の環境への影響とその地域対応を説明できるように復習すること(標準学習時間120分)。
16回	これまでの授業内容を説明できるようにすること(標準学習時間180分)。

講義目的	地理学では、どのような地域的事象を明らかにしてきたのか、その具体的な成果や諸課題を理解することを目的とする。(経営学科の学位授与方針項目Fにもっとも強く関与する。社会情報学科の学位授与方針項目Bに最も強く関与し、Cに強く関与する)
------	---

達成目標	地理学、地誌学の諸課題を取り上げ、その見方・考え方を身につける。統計類を読み解く技能を修得する、ことを目標とする。
キーワード	人文地理学、地図、統計、土地利用、地域構造
成績評価（合格基準60	最終評価試験60%、提出物（授業中の実習課題、ミニッツペーパーなどを含む）40%で評価し、それらの結果を総合して60%以上で合格とする。
関連科目	
教科書	なし。ノート式のプリントを配布する。
参考書	授業中に指示する。
連絡先	
注意・備考	止むを得ない事情で欠席する場合は、正当な事由を明記し、これを証する者が記名・押印した文書を事前に提出すること。講義資料は講義開始時に配布するものとMomo-campus で配布するものがある。なお、特別な事情がない限り、前者は、後日の配布、後者は、ダウンロード期間終了後の配布には応じない。講義中の録音/録画/撮影は原則認めない。特別の理由ある場合事前に相談すること。講義中に課した提出課題に関しては、適切な単元においてフィードバックを行う。
試験実施	実施する

科目名	情報メディア(再)【月4木2】(FIV4D120)
英文科目名	Information Media
担当教員名	八木一郎(やぎいちろう)
対象学年	1年
開講学期	秋2
曜日時限	月曜日 4時限 / 木曜日 2時限
対象クラス	社会情報学科(～16)
単位数	2.0
授業形態	講義

回数	授業内容
1回	イントロダクション。講義の進め方を説明する。メディアとは何かについて説明する。
2回	古代文明の中で、文字がどのように誕生したのか、その歴史と背景について学習する。
3回	アルファベットの誕生から古代ギリシャのホメロス、プラトンを通して、文字メディアの特性を学ぶ。
4回	「声の文化」と「文字の文化」。それぞれの特性について学習する。
5回	図書館と写本の歴史をたどり、社会的な背景を学習する。
6回	書写材料の歴史を学び、特に中世欧州で写本の果たした役割について学習する。
7回	書写材料の中でも、今日につながる紙がどう広まったか、その伝播の歴史と印刷技術の誕生について学習する。
8回	印刷術が実用化された社会背景やグーテンベルクの足跡を学習する。
9回	活字本が世に出て社会がどう変化したか。書物が人間の知識や思考にどのような影響をもたらしたかについて学習する。
10回	新聞の萌芽期の歴史とその社会的な背景について学習する。
11回	写真や映画など視覚メディアが登場した歴史と社会への影響について学習する。
12回	電信電話から無線通信、ラジオの登場にかけての電気メディアの歴史について学習する。
13回	社会の大衆化が進み、マスメディアが発展していく歴史について学習する。
14回	20世紀に起きた2度にわたる世界大戦とその後の冷戦。戦中戦後の歴史とマスメディアが果たした役割について学習する。
15回	ネット社会の特性をかつてのグーテンベルク革命との比較対象を通じて学習する。
16回	1回から15回までを総括し、最終評価試験を実施する。

回数	準備学習
1回	授業内容の確認と復習。新聞やテレビで日々のニュースに接しておくこと。第2回講義までに参考書などでメディアの歴史について予習すること。(標準学習時間60分)
2回	文字というメディアの歴史を復習し、古代ギリシャの哲学者たちについて予習しておくこと。(標準学習時間120分)
3回	文字メディアの発展と人々の思考に及ぼした影響について復習し、声と文字のメディアとしての比較特性を予習しておくこと。(標準学習時間120分)
4回	声と文字。それぞれのメディアの特性や文化の違いを復習し、ギリシャ・ローマの歴史について調べておくこと。(標準学習時間120分)
5回	図書館と写本の社会における役割や歴史的な意義について復習し、古代中国と中世ヨーロッパの歴史について調べておくこと。(標準学習時間120分)
6回	書写材料の変遷について復習し、古代から中世にかけての世界の歴史の概要について調べておくこと。(標準学習時間120分)
7回	紙の伝播と印刷について、歴史と社会的な背景について復習し、グーテンベルクについて調べておくこと。(標準学習時間120分)
8回	活版印刷が発明され、西欧に広がった歴史と背景について復習し、中世ヨーロッパの歴史について調べておくこと。(標準学習時間120分)
9回	書物の出現による社会や人々の思考形式への影響について復習し、中世から近世の欧州の歴史について調べておくこと。(標準学習時間120分)
10回	新聞やニュース出版が誕生し、西欧社会にどう広まっていったのかを復習し、ルネサンス以降の西欧史について調べておくこと。(標準学習時間120分)
11回	視覚メディアが科学技術の発展とともに進化した歴史を復習し、18世紀以降の近世の世界史について調べておくこと。(標準学習時間120分)
12回	近代国家の樹立と電気メディアのかかわりについて復習し、19世紀から20世紀にかけての社会の大きな変動期の歴史を調べておくこと。(標準学習時間120分)
13回	マスメディアがどう社会に浸透していくかについて復習し、20世紀の歴史、特に世界大戦の歴史について調べておくこと。
14回	テレビの登場やネット社会などメディアの動きを復習し、21世紀に向けての新しい情報環境について調べておくこと。(標準学習時間120分)

15回	新しいメディアが登場すること、人々の思考や世界観を大きく変えてきた歴史を復習すること。 (標準学習時間60分)
16回	これまでの講義内容を理解し、整理しておくこと。(標準学習時間(120分))

講義目的	情報を伝えるメディアの歴史を「文字」や「映像」の概念から俯瞰し、社会的な背景や人々の生活、文化との関わりなどを学ぶことで、情報社会の現状や課題を探る。さらにメディアとの接し方、情報の取捨選択の方法などについて習得する。(社会情報学科の学位授与方針項目B、Fに最も強く関与、項目Aに強く関与する)(経営学科の学位授与方針項目Bに最も強く関与する)
達成目標	メディアの特性を知り、リテラシー能力を身につける。新聞やテレビ、ネットなどと日常的に接し、日ごろから時事問題や政治、経済、社会など世の中の動きに興味・関心を持つ。
キーワード	文字メディア、活版印刷、映像メディア、ネット社会
成績評価(合格基準60)	最終評価試験100%により成績を評価し、総計で得点率60%以上を合格とする。
関連科目	マスメディア論、ジャーナリズム論、コミュニケーション
教科書	使用しない
参考書	メディアとコミュニケーションの文化史/伊藤明己/世界思想社：はじめてのメディア研究/浪田陽子・福間良明編/世界思想社
連絡先	A1号館6階 八木研究室
注意・備考	講義資料は講義時に配布する。後日の配布は特別の事情がない限り応じない。講義中の録音/録画/撮影は原則認めない。特別の理由がある場合には事前に相談すること。最終評価試験についてのフィードバックは、Momo-campusのフィードバック機能を用いて行う。
試験実施	実施する

科目名	データベース【月4水4】(FIV4D310)
英文科目名	Database
担当教員名	大田靖(おおたやすし)
対象学年	3年
開講学期	秋2
曜日時限	月曜日 4時限 / 水曜日 4時限
対象クラス	社会情報学科
単位数	2.0
授業形態	講義

回数	授業内容
1回	オリエンテーション、及びデータベースの持つべき機能および役割について学習する。
2回	関係データベースの基幹となるキーの概念と主キー、外部キーの役割を学習する。
3回	関係データベースの演算である射影、選択、結合について理解する。
4回	関係データベースの言語であるSQLについて説明する。さらにSELECT文の書き方を学習する。
5回	射影、選択、結合といった演算が、SELECT文でどのように表現されるかを理解する。
6回	小テストを行うので、第1回から第5回までの内容をよく理解し整理しておくこと。試験終了後に 出題内容について理解する。
7回	Accessを使ってテーブルの作成方法と主キーの設定方法について学習する。
8回	作成したテーブルのデータの並び替えなどの操作を学習する。
9回	テーブルを結合するリレーションシップの作成とクエリの作成方法について理解する。
10回	第6回授業から第9回授業までの一連の操作を練習課題により学習する。
11回	テーブルへのデータ入力画面の設計方法(フォーム)について学習する。
12回	クエリ演算による出力画面の設計方法(レポート)について学習する。
13回	第10回学習で用いた練習課題を使って、フォームとレポートの作成方法について学習する。
14回	Accessの組み込み関数を用いたクエリの作成方法について学習する。
15回	小テスト及びその後にフィードバックを行う。

回数	準備学習
1回	システム管理のデータベースで学習した内容を復習すること。(標準学習時間60分)
2回	関係データベースの特徴、及び主キーと外部キーの役割について理解しておくこと。(標準学習時間90分)
3回	射影、選択、結合の演算について理解しておくこと。(標準学習時間90分)
4回	SQLとSELECT文について簡単に調べておくこと。(標準学習時間90分)
5回	SELECT文の文法を復習しておくこと。(標準学習時間60分)
6回	これまでの講義内容をしっかりと復習すること。 (標準予習時間90分)
7回	Accessの起動および終了方法を確認しておくこと。(標準学習時間60分)
8回	テーブルについて復習しておくこと。(標準学習時間90分)
9回	主キーと外部キー等を復習しておくこと。(標準学習時間60分)
10回	第6回から第9回までの講義内容をしっかりと復習すること。(標準予習時間120分)
11回	フォームツールを利用したフォームの作成を予習しておくこと。(標準学習時間60分)
12回	レポートの作成方法を予習しておくこと。(標準学習時間90分)
13回	主キーの設定、リレーションシップおよびクエリの作成方法を復習しておくこと。(標準学習時間90分)
14回	クエリについて、よく復習しておくこと。(標準学習時間90分)
15回	1回～14回までの内容をよく理解し整理しておくこと。(標準学習時間180分)

講義目的	データベースの意義と理論、およびデータベースの有用性について理解させ、実際に目的に合ったデータベースを構築できる能力を養うことを目的とする。データファイルとデータベースについて概観したあと、データベースモデルの種類とその技術について学ぶ。特に、データベースの構築においてはリレーショナルモデルを取り上げ、そのモデルで重要な正規化とデータベース言語SQLの記述方法について、データベースソフトの実習を通して習得していく。またその実習においては、統計データベースを対象にし、ACCESSを用いて情報検索や情報管理の実際、データベースの制御・管理における具体的技術も体得していく。(社会情報学科の学位授与方針項目C、Fにもっとも強く関与、学位授与方針項目Bに強く関与する)
達成目標	データベースの意義と理論、およびデータベースの有用性について理解すること 目的に合ったデータベースを構築できる能力を養うこと

キーワード	関係データベース、SQL、ACCESS、クエリ作成
成績評価（合格基準60	課題提出 20%、小テスト20%、最終評価試験 60% によって成績を評価し、総計で60%以上を合格とする。
関連科目	システム管理
教科書	よくわかる Microsoft Access 2016 基礎 / 富士通エフ・オー・エム株式会社（FOM出版） / 978-4865102932
参考書	講義中に適宜紹介する。
連絡先	A1号館8階 大田研究室（yota@mgt.ous.ac.jp）
注意・備考	
試験実施	実施しない

科目名	遺跡遺物情報解析【月4木1】(FIV4D320)
英文科目名	Information Analysis of Sites and Artifacts
担当教員名	山形真理子(やまがたまりこ)
対象学年	3年
開講学期	秋2
曜日時限	月曜日 4時限 / 木曜日 1時限
対象クラス	社会情報学科
単位数	2.0
授業形態	講義

回数	授業内容
1回	イントロダクション、講義のねらいと進め方を説明する。
2回	アジア諸国の主要な考古遺跡の紹介と、時代区分の概説を行なう。
3回	アジアの原人と新人が残した遺跡と遺物について講義する。
4回	日本列島の旧石器文化を含む、アジアの更新世から完新世初期の石器文化について講義する。
5回	アジアにおける土器製作の開始と採集狩猟民の文化について講義する。
6回	中国・長江流域における稲作の始まりと日本・東南アジアへの稲の伝播について講義する。
7回	中国・雲南とベトナムの銅鼓、日本の銅鐸を比較しながらアジアの青銅器文化について考察する。
8回	アジアの鉄生産の開始と、古代における鉄製品の利用について講義する。その後、ここまでの講義内容について中間的な評価をするための試験を実施する。
9回	アジアの貴石製・ガラス製装身具の歴史について講義する。
10回	アジアの甕棺葬について、東南アジアと日本の遺跡を比較しながら講義する。
11回	アジアの古代瓦について、中国系瓦の変遷と広がりを中心に講義する。
12回	アジアの宗教建築遺跡について、アンコールとボロブドゥールを中心に講義する。
13回	アジアの都城遺跡について、中国・日本・東南アジアを比較しながら講義する。
14回	朱印船貿易と肥前磁器の関係について、東南アジアの日本町の考古学調査にもとづいて講義する。
15回	アジア諸国のパブリック・アーケオロジーの現状と課題について、考古遺跡の保護と活用の問題を中心に考察する。
16回	1回～15回までの総括を講義し、最終評価試験を実施する。

回数	準備学習
1回	授業内容の確認と復習を行なうこと 第2回目授業までに参考書などにより、旧石器時代・新石器時代・青銅器時代・鉄器時代といった考古学上の時代区分に関して予習を行なうこと(標準学習時間60分)
2回	授業で取り上げた遺跡について復習を行なうこと 第3回目授業までに参考書などにより、原人、新人といった人類進化に関する用語について予習を行なうこと(標準学習時間60分)
3回	ジャワ原人、フローレス原人、北京原人、港川人について復習を行なうこと 第4回目授業までに参考書などにより、日本の旧石器時代について予習を行なうこと(標準学習時間60分)
4回	日本の旧石器時代の遺跡と石器について復習を行なうこと 第5回目授業までに参考書などにより、日本の縄文時代について予習を行なうこと(標準学習時間60分)
5回	縄文時代の土器と、土器を利用した採集狩猟民の生活について復習する 第6回目授業までに参考書などにより、日本の稲作の始まりについて情報を集めること(標準学習時間60分)
6回	中国と日本における稲作の始まりについて比較しながら復習を行なうこと 第7回目授業までに参考書などにより、日本の弥生時代の青銅器について情報を集めること(標準学習時間60分)
7回	銅鼓と銅鐸の社会的役割について比較しながら復習を行なうこと 第8回目授業までに参考書などにより、日本古代の鉄器について情報を集めること(標準学習時間60分)
8回	アジアにおける鉄生産の開始について復習を行なうこと 第9回目授業までに参考書などにより、古代の貴石製・ガラス製の装身具について情報を集めること(標準学習時間60分)
9回	玉・瑪瑙・ガラスなどの材質、腕輪・耳飾り・ビーズなどの種類について復習を行なうこと 第10回目授業までに参考書などにより、弥生時代の甕棺葬について予習を行なうこと(標準学習時間60分)
10回	アジアにおける甕棺葬について復習を行うこと 第11回目授業までに参考書などにより、日本の屋根瓦について基本的な情報を集めること(標準学習時間60分)

1 1 回	アジアにおける中国系瓦の歴史について復習を行なうこと 第12回目授業までに参考書などにより、アンコール遺跡群とボロブドゥール遺跡について情報を集めること（標準学習時間60分）
1 2 回	アンコール遺跡群とボロブドゥール遺跡についてヒンドゥー教・仏教の両面から特徴をまとめること 第13回授業までに参考書などにより、日本の藤原京・平城京・平安京について基本的な情報を集めること（標準学習時間60分）
1 3 回	授業で取り上げたアジア各地の都城遺跡について復習を行なうこと 第14回の授業までに参考書などにより、肥前磁器について予習を行なうこと（標準学習時間60分）
1 4 回	東南アジアにおける日本町の考古学調査成果と、出土した肥前磁器について復習を行なうこと 第15回授業までに参考書などにより、パブリック/アーケオロジーとは何か、基本的情報を集めること（標準学習時間60分）
1 5 回	アジア各地でどのように遺跡が保護されて（あるいは、破壊されて）いるか、遺跡は市民社会のためにどのように活用されているか、情報を集めながらまとめること 1回～15回までの授業について内容を整理しておくこと（標準学習時間120分）
1 6 回	1回～15回までの内容を復習しよく理解すること（標準学習時間60分）

講義目的	本講義では日本を含むアジア、とくに東アジアと東南アジアの考古学について受講生に基本的知識を身につけてもらうことを第一の目的とする。どの地域の考古学にとっても共通して重要なテーマを取り上げることにより、日本とアジア諸国の考古学を比較する視点を養う。アジアの遺跡・遺物、発掘調査と考古学研究の現状、遺跡保護と市民との関わりなどについて学ぶことを通して、アジアの歴史と文化に対する理解を深める。（社会情報学科の学位授与方針項目Cにもっとも強く関与、項目Bに強く関与する）
達成目標	1. 日本を含むアジアの考古学研究が明らかにしてきた成果について基本的知識を身につける 2. 遺跡と遺物について知ることを通して、その土地独特の風土のなかで生きた人々の歴史と文化に関心を持てるようになる 3. 東アジア・東南アジアの考古学と日本の考古学を比較し、共通性と異質性を分析することができる 4. 現代社会の中で考古遺跡を活用する方法について考察することができる
キーワード	アジア 考古学 遺跡 遺物
成績評価（合格基準60	各回の授業のなかで行う小テスト30%、最終評価試験（最終試験）70%により成績を評価し、100点満点中60点以上を合格とする。
関連科目	
教科書	
参考書	西谷正編 / 『東アジア考古学辞典』 / 東京堂出版 / 2007年：田中琢、佐原真編集代表 / 『日本考古学事典』 / 三省堂 / 2011年：坂井隆・新田栄治・西村正雄 / 『東南アジアの考古学』 / 同成社 / 1998年：大貫静夫 / 『東北アジアの考古学』 / 同成社 / 1998年：小澤正人・西江清高・谷豊信 / 『中国の考古学』 / 同成社 / 1999年：韓国考古学会編、庄田慎矢、山本孝文訳 / 『概説韓国考古学』 / 同成社 / 2013年：堤隆 / 『ビジュアル版 旧石器時代ガイドブック』 / 新泉社 / 2008年：勅使河原彰著 / 『ビジュアル版 縄文時代ガイドブック』 / 新泉社 / 2013年：若狭徹著 / 『ビジュアル版 古墳時代ガイドブック』 / 新泉社 / 2013年：他の参考書については授業の中で紹介する。
連絡先	山形研究室 A1号館7階
注意・備考	(1) 講義資料は講義開始時に配付する。 (2) 小テストについては次の回の授業で返却し、フィードバックを行う。 (3) 講義中の録音 / 録画 / 撮影は他の受講者の妨げにならない限り自由とするが、他者への再配布（ネットへのアップロードを含む）は禁止する。
試験実施	実施する

科目名	経営組織(再)【火2金2】(FIV4G210)
英文科目名	Management organization
担当教員名	清野聡(せいのさとし)
対象学年	2年
開講学期	秋2
曜日時限	火曜日 2時限 / 金曜日 2時限
対象クラス	社会情報学科(～16)
単位数	2.0
授業形態	講義

回数	授業内容
1回	オリエンテーション。講義の進めを説明する。経営組織についての基本的な考え方を説明する。
2回	組織の定義・意思決定について説明する。
3回	組織均衡について説明する。
4回	組織理論の基本定理と組織の戦略的選択について説明する。
5回	資源依存と組織間関係及び個体群生態学モデルについて説明する。
6回	組織目標と組織有効性について説明する。
7回	組織構造と組織デザインについて説明する。
8回	組織デザインに影響を与える変数について説明する。
9回	組織文化について説明する。
10回	モチベーションについて説明する。
11回	マネジメント・コントロールについて説明する。
12回	コンフリクト・マネジメントについて説明する。
13回	組織の長期的適応と発展過程について説明する。
14回	組織学習と変革について説明する。
15回	組織の戦略的変革について説明する。
16回	1～15回までの総括を行い、最終評価試験を実施する。

回数	準備学習
1回	経営組織の基礎について復習しておくこと(標準学習時間90分)
2回	組織の定義・意思決定について復習しておくこと(標準学習時間90分)
3回	組織均衡について復習しておくこと(標準学習時間90分)
4回	組織理論の基本定理と組織の戦略的選択について復習しておくこと(標準学習時間90分)
5回	資源依存と組織間関係及び個体群生態学モデルについて復習しておくこと(標準学習時間90分)
6回	組織目標と組織有効性について復習しておくこと(標準学習時間90分)
7回	組織構造と組織デザインについて復習しておくこと(標準学習時間90分)
8回	組織デザインに影響を与える変数について復習しておくこと(標準学習時間90分)
9回	組織文化について復習しておくこと(標準学習時間90分)
10回	モチベーションについて復習しておくこと(標準学習時間90分)
11回	マネジメント・コントロールについて復習しておくこと(標準学習時間90分)
12回	コンフリクト・マネジメントについて復習しておくこと(標準学習時間90分)
13回	組織の長期的適応と発展過程について復習しておくこと(標準学習時間90分)
14回	組織学習と変革について復習しておくこと(標準学習時間90分)
15回	組織の戦略的変革について復習しておくこと(標準学習時間90分)
16回	1～15回までの内容をよく理解し、整理しておくこと(標準学習時間90分)

講義目的	現代の社会における企業経営は、組織の上に成り立っている。その規模の大小はなれども、個人のみの行動と組織行動は異なり、企業を組織の面から捉えることが重要となる。組織論は全ての企業活動の領域において欠くべからざるものであり、その基本的特質について理解しておくことで、経営学についての造形を深くすることでき、また将来の実務における組織の論理に則った業務遂行を可能にすることができる。(経営学科の学位授与方針項目Aにもっとも強く関与、項目Dに強く関与する)
達成目標	組織論について基礎知識を習得し、それに基づき組織内でどのような行動をとるべきかを論ずることができるようになることを目標とする。(経営学科の学位授与方針項目Aにもっとも強く関与、項目Dに強く関与する)
キーワード	組織、組織文化、組織内プロセス、組織のダイナミックス、組織のデザイン
成績評価(合格基準60)	提出課題30%、最終評価試験70%により評価し、総合評価の60%以上を合格とする。
関連科目	
教科書	教科書は使用しない
参考書	組織論/桑田耕太郎・田尾雅夫/有斐閣/978-4-641-12412-7
連絡先	A1号館7F 清野研究室

注意・備考	この講義では、適宜、課題演習を行い、理解度に応じたフィードバックを講義中に行う。講義中の録音／録画／撮影は他の受講者の妨げにならない限り自由とするが、他者 への再配布（ネットへのアップロードを含む）は禁止する。
試験実施	実施する

科目名	行政と法【火2金2】(FIV4G310)
英文科目名	Administrative Law
担当教員名	川島聡(かわしまさとし)
対象学年	3年
開講学期	秋2
曜日時限	火曜日 2時限 / 金曜日 2時限
対象クラス	社会情報学科
単位数	2.0
授業形態	演習

回数	授業内容
1回	オリエンテーション：講義の進め方を説明する。「行政法とは何か」を具体例を用いて考える。
2回	法律による行政の原理について説明する。グループワークでは最高裁平成3年3月8日判決(ヨット係留施設の撤去)を扱う。
3回	行政法の法源について説明する。グループワークでは最高裁昭和56年1月27日判決(信頼保護)を扱う。
4回	法治主義の目的、法律の留保の原則の分類、法律の優位の原則について説明する。グループワークでは最高裁平成3年7月9日判決(旧監獄法施行規則と委任の範囲)と最高裁平成14年1月31日判決(児童扶養手当法施行令と法律の委任)を扱う。
5回	瑕疵のある行政行為などについて説明する。最高裁昭和47年10月12日判決(行政代行的な業の許可裁量)と最高裁平成4年10月29日判決(専門技術的判断と裁判所の審査)を扱う。
6回	行政裁量などについて説明する。グループワークでは最高裁昭和53年5月26日判決(余目町個室付浴場事件)と最高裁昭和63年6月17日判決(行政行為の明文なき撤回)を扱う。
7回	不利益処分手続などについて説明する。最高裁昭和62年5月19日判決(随意契約制限違反)と最高裁昭和34年6月26日判決(退職願の撤回)を扱う。
8回	行政指導などについて説明する。グループワークでは最高裁昭和41年2月8日判決(国家試験と司法審査)と最高裁昭和52年3月10日決定(退去強制)を扱う。
9回	抗告訴訟などについて説明する。グループワークでは最高裁昭和62年2月6日判決(学校事故に関する国家賠償責任)と最高裁昭和57年4月1日判決(国家賠償における加害者の特定)を扱う。
10回	行政指導、行政立法、行政計画、行政契約などについて説明する。グループワークでは最高裁平成3年4月19日判決(小樽予防接種禍訴訟)を扱う。
11回	行政事件訴訟法について説明する。グループワークでは最高裁昭和45年8月20日判決(道路管理の瑕疵)を扱う。
12回	行政不服申立制度、不服申立審査などについて説明する。グループワークでは最高裁昭和61年3月25日判決(点字ブロックのない駅ホーム)を扱う。
13回	国家賠償法1条などについて説明する。グループワークでは最高裁平成5年3月30日判決(校庭開放中の自己)を扱う。
14回	収用補償などについて説明する。グループワークでは最高裁昭和28年12月23日判決(正当な補償)を扱う。
15回	1回～14回までを復習する。
16回	前回到続き1回～14回までを復習し、最終評価試験を実施する。

回数	準備学習
1回	予習として情報関係の法律問題に関する新聞記事をひとつ探してくること。(標準学習時間60分)
2回	予習として最高裁平成3年3月8日判決(ヨット係留施設の撤去)の事実の概要と判旨を読むこと。復習として、授業で扱った事件と論点について学んだ点を説明できるようにすること。(標準学習時間60分)
3回	予習として最高裁昭和56年1月27日判決(信頼保護)の事実の概要と判旨を読むこと。復習として、授業で扱った事件と論点について学んだ点を説明できるようにすること。(標準学習時間60分)
4回	予習として最高裁平成3年7月9日判決(旧監獄法施行規則と委任の範囲)と最高裁平成14年1月31日判決(児童扶養手当法施行令と法律の委任)の事実の概要と判旨を読むこと。復習として、授業で扱った事件と論点について学んだ点を説明できるようにすること。(標準学習時間90分)
5回	予習として最高裁昭和47年10月12日判決(行政代行的な業の許可裁量)と最高裁平成4年10月29日判決(専門技術的判断と裁判所の審査)の事実の概要と判旨を読むこと。復習として、授業で扱った事件と論点について学んだ点を説明できるようにすること。(標準学習時間90分)
6回	予習として最高裁昭和53年5月26日判決(余目町個室付浴場事件)と最高裁昭和63年6月1

	7日判決（行政行為の明文なき撤回）の事実の概要と判旨を読んてくること。復習として、授業で扱った事件と論点について学んだ点を説明できるようにすること。（標準学習時間90分）
7 回	予習として最高裁昭和62年5月19日判決（随意契約制限違反）と最高裁昭和34年6月26日判決（退職願の撤回）の事実の概要と判旨を読んてくること。復習として、授業で扱った事件と論点について学んだ点を説明できるようにすること。（標準学習時間90分）
8 回	予習として最高裁昭和41年2月8日判決（国家試験と司法審査）と最高裁昭和52年3月10日決定（退去強制）の事実の概要と判旨を読んてくること。復習として、授業で扱った事件と論点について学んだ点を説明できるようにすること。（標準学習時間90分）
9 回	予習として最高裁昭和62年2月6日判決（学校事故に関する国家賠償責任）と最高裁昭和57年4月1日判決（国家賠償における加害者の特定）の事実の概要と判旨を読んてくること。復習として、授業で扱った事件と論点について学んだ点を説明できるようにすること。（標準学習時間90分）
10 回	予習として最高裁平成3年4月19日判決（小樽予防接種禍訴訟）の事実の概要と判旨を読んてくること。復習として、授業で扱った事件と論点について学んだ点を説明できるようにすること。（標準学習時間60分）
11 回	予習として最高裁昭和45年8月20日判決（道路管理の瑕疵）の事実の概要と判旨を読んてくること。復習として、授業で扱った事件と論点について学んだ点を説明できるようにすること。（標準学習時間60分）
12 回	予習として最高裁昭和61年3月25日判決（点字ブロックのない駅ホーム）の事実の概要と判旨を読んてくること。復習として、授業で扱った事件と論点について学んだ点を説明できるようにすること。（標準学習時間60分）
13 回	予習として最高裁平成5年3月30日判決（校庭開放中の自己）の事実の概要と判旨を読んておくこと。復習として、授業で扱った事件と論点について学んだ点を説明できるようにすること。（標準学習時間60分）
14 回	予習として最高裁昭和28年12月23日判決（正当な補償）の事実の概要と判旨を読んておくこと。復習として、授業で扱った事件と論点について学んだ点を説明できるようにすること。（標準学習時間60分）
15 回	予習・復習として1回～14回までの内容をよく理解し整理しておくこと。（標準学習時間90分）
16 回	予習として1回～14回までの内容をよく理解し整理しておくこと。（標準学習時間90分）

講義目的	行政法に関する講義をおこなう。また、グループワークでは行政法に関する判例を扱う。これにより、社会における行政法の役割、機能、限界を理解することを本講義の目的とする。（社会情報学科の「学位授与の方針」の項目Cにもっとも強く関与し、項目Bに強く関与する）
達成目標	1) 行政法の基本を正確に身につける（B・C）。 2) 行政法の基本を自分で説明することができる（B・C）。 （ ）内は社会情報学科の「学位授与の方針」の対応する項目（学科のホームページ参照）
キーワード	公行政行為、行政手続、行政救済
成績評価（合格基準60	基本的に最終評価試験100%により成績を評価し、100点満点中、60点以上を合格とする。
関連科目	「市民生活と法」「情報法」など。
教科書	使用しない。レジメと資料を授業中に配布する。
参考書	六法（出版社・種類は問わない）
連絡先	川島研究室 A1号館7階
注意・備考	1) 授業では、グループワークやディスカッションを含むアクティブラーニングの手法を採用する。 2) 教科書は用いず、レジメと資料を授業中に配布する。 3) 予習と復習をすること。 4) 授業中の私語を禁ずる。 5) 講義中の録音／録画／撮影は原則認めない。特別の理由がある場合には事前に相談すること。 6) 授業中の演習課題についてのフィードバックは、Momo-campusのフィードバック機能を用いるか、あるいはその授業中に行う。
試験実施	実施する

科目名	流通ビジネス(再)【火3金3】(FIV4H110)
英文科目名	Distribution Business
担当教員名	張セイ(ちょうせい)
対象学年	1年
開講学期	秋2
曜日時限	火曜日 3時限 / 金曜日 3時限
対象クラス	社会情報学科(～16)
単位数	2.0
授業形態	講義

回数	授業内容
1回	オリエンテーションを行い、講義の進め方を説明する。流通機能と小売業の概念について説明する。
2回	小売業の社会的役割について説明する。
3回	小売業の種類として、業種(type of business)と業態(type of operation)の分類を説明する。
4回	小売業が直面する競争の種類と競争優位性の追求について説明する。
5回	小売マーケティング計画の策定について説明する。
6回	消費者の購買行動について説明する。 また、第1回目から第6回目までの講義内容について振り返ると同時に、第1回目の中間試験を実施する。
7回	第1回目中間試験の解説とフィードバックをする。 小売業の新規出店を念頭において、立地と店舗設計について説明する。
8回	小売業の商品構成、商品調達、売場構成、商品陳列について説明する。
9回	小売業の商品開発について説明する。
10回	小売業の販売価格の決定と価格調整について説明する。
11回	販売計画、仕入計画、発注、商品統制などの面から在庫管理について説明する。
12回	小売業のプロモーションについて説明する。 また、第7回目から第12回目までの講義内容を振り返ると同時に、第2回目中間試験を実施する。
13回	第2回目中間試験の解説とフィードバックをする。 顧客情報の活用、顧客関係の構築について説明する。
14回	小売業の人材活用について説明する。
15回	小売業の国際展開について説明する。
16回	最終評価試験を実施する。

回数	準備学習
1回	シラバスを詳しく読んでおくこと 取引数単純化の原理を予習しておくこと(標準学習時間90分)
2回	小売業の社会的役割について予習すること セブンイレブンとイオンの違いを考えておくこと(標準学習時間90分)
3回	流通における小売業の役割を復習すること 小売業の業態分類の考え方を整理すること(標準学習時間90分)
4回	小売業態革新における諸仮説を予習すること(標準学習時間90分)
5回	小売業競争、業態革新の分析方法を復習すること 小売マーケティング計画について予習すること (標準学習時間90分)
6回	リアル店舗とバーチャル店舗の購買行動の違いについて考えておくこと(標準学習時間90分)
7回	コンビニとショッピングセンターの立地と店舗レイアウトの違いについて考えておくこと(標準学習時間90分)
8回	コンビニとショッピングセンターの商品陳列の違いを観察し整理しておくこと(標準学習時間90分)
9回	プライベート・ブランド商品とナショナル・ブランド商品の違いを調べておくこと(標準学習時間90分)
10回	費用、需要、競争と価格決定の関係を考えておくこと(標準学習時間90分)
11回	物流とロジスティクスの違いについて調べておくこと(標準学習時間90分)

1 2 回	人的販売とセルフサービスの違いについて考えておくこと（標準学習時間90分）
1 3 回	小売マーケティング・ミックスの全体を復習すること POSシステムについて調べておくこと（標準学習時間90分）
1 4 回	小売店舗における従業員の役割について考えておくこと（標準学習時間90分）
1 5 回	日本の小売業が海外進出に挑戦している背景や動機について考えておくこと（標準学習時間90分）
1 6 回	小売業の国際展開について復習すること 1回～15回までの内容をよく理解し整理しておくこと （標準学習時間120分）

講義目的	小売業は私たちに身近な存在であり、消費者と接しているという特徴を持っている。特に、消費者との直接的な関係が強調される今日のマーケティング研究の潮流においては、小売業のマーケティングは重要となるが、小売マーケティングは、伝統的マーケティングの下位分野に位置付けられてきた。そこで、伝統的マーケティングと小売マーケティングを比較しながら、その特徴について理解するとともに、小売マーケティングの基本的概念について整理することを本講義の目的とする。 （社会情報学科の学位授与方針項目Bにもっとも強く関与，項目Cに強く関与する。）
達成目標	本講義では、小売マーケティングに興味・関心を持つこと、現実を理解、分析するための小売マーケティングの理論体系と基本概念を理解することを達成目標とする。
キーワード	小売業、マーケティング・ミックス、購買行動、顧客関係
成績評価（合格基準60	中間試験30%、最終評価試験70%により成績を評価し、総計で得点率60%以上を合格とする。
関連科目	商業基礎、マーケティング論
教科書	小売マーケティング・ハンドブック/青木均/同文館出版/ISBN 978-4-495-64531-1
参考書	適宜、指示する。
連絡先	A1号館7階 張婧研究室
注意・備考	・講義資料は期間を限定してMomo-campusで配布する。ダウンロード期間終了後の資料配布請求には原則応じない。 ・講義中の撮影は他の受講者の防げにながらい限り自由とするが、他者への再配布（ネットへのアップロードを含む）は禁止する。 ・中間試験2回、最終評価試験1回を実施し、試験形態は筆記試験とする。 ・試験のフィードバックについて、中間試験は講義中、最終評価試験はMomo-campusのフィードバック機能を用いて行う。
試験実施	実施する

科目名	行動計量学(再)【火3金3】(FIV4H210)
英文科目名	Behavior Metrics
担当教員名	森裕一(もりゆういち)
対象学年	2年
開講学期	秋2
曜日時限	火曜日 3時限 / 金曜日 3時限
対象クラス	社会情報学科(～16)
単位数	2.0
授業形態	講義

回数	授業内容
1回	データ科学と多変量解析の概要を解説する。
2回	データの記述と予測(1)として、「単回帰分析」について、実習により学習する。
3回	「単回帰によるデータ分析」に関する練習をする。
4回	データの記述と予測(2)として、「重回帰分析」について、実習により学習する。
5回	「重回帰によるデータ分析」に関する練習をする。
6回	データの記述と予測(3)として、「重回帰分析 - カテゴリカルデータ - 」について、実習により学習する。
7回	「ダミー変数を利用するデータ分析」に関する練習をする。
8回	似通ったグループに分ける手法として、「クラスター分析」について、実習により学習する。
9回	「クラスター分析によるデータ分析」に関する練習をする。
10回	カテゴリカルデータを分析する手法として、「数量化法」について、実習により学習する。
11回	「コレスポンデンス分析によるデータ分析」に関する練習をする。
12回	全体の傾向を効率よく語る手法として、「主成分分析」について、実習により学習する。
13回	「主成分分析によるデータ分析」に関する練習をする。
14回	総合演習を行う。
15回	総合演習を行う。

回数	準備学習
1回	マーケティング分野のデータ解析の事例を見ておくこと(標準学習時間60分)
2回	テキストとして使用するWebページ(第1回)を事前に予習しておくこと(標準学習時間60分)
3回	前回の手法を使って練習ができるように内容を復習しておくこと(標準学習時間60分)
4回	前回の練習課題を仕上げること(標準学習時間60分)テキストとして使用するWebページ(第2回)を事前に予習しておくこと(標準学習時間60分)
5回	前回の手法を使って練習ができるように内容を復習しておくこと(標準学習時間60分)
6回	前回の練習課題を仕上げること(標準学習時間60分)テキストとして使用するWebページ(第3回)を事前に予習しておくこと(標準学習時間60分)
7回	前回の手法を使って練習ができるように内容を復習しておくこと(標準学習時間60分)
8回	前回の練習課題を仕上げること(標準学習時間60分)テキストとして使用するWebページ(第4回)を事前に予習しておくこと(標準学習時間60分)
9回	前回の手法を使って練習ができるように内容を復習しておくこと(標準学習時間60分)
10回	前回の練習課題を仕上げること(標準学習時間60分)テキストとして使用するWebページ(第5回)を事前に予習しておくこと(標準学習時間60分)
11回	前回の手法を使って練習ができるように内容を復習しておくこと(標準学習時間60分)
12回	前回の練習課題を仕上げること(標準学習時間60分)テキストとして使用するWebページ(第6回)を事前に予習しておくこと(標準学習時間60分)
13回	前回の手法を使って練習ができるように内容を復習しておくこと(標準学習時間60分)
14回	前回の練習課題を仕上げること(標準学習時間60分)これまでの内容を復習しておき、総合演習に備えること(標準学習時間30分)
15回	必要に応じて、前回の内容を補い、演習課題を完成できるようにしておくこと(標準学習時間60分)

講義目的	既習の統計関係の講義を基礎として、多変量のデータ解析手法についての入門的内容を概説する。扱う手法としては、回帰診断を含めた重回帰分析、主成分分析、クラスター分析、数量化法等などの多変量統計手法の基礎である。これらの手法ごとに、実データへ適用した事例を通して理論を講述し、同種のデータへ学んだ手法を適用することを繰り返し、社会情報に関するデータ処理に各手法を適用できる力をつけることをめざす。演習では、統計解析パッケージを利用した実習を行う。(社会情報学科の学位授与方針項目CとFにもっとも強く関与し、AとBに強く関与する)
達成目標	・解析事例を基に、さまざまなデータ解析の手順について理解する。・多変量解析の基礎を身につける。

キーワード	解析ストーリー，マーケティング，多変量解析，重回帰分析，クラスター分析，数量化法，主成分分析，統計パッケージ
成績評価（合格基準60	平常点(20%)，各練習時に課すレポート(50%)および総合課題(30%)によって評価し，すべてのレポートと総合課題が提出されたものに対して，総計で得点率 60%以上を合格とする。
関連科目	「社会調査法」，「データ解析基礎」，「データ解析システム」
教科書	次のWebページを利用する。 http://mo161.soci.ous.ac.jp/@d/indexj.html
参考書	データマイニング事例集 / 上田太一郎 / 共立出版
連絡先	森研究室（A1号館8階） mori@mgt.ous.ac.jp
注意・備考	(1) 「データ解析システム」の知識を前提とする。・「社会調査士」認定科目である。 (2) 隔回で提出する課題は添削により，フィードバックする。課題の提出・フィードバックは，Momo-campus の用いる。 (3) 講義中の録音 / 録画 / 撮影は他の受講者の妨げにならない限り自由とするが，他者への再配布（ネットへのアップロードを含む）は禁止する。
試験実施	実施しない

科目名	政治学(再)【火4金4】(FIV4I110)
英文科目名	Politics
担当教員名	松村博行(まつむらひろゆき)
対象学年	1年
開講学期	秋2
曜日時限	火曜日 4時限 / 金曜日 4時限
対象クラス	社会情報学科(～16)
単位数	2.0
授業形態	講義

回数	授業内容
1回	ガイダンスとして講義の進め方を説明する。また、公共政策とは何か、政治とは何かについて概説する。
2回	国家と権力：政治学の基本的な概念である権力について説明する。
3回	政治意識と政治文化：国や社会によって異なる政治への関心や態度の背景を説明する。
4回	市民革命と民主主義：自由主義や民主主義がどのように誕生したのかを説明する。
5回	現代の民主主義：民主主義と権威主義のそれぞれの特徴について説明する。 ●第1回小テスト
6回	現代の福祉国家：福祉国家がいかにして誕生したのか、その経緯や背景にある思想を説明する。
7回	選挙その1：さまざまな選挙制度の特徴について説明する。
8回	選挙その2：日本の選挙制度の特徴について説明する。
9回	世論とマスメディア：世論や有権者の投票行動に影響を与えるマスメディアの役割について説明する。
10回	国会と立法：日本の国会の機能や特徴について、他国の議会と比較しながら説明する。 ●第2回小テスト
11回	内閣と行政：行政をを担う内閣や府省の機能や特徴、そして官僚制について説明する。
12回	政党：政党はなぜ存在するのか、そして国によって政党の数が違うのはなぜかについてそれぞれ説明する。
13回	利益団体：利益団体の政治的機能と政官財の関係について説明する。
14回	地方自治：地方と中央の関係を中心に、地方自治の意義や現在の日本が抱える問題点について説明する。 ●第3回小テスト
15回	現代日本の政治：現代日本の政治が抱える問題について説明する。
16回	最終評価試験：第1回から第15回までを総括し、最終評価試験を実施する。

回数	準備学習
1回	予習： 政治に関するニュースを新聞で読み、そこに出てくる用語で分からなかったものについて意味を調べておくこと。 復習： シルバー民主主義について整理しておくこと。 (標準学習時間：120分)
2回	予習： 第2章をよく読み、内容を理解しておくこと。 復習： 権力の類型を整理しておくこと。 (標準学習時間：120分)
3回	予習： 第3章をよく読み、内容を理解しておくこと。 復習： アーモンドとヴァーバによる政治文化の類型を整理しておくこと。 (標準学習時間：120分)
4回	予習： 第4章をよく読み、内容を理解しておくこと。 復習： ロックとホプズの社会契約説の相違点を整理しておくこと。 (標準学習時間：120分)
5回	予習： 第5章をよく読み、内容を理解しておくこと。また、小テストに備えて1回から4回までの内容を復習しておくこと。 復習： さまざまな権威主義体制について整理しておくこと。 (標準学習時間：180分)。
6回	予習： 第6章をよく読み、内容を理解しておくこと。 復習： 日本の社会保障制度について整理し、持続可能な社会保障のあり方について自分の考えをまとめておくこと。 (標準学習時間：120分)
7回	予習： 第8章の1と2をよく読み、内容を理解しておくこと。 復習： 「多数代表」と「比例代表」の考え方にに基づき、さまざまな選挙制度について整理しておくこと。

	(標準学習時間：120分)
8 回	予習： 第8章の3をよく読み、内容を理解しておくこと。 復習： 1993年の公職選挙法改正の理由とその後の選挙への影響についてまとめておくこと。 (標準学習時間：120分)
9 回	予習： 第9章をよく読み、内容を理解しておくこと。 復習： 新しい強力効果説、アナウンスメント効果について整理しておくこと。 (標準学習時間：120分)
10 回	予習： 第10章をよく読み、内容を理解しておくこと。また、小テストに備えて6回から9回までの内容を復習しておくこと。 復習： なぜ日本は閣法の成立率が低いのか、その理由が説明できるよう整理しておくこと。 (標準学習時間：180分)
11 回	予習： 第11章をよく読み、内容を理解しておくこと。 復習： 官僚制について、ヴェーバーとマートンの所論を整理しておくこと。 (標準学習時間：120分)
12 回	予習： 第12章をよく読み、内容を理解しておくこと。 復習： サルトーリの政党システムについて整理しておくこと。 (標準学習時間：120分)
13 回	予習： 第13章をよく読み、内容を理解しておくこと。 復習： 多元的民主主義と利益集団自由主義の相違について整理しておくこと。 (標準学習時間：120分)
14 回	予習： 第14章をよく読み、内容を理解しておくこと。 復習： 地方選挙の投票率が低くなる傾向について説明できるようにしておくこと。 (標準学習時間：120分)
15 回	予習： 第15章をよく読み、内容を理解しておくこと。また、小テストに備えて11回から14回までの内容を復習しておくこと。 復習： 15回の講義で学んだ内容を再確認しておくこと。 (標準学習時間：180分)
16 回	予習： 第1回から第15回までの内容をよく理解し、整理しておくこと(標準学習時間120分)

講義目的	公共政策とは、私たちの生活する公的な社会の問題について策定され、そして社会広くに適用される政策のことを意味します。そしてそれを策定するのは政府や自治体です。つまり、公共政策は政治の機能の一部と言えます。この講義では、公共政策を取り巻く政治の仕組みを理解することを目的とします。(経営学科の学位授与方針の項目Bにもっとも強く関与する)
達成目標	(1)日本の政治の仕組みについて理解し、説明することができる。 (2)国民の政治参加の方法について理解し、説明することができる。 (3)地方自治の仕組みについて理解し、説明することができる。
キーワード	
成績評価(合格基準60)	小テスト 45点(15点×3回) 最終評価試験 55点
関連科目	国際政治学
教科書	『はじめての政治学〔第2版〕』/佐藤史郎・上野友也・松村博行/法律文化社/978-4-589-03832-6
参考書	授業内で適宜紹介する
連絡先	松村研究室 A1号館702号室
注意・備考	・配布資料は、毎回授業の最初に配布する。 ・小テストの模範解答は、次の授業内にて解説し、フィードバックを行う。 ・最終評価試験のフィードバックはMomo-Campusのフィードバック機能を用いて行う。 ・他の受講生の妨害になる振る舞い(雑談等)については厳しく対処する。 ・講義の録音、録画、撮影は原則認めない。ただし、特別な理由がある場合には事前に相談すること。 ・飲食のうち、「食」についてはガムやアメも含めて認めない。
試験実施	実施する

科目名	国際ビジネス【火4金4】(FIV4I310)
英文科目名	International business
担当教員名	張セイ(ちょうせい)
対象学年	3年
開講学期	秋2
曜日時限	火曜日 4時限 / 金曜日 4時限
対象クラス	社会情報学科
単位数	2.0
授業形態	講義

回数	授業内容
1回	オリエンテーションを行い、講義の進め方を説明する。企業が海外進出する要因について説明する。
2回	グローバル市場参入戦略と国際ビジネスの諸理論について説明する。
3回	異文化と国際化と文化のダイナミックスについて説明する。
4回	異文化間の消費者行動について説明する。
5回	国際マーケティングの全体像とその標準化-適応化戦略について説明する。
6回	国際マーケティングにおける製品政策について説明する。
7回	国際マーケティングにおける価格政策について説明する。
8回	国際マーケティングにおけるチャネル政策について説明する。
9回	国際マーケティングにおける販促政策について説明と、異文化間のマーケティング・コミュニケーションについて説明する。
10回	国際マーケティングと国内マーケティングの違いについて説明する。
11回	国際ビジネスにおける組織戦略について説明する。
12回	国際ビジネスにおける人的資源管理戦略について説明する。
13回	事例から日本企業の海外進出を説明する。
14回	事例から海外企業の日本進出を説明する。
15回	国際マーケティングの新たな展開について説明する。
16回	1回～15回までの総括を行い、最終評価試験を実施する。

回数	準備学習
1回	授業内容を確認すること グローバル企業の特徴について復習すること グローバル市場参入形態について予習しておくこと(標準学習時間90分)
2回	グローバル市場参入戦略及び国際ビジネスの諸理論について復習すること 日本文化とアメリカ文化の違いを考えておくこと(標準学習時間90分)
3回	異文化と国際化の関係について復習すること 文化や習慣が消費者の行動にどのような影響を与えるのかについて考えておくこと(標準学習時間90分)
4回	異文化間の消費者行動について復習すること 国際マーケティングの標準化-適応化戦略を予習しておくこと(標準学習時間90分)
5回	国際マーケティングの体系について復習すること 国によるマクドナルドメニューの違いについて調べておくこと(標準学習時間90分)
6回	製品政策について復習すること どのような基準から価格は決定されるのかについて考えておくこと(標準学習時間90分)
7回	価格政策について復習すること 日本独特の流通制度について予習しておくこと(標準学習時間90分)
8回	チャネル政策について復習すること 外国のCMを視聴し、日本のCMとどのような点が異なるのかについて考えておくこと(標準学習時間90分)
9回	販促政策について復習すること 第5回～第9回の内容を整理して、国際マーケティングの特徴を考えておくこと(標準学習時間90分)
10回	国際マーケティングの知識について復習すること 企業組織の構成と特徴について予習しておくこと(標準学習時間90分)
11回	組織戦略について復習すること 日本の雇用制度の特徴について調べておくこと(標準学習時間90分)
12回	人的資源管理戦略について復習すること 中国産、日本製という言葉が持つイメージについて考えておくこと(標準学習時間90分)
13回	世界的ブランドを取り上げ、そのブランドに対してどのようなイメージを持っているのかについて考えておくこと(標準学習時間90分)

1 4 回	国際するなかで、企業はどのように顧客のニーズに対応するかについて考えておくこと（標準学習時間90分）
1 5 回	国際マーケティングにおける顧客ニーズの対応について復習すること 1回～15回までの内容をよく理解し整理しておくこと（標準学習時間90分）
1 6 回	試験問題を確認すること 授業目標の達成を確認すること （標準学習時間90分）

講義目的	消費者行動や企業のマーケティング行為は国際的に多様である。例えば、国によって「マクドナルドでの食事」の意味は異なる。したがって、企業は進出しようとする国の文化などの理解が欠かせない。そこで、本講義では、製品開発、販売行動や顧客ニーズの対応といったマーケティング・マネジメントがどのように現地の事情に応じて展開されているのかについて明らかにすることを目的とする。（社会情報学科の学位授与方針項目Cにもっとも強く関与する）
達成目標	本講義では、国際ビジネスや国際マーケティングに対して興味・関心を持つこと、特に国際マーケティングについての基盤的な概念や理論を理解することを達成目標とする。
キーワード	国際化戦略、国際マーケティング、文化
成績評価（合格基準60	最終評価試験100%により評価し、総計で60%以上を合格とする。
関連科目	マーケティング論、マーケティング戦略
教科書	使用しない。講義で資料を配布する。
参考書	適宜、指示する。
連絡先	A1号館7階 張婧研究室
注意・備考	試験は最終評価試験期間に行い、試験形態は筆記試験とする。
試験実施	実施する

科目名	社会情報研究 【火5金5】 (FIV4J310)
英文科目名	Socio-Information Studies II
担当教員名	黒田正博(くろだまさひろ), 徳澤啓一(とくさわけいいち), 水谷直樹(みずたになおき), 山口隆久(やまぐちたかひさ), 松村博行(まつむらひろゆき), 三原裕子(みはらゆうこ), 大藪亮(おおやぶあきら), 八木一郎(やぎいちろう), 張セイ(ちょうせい), 川島聡(かわしまさとし), 大田靖(おおたやすし), 栗山晃一*(くりやまこういち*), 山形真理子(やまがたまりこ), 岡部勝成(おかべかつよし), 清野聡(せいのさとし), 村松潤一(むらまつじゅんいち), 鷲見哲男(わしみてつお), 田中彰*(たなかあきら*), 林千昭*(はやしちあき*), 志野敏夫(しのとしお), 森裕一(もりゆういち)
対象学年	3年
開講学期	秋2
曜日時限	火曜日 5時限 / 金曜日 5時限
対象クラス	社会情報学科
単位数	2.0
授業形態	講義
授業内容	・研究テーマにそった研究をする。 ・研究に必要なさらなる情報の収集を行う。(9月~12月) ・収集した情報を整理しつつ、さらなる情報の収集を行う。(12月~2月) ・収集した情報に基づき問題点を整理する。(2月) ・研究の進捗状況について、適時プレゼンテーションを行う。(9月~2月)
準備学習	・前期に策定した研究テーマの妥当性についてチェックしておくこと。 ・収集した情報を整理し、さらに必要な情報がないか点検すること。 ・自分が感じた問題点や疑問点は、つねにプレゼンテーションを行って、指導教員や研究仲間にも点検してもらうこと。
講義目的	配属された指導教員の下、前期に続いて、各教員の専門分野について、各自が研究を行い、報告書をまとめる。研究課題策定への取り組み、資料収集と整理、プレゼンテーションなど発表への取り組みなどを学ぶ。(社会情報学科の学位授与方針項目CとDにもっとも強く関与する)
達成目標	各研究室で各自に課せられた課題を達成する。 1. 課題への取り組みが積極的に出来る。 2. 資料などデータ収集・整理が出来る。 3. 資料、データなどを課題研究に活かすことが出来る。
キーワード	ゼミナール、研究課題策定、資料・データ収集、資料・データ整理
成績評価(合格基準60)	各自の研究課題テーマの取り上げ方、まとめ(プレゼンテーション)、研究内容および報告書などで総合的に判断、60点以上を合格とする。
関連科目	社会情報研究 (春学期、必須)
教科書	指導教員が指示する。
参考書	指導教員が指示する。
連絡先	各指導教員または学科長
注意・備考	成績に記載した基準に基づき、評価を行う。
試験実施	実施しない

科目名	コミュニケーション(再)【木1木2】(FIV4P110)
英文科目名	Communication
担当教員名	八木力俊*(やぎりきとし*)
対象学年	1年
開講学期	秋2
曜日時限	木曜日 1時限 / 木曜日 2時限
対象クラス	社会情報学科(～16)
単位数	2.0
授業形態	講義

回数	授業内容
1回	「オリエンテーション」～本講座の目的とゴール及び講義の進め方について説明する。
2回	「コミュニケーションとは何か」～コミュニケーションの定義と社会の中で果たす役割について学習する。
3回	「コミュニケーションと情報伝達」～コミュニケーションを情報伝達という面から学習する。伝え方や価値観などによる情報の密度をペアで体感する。
4回	「話すこと聴くことについて」～ワークを通じて話し方、聴き方を学ぶ。ペアによる演習にて体得する。
5回	「言語コミュニケーションと非言語コミュニケーションについて」非言語コミュニケーションを通じて日常会話や言語コミュニケーションの重要性を学習する。
6回	「人とのかかわる時の心理」～コミュニケーションにおける対人配慮(ポライトネス)の理論を学習する。アサーションの演習を通じて日常で使えるように練習する。
7回	「挨拶を考える」～日常のあいさつをコミュニケーション論的な観点から学習する。挨拶の意味や方法を学び、ペアによる演習にて体得する。
8回	「創造的コミュニケーションを学ぶ」～ダイアログ(対話)について学習しグループワークを通じて体験する。
9回	「ビジネスシーンにおけるコミュニケーション」～言葉の選択や場面に応じた使い方について学ぶ。演習を通じて理解する。
10回	「ミーティングにおけるコミュニケーション」～ファシリテーションについて学習する。グループワークにて体験する。
11回	「プロジェクトにおけるコミュニケーション」～合意形成についてグループワークを行う。進め方や発言方法などを学習する。
12回	「プレゼンテーションにおけるコミュニケーション」～プレゼンテーションの理論や準備、環境について学習する。
13回	「プレゼンテーションにおけるコミュニケーション」～プレゼンテーションの表現方法について学習する。グループで声を出し身振り手振りで表現する練習を行う。発表に向けて準備する。
14回	「プレゼンテーションにおけるコミュニケーション」～プレゼンテーションの発表を体験する。メンバーによるフィードバックによりできているところとできていないところを確認する。
15回	「ナラティブアプローチにおけるコミュニケーション」～物語の力や効果について学習する。自らのストーリーを語り特徴や効果を理解する。
16回	最終評価試験を実施する。

回数	準備学習
1回	授業の内容をよく確認しておくこと、コミュニケーションについて自分の言葉で説明できるよう整理しておくこと(標準学習時間60分)
2回	授業の内容をよく確認しておくこと、コミュニケーションについて自分の言葉で説明できるよう整理しておくこと(標準学習時間60分)
3回	前回のレポートをもう一度読んで理解して授業に参加すること(標準学習時間60分)
4回	前回のレポートをもう一度読んで理解して授業に参加すること(標準学習時間60分)
5回	前回のレポートをもう一度読んで理解して授業に参加すること(標準学習時間60分)
6回	前回のレポートをもう一度読んで理解して授業に参加すること(標準学習時間60分)
7回	日常生活の「挨拶」についてどのような種類があるか考えておくこと(標準学習時間30分)
8回	社会で求められるコミュニケーション力とは何かについて考えておくこと(標準学習時間60分)
9回	前回のレポートをもう一度読んで理解して授業に参加すること(標準学習時間60分)
10回	就職活動のグループディスカッションにはどのようなものがあるか調べておくこと(標準学習時間60分)
11回	前回のレポートをもう一度読んで理解して授業に参加すること(標準学習時間60分)
12回	前回のレポートをもう一度読んで理解して授業に参加すること(標準学習時間60分)
13回	前回のレポートをもう一度読んで理解して授業に参加すること(標準学習時間60分)
14回	発表に向けての準備を行って授業に参加すること(標準学習時間90分)
15回	前回のレポートをもう一度読んで理解して授業に参加すること(標準学習時間60分)

16回	過去の配布資料を参考にして講義内容を整理しておくこと（標準学習時間90分）
講義目的	様々な社会状況の中で、人付き合いや人間関係に不安や悩みを持つ人たちが増えている。そこでコミュニケーションを科学的に捉え、家庭、学校、職場などで効果的なコミュニケーションとは何かについて理解し、基本的なコミュニケーション能力を身に付けることを本講義の目的とする。（社会情報学科の学位授与方針項目AおよびFにもっとも強く関与する。社会情報学科の学位授与方針項目Bに強く関与する。）
達成目標	コミュニケーションに関する基礎を理解し日常生活で活用することができる 学習と演習により効果的なプレゼンテーションを行うことができる 問題や課題を解決し相手に分かりやすく伝えることができる ミーティングやネゴシエーションの進め方を理解し実践することができる 相手に配慮したコミュニケーション技術を学び接することができる
キーワード	自己分析、就活、社会人基礎力、ライフシフト、コミュニケーション、プレゼンテーション、ディスカッション
成績評価（合格基準60	・授業中の演習10%、提出物10%、最終評価試験80%により成績を評価し、総計で60%以上を合格とする。 ・但し、最終評価試験において基準点を設け、得点が100点満点中、60点未満の場合は不合格とする。
関連科目	実践キャリア学、 を受講することでこの授業の意味が更に深く理解できると考える。
教科書	各回の講義で必要に応じてプリントを配布する。
参考書	特になし
連絡先	A1号館7階 山口研究室
注意・備考	・この講義ではアクティブラーニングを促すためペアワークやグループワークを行う。 ・講義資料は講義開始時に配布する。なお、特別な事情がない限り後日の配布には応じない。 ・講義中の録音／録画／撮影は原則認めない。当別の理由がある場合事前に相談すること。 ・講義中に課題を出した場合のフィードバックは授業内で説明する。 ・学生の人数、受講状況により内容や進め方の変更の可能性がある。様子を見ながら進めていきたい。「履修して良かった」と思える講義を目指したい。
試験実施	実施する

科目名	危機管理論 (再) (FIV4S210)
英文科目名	Risk Management II
担当教員名	松尾浩三* (まつおこうぞう*)
対象学年	2年
開講学期	秋2
曜日時限	木曜日 4時限
対象クラス	社会情報学科 (~16)
単位数	1.0
授業形態	講義

回数	授業内容
1回	オリエンテーション (授業の概要・進め方) 授業で用いる犯罪例について説明する。
2回	現代社会の治安を脅かす数々のリスクと警察の役割について説明する。
3回	生活安全部門の警察官が行う警察活動について説明する。
4回	刑事警察部門の警察官が行う警察活動について説明する。
5回	交通・警備警察部門の警察官が行う警察活動について説明する。
6回	鑑識・科学捜査活動について説明する。
7回	警察が取り組むべき今後の課題とまとめを行う。
8回	最終評価試験を実施し、解説を行う。

回数	準備学習
1回	危機管理論 で行う準備学習の復習をしておくこと。(標準学習時間90分)
2回	2回目以降の授業はケーススタディ中心で進めていく。ケース(犯罪例)は1回目の授業で掲示するので予習しておくこと。(標準学習時間90分)
3回	ケーススタディ中心で進めていく。全員参加型の討論を予定しているので、授業に参加するにはかなりな予習が必要となる。ケース(犯罪例)は2回目の授業で掲示するので予習しておくこと。(標準学習時間90分)
4回	ケーススタディ中心で進めていく。全員参加型の討論を予定しているので、授業に参加するにはかなりな予習が必要となる。ケース(犯罪例)は3回目の授業で掲示するので予習しておくこと。(標準学習時間90分)
5回	ケーススタディ中心で進めていく。全員参加型の討論を予定しているので、授業に参加するにはかなりな予習が必要となる。ケース(犯罪例)は4回目の授業で掲示するので予習しておくこと。(標準学習時間90分)
6回	ケーススタディ中心で進めていく。全員参加型の討論を予定しているので、授業に参加するにはかなりな予習が必要となる。ケース(犯罪例)は5回目の授業で掲示するので予習しておくこと。(標準学習時間90分)
7回	ケーススタディ中心で進めていく。全員参加型の討論を予定しているので、授業に参加するにはかなりな予習が必要となる。ケース(犯罪例)は6回目の授業で掲示するので予習しておくこと。(標準学習時間90分)
8回	これまでのケースについて確認しておくこと。(標準学習時間90分)

講義目的	岡山県警で長年警察官として勤務してきた高田修平氏をゲスト講師として招き、「警察の視点」からの危機管理論の講義を行う。具体的には、いくつかの犯罪例を用いたケーススタディを行うことによって、警察の役割を、特に治安の維持という観点から、より深く学んでもらう。(社会情報学科の学位授与方針項目Eにもっとも強く関与、項目Cに強く関与)
達成目標	警察が扱う事象にはどのようなものがあり、それに対してどのような取組をしているのかを学び、治安に果たす警察の役割を正しく理解する。身近な犯罪に対し、自分が、犯人や被害者とならないためにどうすべきかの対策を考える。ケーススタディを行うことにより、自らの発表及び学生間の討論を通じて、幅広く且つ深く考える力、発表する力、他人の意見を聞く力、そして様々な意見をまとめる力を養っていくことを目標とする。
キーワード	犯罪のリスク、警察の役割
成績評価(合格基準60)	最終評価試験(20%)と授業における討論中の発言、発表内容(80%)によって評価する。
関連科目	危機管理論
教科書	リスクマネジメント101/一般財団法人リスクマネジメント協会(危機管理論の授業で配布)
参考書	授業で指示する。
連絡先	kinkikeibi@sirius.ocn.ne.jp
注意・備考	・危機管理論を受講しないと、本講義(危機管理論)は受講できないので注意すること。 ・この講義ではアクティブラーニングを促すためグループディスカッションを行う。 ・課題については、講義中に模範解答を配布しフィードバックを行う。講義中の録音/録画/撮影は他の受講者の妨げにならない限り自由とするが、他者へ

	の再配布（ネットへのアップロードを含む）は禁止する。
試験実施	実施する

科目名	情報と職業(再) (FIV4Z210)
英文科目名	Information and Business
担当教員名	山口隆久 (やまぐちたかひさ)
対象学年	2 年
開講学期	秋2
曜日時限	集中講義 その他
対象クラス	社会情報学科 (~ 16)
単位数	2.0
授業形態	講義

回数	授業内容
1 回	本講義の概要説明をする。
2 回	情報社会への進展 (1) について説明をする。
3 回	情報社会への進展 (2) について説明をする。
4 回	情報社会と私たちの生活 (1) について説明をする。
5 回	情報社会と私たちの生活 (2) について説明をする。
6 回	情報社会と高等教育について説明をする。
7 回	情報社会の進展と職業について説明をする。
8 回	情報技術と人材育成 (1) について説明をする。
9 回	情報技術と人材育成 (2) について説明をする。
1 0 回	情報技術とメディアの利用 (1) について説明をする。
1 1 回	情報技術とメディアの利用 (2) について説明をする。
1 2 回	情報産業と国際化について説明をする。
1 3 回	経営・ビジネスと情報倫理について説明をする。
1 4 回	経営・ビジネスと職業情報について説明をする。
1 5 回	1回 ~ 15回までの総括を説明し、最終評価試験を実施する。
1 6 回	最終評価試験の出題意図と回答の解説をする。

回数	準備学習
1 回	シラバス、教科書をよく確認し学習の過程を把握しておくこと (標準学習時間 9 0 分)。
2 回	最近の情報社会がどのような社会的現象をもたらしているのかを予習すること (標準学習時間 9 0 分)。
3 回	情報化社会が今後、どのような展望を有するのかテキストから予習すること (標準学習時間 9 0 分)。
4 回	身近なところで起きている情報化について、自分なりの考えをまとめること (標準学習時間 9 0 分)。
5 回	インターネット等を用いた日常の商取引形態について予習しておくこと (標準学習時間 9 0 分)。
6 回	高等学校の「情報科」教員や企業の情報技術教育に何が必要かを考えておくこと (標準学習時間 9 0 分)。
7 回	あらゆる産業が情報化の波をどのように受け止めているのかを考えておくこと (標準学習時間 9 0 分)。
8 回	どんな産業であれ情報スキルは求められる。自分の情報技術の知識を整理すること (標準学習時間 9 0 分)。
9 回	企業等の組織において、今後求められる情報技術について考えること (標準学習時間 9 0 分)。
1 0 回	企業等にとって情報技術がどのように活用されているか文献等で調査しておくこと (標準学習時間 9 0 分)。
1 1 回	情報技術と企業の様々な経済効果 (コスト削減等) について調査しておくこと (標準学習時間 9 0 分)。
1 2 回	情報化時代の主役はインターネットにあり、常に国境を越えることを考えること (標準学習時間 9 0 分)。
1 3 回	企業等が情報を扱うには、それなりのマナーが必要であることを考えておくこと (標準学習時間 9 0 分)。
1 4 回	最近、企業等の情報漏えい等が問題となっており情報と責任の問題を考えること。これまでのまとめ、および最後に、情報化時代における企業の法令遵守 (コンプライアンス) について説明をする (標準学習時間 9 0 分)。
1 5 回	企業が情報を扱うことについて、法律の内容をテキストで把握しておくこと (標準学習時間 9 0 分)。
1 6 回	最終評価試験の問題を復習しておくこと (標準所要時間 90 分)。

講義目的	情報社会の進展、特に、情報のデジタル化と通信ネットワークの発展によってもたらされた、新しい職種・サービスの台頭、既存の業務形態の変化、SOHOなどの新しいオフィス形態の出現、人
------	--

	材育成の変化、これらにともなう職業観と勤労観の変化と今後のあり方など、情報と職業に関する考察を行うことを目的とする。また、業務にかかわるセキュリティや知的財産権、個人情報保護との関係から職業倫理についても理解を深めていく。（社会情報学科の学位授与方針項目A、Fにもっとも強く関与する）
達成目標	情報社会の進展がわれわれの生活に与えた影響や、情報化によって生まれた産業のみならず、既存の産業への情報化の影響についても触れ、高度情報通信社会の特徴と職業について概観する。また、これらを背景とした人材育成のあり方や、職業倫理を含む職業観なども扱い、情報と職業についての関わり、情報化社会における職業人としてのあり方を理解させる
キーワード	情報倫理、企業秘密、情報関連法、職業形態、職業意識
成績評価（合格基準60	最終評価試験40%、課題レポート40%とプレゼンテーション20%により成績を評価する。採点の基準は100点満点のうち60点以上を合格とする。また、授業回数の3分の1以上欠席した場合は試験評価を無効と見なし、「E」評価とする。
関連科目	社会学、情報化と知的財産、情報法、市民生活と法
教科書	適宜、指示する。
参考書	適宜、指示する。
連絡先	A1号館7F 山口研究室
注意・備考	毎回予習の課題レポート提出と理解度を確認するためのコメントシートを提出する。 実務士資格「情報処理士」「上級情報処理士」の認定科目である。
試験実施	実施する

科目名	社会情報研究 (FIV5J310)
英文科目名	Socio-Information Studies I
担当教員名	黒田正博(くろだまさひろ), 徳澤啓一(とくさわけいいち), 水谷直樹(みずたになおき), 山口隆久(やまぐちたかひさ), 松村博行(まつむらひろゆき), 三原裕子(みはらゆうこ), 大藪亮(おおやぶあきら), 八木一郎(やぎいちろう), 張セイ(ちょうせい), 川島聡(かわしまさとし), 大田靖(おおたやすし), 栗山晃一*(くりやまこういち*), 山形真理子(やまがたまりこ), 岡部勝成(おかべかつよし), 清野聡(せいのさとし), 村松潤一(むらまつじゅんいち), 鷲見哲男(わしみてつお), 田中彰*(たなかあきら*), 林千昭*(はやしちあき*), 丸山豊*(まるやまゆたか*), 志野敏夫(しのとしお), 森裕一(もりゆういち)
対象学年	3年
開講学期	春学期
曜日時限	火曜日 5時限
対象クラス	社会情報学科
単位数	2.0
授業形態	講義
授業内容	・オリエンテーションを行う。(4月) ・研究テーマの策定をする。(5月) ・研究テーマに必要な基本的文献の整理と収集をする。(6月~7月) ・策定した研究テーマの再検討をし、策定したテーマについてプレゼンテーションを行う。(7月)
準備学習	・各ゼミの専門に適合した科目の復習をしておくこと。 ・専門に応じた文献検索など、情報収集の手段・方法を習得しておくこと。 ・研究テーマ策定に必要な文献を読むなど情報の収集をすること。 ・研究したいと思うテーマの問題点を整理し、研究目的などを明確にプレゼンテーションできるようにすること。
講義目的	配属された指導教員の下、各教員の専門分野について、各自が研究を行い、報告書にまとめる。研究課題策定への取り組み、資料収集と整理、プレゼンテーションなど発表への取り組みなどを学ぶ。(社会情報学科の学位授与方針項目CとDにもっとも強く関与する)
達成目標	各研究室で各自で策定した課題を達成する。 1. 課題への取り組みが積極的に出来る。 2. 資料などデータ収集・整理が出来る。 3. 資料・データなどを課題研究に活かすことが出来る。
キーワード	ゼミナール、研究課題策定、資料・データ収集、資料・データ整理
成績評価(合格基準60)	各自の研究課題テーマの取り上げ方、まとめ(プレゼンテーション)などで総合的に判断、60点以上を合格とする。
関連科目	社会情報研究 (後期、必須)
教科書	指導教員が指示する。
参考書	指導教員が指示する。
連絡先	各指導教員または学科長
注意・備考	成績に記載した基準に基づき、評価を行う。
試験実施	実施しない

科目名	情報リテラシー(再) (FIV5Q110)
英文科目名	Information Literacy
担当教員名	大田靖 (おおたやすし)
対象学年	1 年
開講学期	春学期
曜日時限	木曜日 2時限
対象クラス	社会情報学科 (~ 16)
単位数	2.0
授業形態	講義

回数	授業内容
1 回	オリエンテーションを行う。 コンピュータの起動、終了、パスワードの管理などについて確認する。
2 回	電子メールの利用方法、web教材システムの利用方法、図書館検索などを含む情報検索の方法について学習する。
3 回	文書作成、表計算、プレゼンテーションなどについて確認する。
4 回	ワードの活用術1 ビジネス文書の書き方のポイントを学習する。 表を用いて、文書をわかりやすくまとめる方法を学習する。
5 回	ワードの活用術2 図を的確に用いて、わかりやすく見せる方法を学習する。レポートとして文書を整理する方法を学習する。
6 回	エクセルの活用術1 エクセルの基本的な操作方法と計算式の入力方法などについて学習する。
7 回	エクセルの活用術2 エクセルの関数 (IF, VLOOKUP など) の利用方法を学習する。
8 回	エクセルの活用術3 グラフの作成方法とその見方を学習する。
9 回	エクセルの活用術4 エクセルのデータベース機能を学習する。
1 0 回	ワード&エクセルの活用術 ワードにエクセルの表やグラフ等を貼り付ける方法を学習する。
1 1 回	発表の方法1 プレゼンテーションの方法について簡単に学習し、さらにパワーポイントの基本操作を学習する。
1 2 回	発表の方法2 見やすいスライドを作成する方法を学習する。 (図や表、レイアウトなどの効果的な利用)
1 3 回	発表の方法3 魅力的なスライドに仕上げる方法、及び効果的な発表方法について学習する。 (スライドマスターやアニメーション等の効果的な利用)
1 4 回	総合課題に取り組む 与えられた課題に対して、これまで学んだ内容を用いて取り組み、レポート資料を作成する。
1 5 回	最終課題に取り組む 与えられた課題に対して、これまで学んだ内容を用いて取り組み、最終課題のレポートを作成する。

回数	準備学習
1 回	各自の媒体 (P C やスマホなど) の操作方法を確認しておくこと。(標準学習時間60分)
2 回	電子メールを送る際に注意することや情報検索における注意点などを確認しておくこと。(標準学習時間60分)
3 回	文書の作成や表計算にはどのようなツールがあるかを確認しておくこと。(標準学習時間60分)
4 回	ビジネス文章の構成について確認しておくこと。(標準学習時間60分)
5 回	わかりやすい文書とはどのようなものが、具体的な文書例をインターネット等で探しておくこと。(標準学習時間90分)
6 回	表形式で計算する方法について調べておくこと。(標準学習時間60分)
7 回	エクセルの関数について簡単に調べておくこと。(標準学習時間60分)
8 回	新聞やインターネット等に使われているグラフを探して、その見方を確認しておくこと。(標準学習時間120分)
9 回	データベースとは何かをインターネット等で調べておくこと。(標準学習時間90分)
1 0 回	これまでに学んだことをよく復習しておくこと。(標準学習時間90分)

1 1 回	発表の際に注意することを確認しておく。また、発表用のツールにはどのようなものがある、さらにどのようなことができるかを確認しておくこと。（標準学習時間60分）
1 2 回	見やすいスライドにするための方法について調べておくこと。（標準学習時間120分）
1 3 回	効果的な発表の方法について調べておくこと。（標準学習時間120分）
1 4 回	これまでに学んだことをしっかりと復習しておくこと。（標準学習時間90分）
1 5 回	これまでの内容をよく見直し、最終課題の完成に必要な内容についてよく復習しておくこと。（標準学習時間120分）

講義目的	ビジネスにおける情報の処理方法を習得することを本演習の目的とする。文書処理、表計算、プレゼンテーションの各アプリケーションソフトウェアの基本操作を体験しながら、それらのソフトを総合的に活用した文書表現やデータの処理およびプレゼンテーションの能力を習得することを目指す。（社会情報学科の学位授与方針項目A、B、Fにもっとも強く関与する。）
達成目標	表計算ソフトを用いた簡単なデータ処理ができるようになること 経営のデータを用いて、分析、レポートの作成、発表資料の作成といった総合的な力を身につけること
キーワード	インターネット、オフィスソフト、データ処理、文書作成、発表
成績評価（合格基準60	課題提出50%、総合課題 50% によって成績を評価し、総計で60%以上を合格とする。
関連科目	基礎教養ゼミナール、データ解析基礎
教科書	リファレンス動画付き!実践ドリルで学ぶ Office活用術2016対応 演習問題全173 題 / ノア出版 / 978-4-908434-17-4
参考書	講義中に適宜紹介する。
連絡先	A1号館8階 大田研究室（yota@mgt.ous.ac.jp）
注意・備考	・第15回において最終課題の評価とともにフィードバックを行う。
試験実施	実施しない

科目名	プログラミング基礎(再) (FIV5R210)
英文科目名	Fundamental Programming
担当教員名	黒田正博(くろだまさひろ)
対象学年	2年
開講学期	春学期
曜日時限	木曜日 3時限
対象クラス	社会情報学科(～16)
単位数	2.0
授業形態	講義

回数	授業内容
1回	イントロダクション：Excelでのプログラミング言語であるVBAについて説明する。
2回	変数・関数・四則計算について説明および演習を実施する。
3回	データ型、分岐・ループについて説明、演習する。
4回	IF文による条件分岐のための文法構造を説明する。
5回	演習問題：IF文による条件分岐のためのVBAプログラムを作成する。
6回	SELECT文による条件分岐のための文法構造を説明する。
7回	演習問題：SELECT文による条件分岐のためのVBAプログラムを作成する。
8回	DO WHILE文による繰り返し処理のための文法構造を説明する。
9回	演習問題：DO WHILE文による繰り返し処理のためVBAプログラムを作成する。
10回	FOR文による繰り返し処理のための文法構造を説明する。
11回	演習問題：FOR文による繰り返し処理のためVBAプログラムを作成する。
12回	これまでに学習したIF文、SELECT文、DO WHILE文、FOR文を用いた総合的なVBAプログラミングによる演習をおこなう。
13回	EXCEL関数を利用したVBAプログラムの作成する。
14回	EXCELのグラフ機能を利用したVBAプログラムの作成する。
15回	これまでの内容を総括し、最終評価試験を実施する。
16回	最終評価試験の出題意図と解答の解説をおこなう。

回数	準備学習
1回	VBAプログラムについて予習をしておくこと(標準学習時間60分)
2回	プログラミングにおける変数の役割を予習しておくこと(標準学習時間60分)
3回	プログラムの基本構造について予習をしておくこと(標準学習時間60分)
4回	IF文の文法構造について予習をしておくこと(標準学習時間60分)
5回	IF文の文法構造についてについて復習しておくこと(標準学習時間60分)
6回	SELECT文の文法構造について予習をしておくこと(標準学習時間60分)
7回	SELECT文の文法構造についてについて復習しておくこと(標準学習時間60分)
8回	DO WHILE文の文法構造について予習をしておくこと(標準学習時間60分)
9回	DO WHILE文の文法構造についてについて復習しておくこと(標準学習時間60分)
10回	FOR文の文法構造について予習をしておくこと(標準学習時間60分)
11回	FOR文の文法構造についてについて復習しておくこと(標準学習時間60分)
12回	条件分岐、繰り返しのための文法について復習しておくこと(標準学習時間120分)
13回	EXCELの基本的関数の使い方を復習しておく(標準学習時間60分)
14回	EXCELのグラフ作成について復習しておく(標準学習時間60分)
15回	講義内容をよく理解し整理しておくこと(標準学習時間180分)
16回	最終評価試験の問題を復習しておくこと(標準学習時間60分)

講義目的	VBA言語によるプログラミング実習を行う。データの入出力と簡単な四則演算、配列を使ったデータの格納方法、プログラムを作成するうえで基礎となる制御文(条件判断や分岐、反復)を記述するための文法を学習する。そして、初等的な計算処理に関するアルゴリズムとそれを実現するためのVBAのプログラムを記述するための技術を演習で習得する。(経営学科の学位授与方針項目Eにもっとも強く関与する。社会情報学科の学位授与方針項目A、B、Fにもっとも強く関与する)
達成目標	1) 基本的な処理をアルゴリズムの形で表現させること。(2) そのアルゴリズムをコンピュータ言語によって記述すること。
キーワード	アルゴリズム、プログラミング
成績評価(合格基準60)	最終評価試験(100%)により成績を評価し、総計で60%以上を合格とする。
関連科目	
教科書	学生のためのExcel VBA / 若山芳三郎 / 東京大学出版局 / 978-4-501-53600-8
参考書	なし

連絡先	黒田研究室 A1号館8階
注意・備考	(1) この講義では、補助教材及び演習課題とその解答をMomo-campusを通じて配布する。 (2) 講義中の録音 / 録画 / 撮影は他の受講者の妨げにならない限り自由とするが、他者への再配布（ネットへのアップロードを含む）は禁止する。
試験実施	実施する

科目名	情報活用とビジネスライティング (FIV5R310)
英文科目名	Business Writing and use of information
担当教員名	浦上雅代* (うらがみまさよ*)
対象学年	3年
開講学期	春学期
曜日時限	木曜日 3時限
対象クラス	社会情報学科
単位数	2.0
授業形態	講義

回数	授業内容
1回	Wordによる「ビジネス文書」について説明し、演習を行う。
2回	Wordによる「ビジネス文書」について説明し、演習を行う。
3回	Wordによる「報告書」について説明し、演習を行う。
4回	Wordによる「報告書」について説明し、演習を行う。
5回	Wordによる「企画書」について説明し、演習を行う。
6回	Wordによる「企画書」について説明し、演習を行う。
7回	Wordによる「ビジネスデータ入力」について説明し、演習を行う。基礎編1
8回	Wordによる「ビジネスデータ入力」について説明し、演習を行う。基礎編2
9回	Wordによる「ビジネスデータ入力」について説明し、演習を行う。基礎編3
10回	Wordによる「ビジネスデータ入力」について説明し、演習を行う。応用編1
11回	Wordによる「ビジネスデータ入力」について説明し、演習を行う。応用編2
12回	Wordによる「ビジネスデータ入力」について説明し、演習を行う。応用編3
13回	Wordによる「ビジネスデータ入力」について説明し、演習を行う。実践編1
14回	Wordによる「ビジネスデータ入力」について説明し、演習を行う。実践編2
15回	Wordによる「ビジネスデータ入力」について説明し、演習を行う。実践編3

回数	準備学習
1回	授業内容の確認と復習 WORDについて予習しておくこと(標準学習時間90分)
2回	前回授業の復習をし、必ず演習課題をしておくこと(標準学習時間90分)
3回	前回授業の復習をし、必ず演習課題をしておくこと(標準学習時間90分)
4回	前回授業の復習をし、必ず演習課題をしておくこと(標準学習時間90分)
5回	前回授業の復習をし、必ず演習課題をしておくこと(標準学習時間90分)
6回	前回授業の復習をし、必ず演習課題をしておくこと(標準学習時間90分)
7回	前回授業の復習をし、必ず演習課題をしておくこと(標準学習時間90分)
8回	前回授業の復習をし、必ず演習課題をしておくこと(標準学習時間90分)
9回	前回授業の復習をし、必ず演習課題をしておくこと(標準学習時間90分)
10回	前回授業の復習をし、必ず演習課題をしておくこと(標準学習時間90分)
11回	前回授業の復習をし、必ず演習課題をしておくこと(標準学習時間90分)
12回	前回授業の復習をし、必ず演習課題をしておくこと(標準学習時間90分)
13回	前回授業の復習をし、必ず演習課題をしておくこと(標準学習時間90分)
14回	前回授業の復習をし、必ず演習課題をしておくこと(標準学習時間90分)
15回	前回授業の復習をし、必ず演習課題をしておくこと(標準学習時間90分)

講義目的	ビジネス・キャリアアップ講座の一つである。 本講義では、社会人としてのビジネスシーンにおける情報活用(パソコン活用)のスキルアップをめざすことを目的とする。講義では、パソコンを使用しての実習形式である。 表計算ソフト「Excel」を使い、経営における情報活用の実例を通して、実習形式で学ぶ。 また、ワープロソフト「Word」の応用編として、エクセルの表やグラフを貼り付けて、ビジネスレポートの作成を学ぶ。さらに、パワーポイントの基本操作と「企画書」作成も行なっていく。 (社会情報学科の学位授与方針項目CとEにもっとも強く関与、学位授与方針項目Bに強く関与する。)
達成目標	Excelの主要関数を理解できる。グラフ作成ができる。 Wordによるビジネスレポート作成ができる。 Power Pointによるプレゼン作成ができる。
キーワード	情報リテラシー、上級情報処理、ビジネス、表計算、企画書作成、プレゼンテーション
成績評価(合格基準60)	試験は実施せず、毎回、課題を出しますので、その課題提出で成績を評価します。
関連科目	情報リテラシー、キャリア・デザイン、ビジネス実務総論、ビジネス実務総論、プログラミング基礎、応用プログラミング
教科書	「よくわかる Word2013 & Excel2013スキルアップ問題集/ビジネス実践編」富

	土通オフィス機器 /978-4893119315
参考書	講義中に適宜指示する。
連絡先	山口研究室 A1号館7階
注意・備考	試験がなく、課題提出で成績を評価することから、無遅刻、無欠席でなければの覚悟がないと単位取得は難しいと考えてください。その代わり、この科目を取れば、確実にビジネスパソコン活用のスキルはアップします。また、外部の「パソコンスクール」に通う必要は無いし、「資格」が無くとも就職活動に自信を持てます。 課題のフィードバックは、講義の中で適宜実施します。 「USBメモリ」を各自で必ず用意してください。
試験実施	実施しない

科目名	社会情報実習β(再)(FIV6Z210)
英文科目名	Socio-Information Practice B
担当教員名	松村博行(まつむらひろゆき)
対象学年	2年
開講学期	秋学期
曜日時限	集中講義 その他
対象クラス	社会情報学科(～16)
単位数	1.0
授業形態	実験実習
授業内容	・この授業は、政治学や国際政治学に係るテーマを題材に、文章作成(5回)、データ処理およびその適切な掲示(5回)、スライド作成(3回)、そして口頭発表(2回)の各スキルを高めるトレーニングを実施します。 ・再履修クラスとなるので、受講生の関心に合わせて講義内容を決定する予定です。
準備学習	毎回、講義内において文書作成、データ処理、グラフ等の作成、プレゼンテーションの準備などの課題を与えますので、次の講義までにその課題を完成させることが準備学習となります。(標準学習時間120～180分)
講義目的	法政・社会コースの科目(ジャーナリズム論、法学、政治学等)を学ぶ上で必要となる表現スキル(文章表現、プレゼンテーション、データ分析、グラフや表の作成)を毎回、実習形式でトレーニングします。(社会情報学科の学位授与方針項目B、CおよびDにもっとも強く関与する)
達成目標	(1)正しい日本語で文章の要約や考察を行うことができる (2)世論調査等のデータを読み解き、グラフ等を用いて的確にそれを表現することができる (3)人前でのプレゼンテーションを行うことができる (4)ビジュアルのインパクトを考慮したプレゼンテーションスライドを作成することができる
キーワード	文書表現、プレゼンテーション、エッセイ、データ分析
成績評価(合格基準60)	課題の評価 100点
関連科目	
教科書	
参考書	授業内で適宜紹介する
連絡先	松村研究室 A1号館702号室
注意・備考	・他の受講生の妨害になる振る舞い(雑談等)については厳しく対処します。 ・レジュメは毎回授業の最初に配布します。 ・講義の録音や撮影、録画は認めていませんが、特別な理由がある場合は事前に相談すること。 ・飲食のうち、「食」についてはガムやアメも含めて認めていません。 ・課題提出はMomo campus上で行い、それにコメントを付した上で毎回返却(フィードバック)します。 ・この講義では、一部でアクティブラーニング(グループディスカッション)を実施します。
試験実施	実施しない

科目名	情報法(再) (FIV6Z220)
英文科目名	Cyberspace Laws
担当教員名	川島聡(かわしまさとし)
対象学年	2年
開講学期	秋学期
曜日時限	集中講義 その他
対象クラス	社会情報学科(～16)
単位数	2.0
授業形態	講義

回数	授業内容
1回	授業の概要を説明する。
2回	グループワークで大阪市屋外広告物条例事件などを扱い、表現の時・場所・方法について解説する。
3回	グループワークで立川ピラ配布事件などを扱い、管理権と表現の自由との関係を解説する。
4回	グループワークで泉佐野市民会館事件などを扱い、施設管理権と表現の自由との関係を解説する。
5回	グループワークでチャタレイ事件などを扱い、わいせつ表現を解説する。
6回	グループワークで「新しい歴史教科書をつくる会」事件などを扱い、公立図書館司法の図書廃棄の問題を解説する。
7回	グループワークで宴のあと事件などを扱い、プライバシーと表現の自由の関係を解説する。
8回	グループワークで長良川事件などを扱い、プライバシーと表現の自由との関係を前回に続き解説する。
9回	グループワークで月刊ペン事件などを扱い、名誉棄損と表現の自由との関係を解説する。
10回	グループワークでサンケイ新聞事件などを扱い、名誉棄損と表現の自由との関係を引き続き解説する。
11回	グループワークで博多駅事件などを扱い、取材の自由について解説する。
12回	グループワークで日本テレビ事件などを扱い、取材の自由について引き続き解説する。
13回	グループワークでレベタ事件などを扱い、法廷におけるメモ行為を解説する。
14回	グループワークで税関検査事件などを扱い、検閲禁止について解説する。
15回	1回～14回までの復習を行う。
16回	グループワークで1回～15回までの総括を説明し、最終評価試験を実施する。

回数	準備学習
1回	予習として情報に関する新聞記事をひとつ探してくること。(標準学習時間60分)
2回	予習として大阪市屋外広告物条例事件の事実の概要と判旨を読んでもくこと。復習として、授業で扱った事件と論点について学んだ点を説明できるようにすること。(標準学習時間60分)
3回	予習として立川ピラ配布事件の事実の概要と判旨を読んでもくこと。復習として、授業で扱った事件と論点について学んだ点を説明できるようにすること。(標準学習時間60分)
4回	予習として泉佐野市民会館事件の事実の概要と判旨を読んでもくこと。復習として、授業で扱った事件と論点について学んだ点を説明できるようにすること。(標準学習時間60分)
5回	予習としてチャタレイ事件の事実の概要と判旨を読んでもくこと。復習として、授業で扱った事件と論点について学んだ点を説明できるようにすること。(標準学習時間60分)
6回	予習として「新しい歴史教科書をつくる会」事件の事実の概要と判旨を読んでもくこと。復習として、授業で扱った事件と論点について学んだ点を説明できるようにすること。(標準学習時間60分)
7回	予習として宴のあと事件の事実の概要と判旨を読んでもくこと。復習として、授業で扱った事件と論点について学んだ点を説明できるようにすること。(標準学習時間60分)
8回	予習として長良川事件の事実の概要と判旨を読んでもくこと。復習として、授業で扱った事件と論点について学んだ点を説明できるようにすること。(標準学習時間60分)
9回	予習として月刊ペン事件の事実の概要と判旨を読んでもくこと。復習として、授業で扱った事件と論点について学んだ点を説明できるようにすること。(標準学習時間60分)
10回	予習としてサンケイ新聞事件の事実の概要と判旨を読んでもくこと。復習として、授業で扱った事件と論点について学んだ点を説明できるようにすること。(標準学習時間60分)
11回	予習として博多駅事件の事実の概要と判旨を読んでもくこと。復習として、授業で扱った事件と論点について学んだ点を説明できるようにすること。(標準学習時間60分)
12回	予習として日本テレビ事件の事実の概要と判旨を読んでもくこと。復習として、授業で扱った事件と論点について学んだ点を説明できるようにすること。(標準学習時間60分)
13回	予習としてレベタ事件の事実の概要と判旨を読んでもくこと。復習として、授業で扱った事件と論点について学んだ点を説明できるようにすること。(標準学習時間60分)
14回	予習として税関検査事件の事実の概要と判旨を読んでもくこと。復習として、授業で扱った事件と論点について学んだ点を説明できるようにすること。(標準学習時間60分)

1 5 回	予習・復習として1回～14回までの内容をよく理解し整理しておくこと。（標準学習時間90分）
1 6 回	予習として1回～15回までの内容をよく理解し整理しておくこと。（標準学習時間90分）

講義目的	情報法に関する講義をおこなう。また、グループワークでは情報法に関する判例を扱う。これにより、社会における情報法の役割、機能、限界を理解することを本講義の目的とする。（社会情報学科の「学位授与の方針」の項目CとFにもっとも強く関与し、項目Bに強く関与する）
達成目標	1) 情報法の基本を正確に身につける（B・C・F）。 2) 情報法の基本を自分の言葉で説明することができる（B・C・F）。 （ ）内は社会情報学科の「学位授与の方針」の対応する項目（学科のホームページ参照）
キーワード	表現の自由、情報
成績評価（合格基準60	基本的に最終評価試験100%により成績を評価し、100点満点中、60点以上を合格とする。
関連科目	「市民生活と法」「行政と法」など。
教科書	使用しない。レジメと資料を授業中に配布する。
参考書	六法（出版社・種類は問わない）
連絡先	川島研究室 A1号館7階
注意・備考	1) 授業では、グループワークやディスカッションを含むアクティブラーニングの手法を採用する。 2) 教科書は用いず、レジメと資料を授業中に配布する。 3) 予習と復習をすること。 4) 授業中の私語を禁ずる。 5) 講義中の録音／録画／撮影は原則認めない。特別の理由がある場合には事前に相談すること。 6) 授業中の演習課題についてのフィードバックは、Momo-campusのフィードバック機能を用いるか、あるいはその授業中に行う。
試験実施	実施する

科目名	社会情報実習 y (再) (FIV6Z230)
英文科目名	Socio-Information Practice r
担当教員名	志野敏夫 (しのとしお) , 山形真理子 (やまがたまりこ)
対象学年	2 年
開講学期	秋学期
曜日時限	集中講義 その他
対象クラス	社会情報学科 (~ 16)
単位数	1.0
授業形態	実験実習

回数	授業内容
1 回	オリエンテーションおよび導入。歴史学、考古学、民俗学の違いなどについて講義する。 (志野 敏夫)
2 回	なぜ歴史を勉強するかについて、討論形式で考察する。(志野敏夫) (志野 敏夫)
3 回	「歴史の多様性」について、討論形式で考察する。 (志野 敏夫) (志野 敏夫)
4 回	各人が調べてきたことをもとに、地名から歴史を探る方法について紹介する。(志野 敏夫) (志野 敏夫)
5 回	前回到引き続き、各人が調べてきたことをもとに、地名から歴史を探る方法について紹介する。(志野 敏夫) (志野 敏夫)
6 回	残された史料から歴史を再構築する方法について講義する。その際に、例として、吉備津神社に伝わる温羅伝説を用いる。(志野 敏夫) (志野 敏夫)
7 回	引き続き、残された史料から歴史を再構築する方法について講義する。その際に、例として、吉備津神社に伝わる温羅伝説を用いる。またさらに、「桃太郎説話」とからめるとどのように考えられるかを講義し、歴史の多様性について理解を深める。(志野 敏夫) (志野 敏夫)
8 回	改めて、歴史を勉強する意義について討論を行う。 (志野 敏夫) (志野 敏夫)
9 回	考古資料と文献史料それぞれの特性について、討論形式で考察し、その双方にもとづいて歴史を探る方法について講義する。(山形真理子) (山形 真理子)
1 0 回	考古資料を実際に扱う実習 (縄文土器の拓本実習) を行う。(山形真理子) (山形 真理子)
1 1 回	前回到引き続き、考古資料を実際に扱う実習 (縄文土器の拓本実習) を行う。(山形真理子) (山形 真理子)
1 2 回	各人が調べてきたことをもとに、岡山県内の遺跡について紹介する。(山形真理子) (山形 真理子)
1 3 回	前回到引き続き、各人が調べてきたことをもとに、岡山県内の遺跡について紹介する。(山形真理子) (山形 真理子)
1 4 回	残された遺跡と遺物から歴史を再構築する方法について講義する。その際に、例として、弥生墳丘墓から前方後円墳の成立までの過程について講義する。(山形真理子) (山形 真理子)

15回	改めて、歴史学としての考古学を勉強する意義について討論を行う。（山形真理子） （山形 真理子）
-----	--

回数	準備学習
1回	「歴史学」「考古学」「民俗学」ということばについて調べておくこと（標準学習時間60分）
2回	各自「歴史とは何か」について考えておくこと。（標準学習時間90分）
3回	前回の講義を踏まえて、「歴史とは何か」について考えておくこと。（標準学習時間90分）
4回	各人の居住地の地名について調べておくこと。（標準学習時間120分）
5回	前回講義を踏まえ、各自のレポートについて再考しておくこと。（標準学習時間120分）
6回	吉備津神社について調べておくこと。（標準学習時間120分）
7回	陰陽五行説について調べておくこと。（標準学習時間120分）
8回	これまでの講義、討論、レポートを再度確認しておくこと。（標準学習時間90分）
9回	考古資料と文献史料の違いについて調べておくこと。（標準学習時間90分）
10回	拓本とは何か、情報を集めておくこと（標準学習時間90分）
11回	拓本を採った土器資料について調べておくこと（標準学習時間90分）
12回	各人が岡山県内の遺跡を一つ選び、その概要について調べておくこと。（標準学習時間120分）
13回	前回講義を踏まえ、各自のレポートについて再考しておくこと。（標準学習時間120分）
14回	弥生墳丘墓と前方後円墳について調べておくこと。（標準学習時間90分）
15回	これまでの講義、討論、レポートを再度確認しておくこと。（標準学習時間90分）

講義目的	歴史・考古・民俗学を学び研究するに際し、必要で不可欠な基礎的な知識と方法、および基本的スキルを、自ら実践することで習得することを目指す。（社会情報学科の学位授与方針項目B、C、Dにもっとも強く関与する）
達成目標	歴史学・考古学・民俗学という学問について基礎的な知識を身につけている。 歴史学の研究方法を理解することができる。 考古資料の特性を理解することができる。
キーワード	歴史学、民俗学、考古学
成績評価（合格基準60	志野：討論における論理性・妥当性（40％）、レポート（60％）で評価する。 山形：討論における論理性・妥当性（30％）、提出課題（20％）、レポート（50％）で評価する。 総合して全体の60％以上で合格とする。
関連科目	志野：東アジアの歴史、歴史学、歴史資料解析、外国史（B2） 山形：遺跡と遺物、遺跡遺物情報解析
教科書	特に無い
参考書	各授業の時に指示する
連絡先	志野：A1号館6階 山形：A1号館7階
注意・備考	・この講義ではアクティブラーニングを促すためグループディスカッションを行う。 ・レポートなどは、グループディスカッションなどの中でフィードバックしていく。 ・講義中の録音／録画／撮影は他の受講者の妨げにならない限り自由とするが、他者への再配布（ネットへのアップロードを含む）は禁止する。
試験実施	実施しない

科目名	ビジネス実務演習（FIV6Z310）
英文科目名	Exercise of Business Practice
担当教員名	菊池啓子＊（きくちひろこ＊）
対象学年	3年
開講学期	秋学期
曜日時限	集中講義 その他
対象クラス	社会情報学科
単位数	2.0
授業形態	演習

回数	授業内容
1回	オリエンテーション
2回	キャリアとは何か。キャリアデザインと就職活動のポイントを考える
3回	自己理解 自分の特徴を知る 長所と短所の考え方
4回	自己理解 自分の経験を整理する
5回	自己理解 自分の行動特徴を考える
6回	自己理解 価値観の明確化と、職業・企業選択との関係について
7回	自己理解 自分の興味の方向性を考える
8回	自己理解 モチベーション特性と職業・企業マッチングのポイントについて
9回	演習 就職サイトの効果的な使い方
10回	演習 企業情報の読み解き方
11回	演習 自己PRの作成
12回	演習 面接対策
13回	ストレスマネジメント ストレスについて
14回	ストレスマネジメント 具体的なストレス対処法
15回	ストレスマネジメント 具体的なストレス対処法
16回	1回～15回までの総括を行い、最終評価試験を実施する。

回数	準備学習
1回	自分なりのキャリアデザインを漠然でいいので考えておくこと（標準学習時間90分）
2回	各回のテーマで学んだことを、次回講義までに実践をする。毎回講義開始時にそれをグループで共有（標準学習時間90分）
3回	各回のテーマで学んだことを、次回講義までに実践をする。毎回講義開始時にそれをグループで共有（標準学習時間90分）
4回	各回のテーマで学んだことを、次回講義までに実践をする。毎回講義開始時にそれをグループで共有（標準学習時間90分）
5回	各回のテーマで学んだことを、次回講義までに実践をする。毎回講義開始時にそれをグループで共有（標準学習時間90分）
6回	各回のテーマで学んだことを、次回講義までに実践をする。毎回講義開始時にそれをグループで共有（標準学習時間90分）
7回	各回のテーマで学んだことを、次回講義までに実践をする。毎回講義開始時にそれをグループで共有（標準学習時間90分）
8回	各回のテーマで学んだことを、次回講義までに実践をする。毎回講義開始時にそれをグループで共有（標準学習時間90分）
9回	各回のテーマで学んだことを、次回講義までに実践をする。毎回講義開始時にそれをグループで共有（標準学習時間90分）
10回	各回のテーマで学んだことを、次回講義までに実践をする。毎回講義開始時にそれをグループで共有（標準学習時間90分）
11回	各回のテーマで学んだことを、次回講義までに実践をする。毎回講義開始時にそれをグループで共有（標準学習時間90分）
12回	各回のテーマで学んだことを、次回講義までに実践をする。毎回講義開始時にそれをグループで共有（標準学習時間90分）
13回	各回のテーマで学んだことを、次回講義までに実践をする。毎回講義開始時にそれをグループで共有（標準学習時間90分）
14回	各回のテーマで学んだことを、次回講義までに実践をする。毎回講義開始時にそれをグループで共有（標準学習時間90分）
15回	各回のテーマで学んだことを、次回講義までに実践をする。毎回講義開始時にそれをグループで共有（標準学習時間90分）
16回	1回～15回までの内容をよく理解し整理しておくこと（標準学習時間90分）

講義目的	就職活動に必要なスキルを身に付け、自分で考え、後悔のない進路選択をするための知識を身に付
------	--

	ける。（社会情報学科の学位授与方針項目CとDとEにもっとも強く関与する。）
達成目標	適切な自己PRができる。自分と仕事・企業とのマッチングのポイントを明確にできる。
キーワード	就職活動、企業選択、自己理解、自己PR、ストレスマネジメント
成績評価（合格基準60	授業の中で実施する課題やレポート（50％）、最終評価試験（50％）によって評価する。
関連科目	ビジネス実務総論、キャリアデザイン
教科書	1週間で完成！内定獲得できる本/ 菊池啓子著/祥伝社/4396614071
参考書	授業の中で紹介する。
連絡先	山口研究室 A1号館 7 階
注意・備考	実務士資格「情報処理士」「上級情報処理士」「ビジネス実務士」の認定科目である。レポート課題のフィードバックは講義の中で適宜実施する。
試験実施	実施する